

外部評価報告書

平成21年度

佐賀大学経済学部

はしがき

本報告書は佐賀大学経済学部の平成 21 年度外部評価報告書である。外部評価の実施は3度目であり、今回は、学部の社会貢献活動を中心に評価をお願いした。

大学における社会貢献活動は、大学の主たる任務である教育、研究、社会貢献のうちの一つとして位置づけられているが、元来が教育と研究に重点をおいてきた大学にとっては自覚的に取り組み始めたのは比較的新しい事業分野であるといえる。ところが、法人化という大きな変化を経験した国立大学にとっては、この社会貢献という事業分野は法人化を境にとくに変化し、進んできた、また進めねばならない分野であると位置づけられている。

以上が本年度の外部評価のテーマとして学部の社会貢献活動をとりあげた理由である。今回外部評価委員としてご協力いただいたのは、行政の分野から、佐賀県統括本部政策監宮崎祐弘様、経済界から佐賀県経営者協会参与 青山祐二様、のお二人である。ご多忙の中、事前に多くの資料に目を通していただき、貴重なご意見をいただいた外部評価委員のお二人には心から感謝申し上げたい。ご意見を今後の経済学部の運営の改善に役立ててゆく所存である。

また、本報告書が学内外の多くの方々の目に触れ、忌憚のないご意見が寄せられることを期待して、はしがきとしたい。

佐賀大学経済学部長

富田義典

目 次

1. 佐賀大学経済学部外部評価委員会出席者	3
2. 外部評価委員会日程	4
3. 外部評価委員会配布資料	5
4. 外部評価委員会記録	6

(資料)

1. 佐賀大学経済学部の地域貢献：地域経済研究センターの活動	4 1
2. 佐賀大学経済学部の地域貢献の現状について	4 5
～地域経済研究センターの事業について～	

1. 佐賀大学経済学部外部評価委員会出席者

佐賀大学経済学部外部評価委員

委員 青山 祐二様 佐賀県経営者協会参与
委員 宮崎 祐弘様 佐賀県統括本部政策監

佐賀大学経済学部

学 部 長 富田 義典教授
副学部長 山下 寿文教授
評価委員 納富 一郎教授
評価委員 檜澤 秀木教授
国際交流室長 ラタナーヤカ・ピヤダーサ教授
地域経済研究センター長 長 安六教授
地域経済研究センター副センター長 戸田 順一郎准教授
地域経済研究センター 池田 智子助手
事 務 長 橋本 輝夫
総務係長 伊東 由美

2. 外部評価委員会日程

1. 日 時 平成22年12月10日（金） 13時～15時
2. 会 場 経済学部125番演習室

【次 第】

司 会 檜澤 秀木教授

1. 出席者紹介
2. 学部長挨拶
3. 経済学部地域経済研究センターの活動内容
報告者 戸田 順一郎准教授
池田 智子助手
4. コメント 青山 祐二様
宮崎 祐弘様
5. 質疑応答
6. 経済学部の社会貢献について（富田 義典学部長）
7. 経済学部の国際貢献（ラタナーヤカ・ピヤダーサ教授）
8. 質疑応答
9. 全体としての意見（経済学部に望むこと）
青山 祐二様
宮崎 祐弘様

終了

3. 外部評価委員会配布資料

1. 佐賀大学経済学部地域貢献：地域経済研究センターの活動
2. 佐賀大学経済学部地域貢献の現状について
～地域経済研究センターの事業について～
3. 地域経済研究センターリーフレット
4. 国際貢献について



外部評価委員会の様子

4. 外部評価委員会記録

○司会（樫澤教授）

では、これから本年度の経済学部外部評価委員会を行いたいと思います。私は司会を仰せつかっております樫澤と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、最初に出席者紹介ということで、どういうふうにいきましょうか。

○富田学部長

私が紹介しましょうか。

どうも、皆さん、きょうは大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。経済学部長の富田でございます。私が紹介いたします。

大学側から副学部長の山下でございます。

それから隣は、きょうテーマにします地域経済研究センターのセンター長の長でございます。

副センター長の戸田准教授です、まだ若いですがけれども。

それから、地域経済研究センターで専任で助手をしていただいている池田助手です。

それから、国際交流室を今年からつくりまして、その室長のラタナーヤカ先生です。

それから、何と紹介すれば一番いいのかな、前学部長なんですけど、出ていただいた理由が、特に地域経済研究センターの将来構想みたいなのを考えようとしていて、それのとりまとめをお願いしているものですから、前学部長の納富先生にも出ていただいたということです。

樫澤教授は司会です。

それから、外部の評価委員として、佐賀県経営者協会の青山さんです。

それから、県のほうから県の統括本部の宮崎さんです。

ちょっと前後しましたが、経済学部の事務長の橋本です。

経済学部総務係長の伊藤です。

○司会（樫澤教授）

では、また引き続きですがけれども、富田学部長のほうからあいさつをお願いします。

○富田学部長

手短にごあいさつ申し上げたいと思います。

経済学部の外部評価はこれで3回目になります。年に1回、大学外部の方からの評価を受けなさいということで、設置基準と言われている大学を律する法

律によって義務づけられているものではあるんですけども、ことし3回目で、経済学部为社会貢献ということをテーマに評価をしていただくということにいたしました。それでお二人においでいただいて御協力願っているということでございます。もちろん、そういった義務づけられたものではあるんですけども、内容に関しましては、我々は常に、どの団体においても同じですけど、改善、改良を重ねていかなければならない組織で、忌憚のない御自由な御意見をいただいて、それを今後の学部の運営に生かしていこうというふうに考えておりますので、本日はぜひ率直な御意見をいただければというふうに考えております。簡単ですけど、このぐらいで私のあいさつとさせていただきます。

○司会（樫澤教授）

では、早速ですけども、戸田副センター長に概略の説明をお願いいたします。

○戸田准教授

戸田と申します。よろしくお願いたします。

お手元に資料が、私の報告用のレジユメの、報告用資料としましてA4の3枚のホッチキス留めの分と、あと冊子になっております「佐賀大学経済学部地域貢献の現状について」というこの2つをお手元にお置きいただきましてお願いしたいと思います。基本的にはレジユメに沿ってお話させていただきたいと思っております。

佐賀大学経済学部の地域貢献ということで、私の仰せつかった役割としましては、当学部の地域経済研究センターの活動、とりわけ私はまだこちらに赴任して5年ですので、近年の活動を中心にお話をさせていただきたいなと思っております。

本報告の概要としましては、大きく分けて2つになっております。メインは、2と書いておりますところの「地域経済研究センターの活動と地域貢献」ということで、どのような活動をしているのかということをお紹介させていただきたいと思っております。前半3分の1ぐらいで、その前に、「国内大学における地域経済研究機関」ということで、その参考文献にあります大学の社会貢献に関する調査研究という、名字が同じなんですが、全く関係ない広島大学の先生なんですが、この人たちのグループが大学の地域貢献、社会貢献について、とりわけ文系学部、人文社会学部の取り組みを中心にこういった先行研究がございまして、それをもとに当学部の地域経済研究センターを考える上で参考になるようなことを前半3分の1で紹介させていただきたいと思いま

す。続いて、その2ということで、地域経済研究センターの活動と地域貢献ということでお話をさせていただきます。

まず、その前半の、国内における地域経済研究機関というところなんですけれども、お話は3つありまして、一つは、大学における地域貢献、社会貢献というのは、これも非常にオーソドックスな整理なんですけれども、2つあるんだと。一つは創業型、もう一つは支援型としてこの人はラベルをつけてまとめているんですけれども、創業型というのは、大学が持つ技術シーズや人材、研究開発機能やビジネスのノウハウを生かして新規事業の創出や既存事業の展開を図り、地域産業振興への貢献を進めることということで、主に理工系、対象は企業、産学連携、我々の大学におきましては産学連携推進機構等が担っている分に当たると思います。

もう一つの支援型、これはどういうことかということ、地域が直面している社会問題、経済問題、環境問題、教育問題など多様な問題について、大学が有する人材（専門家としての教官や学生）や知的資源を生かして調査研究を行い、問題解決のための知恵を地域社会に提供することとして、主に人文・社会系、対象相手は自治体だとか市民だとかが主な対象となるんだということ、地域経済研究センターというのは、この後者に大きな役割の一つがあるんだらうなと考えております。

2つ目が地域経済研究機関、国内の多くの大学でこういったタイプの研究機関、研究組織を抱えているんですけれども、設立の経緯・目的によって大きく3つに分類できるんだと、ここではされております。

1つ目が、資料室の機能を発展させて設立されたものということで、今日でちょっと名称、組織変更があるみたいなんですけれども、大分大学経済学部の経済研究所だとか福島大学の地域研究センター。こういった地域経済研究機関の中では比較的歴史が古いものでありまして、特に地域の資料収集というのを出発点として今日こういった組織として残っているタイプが1つ目であるということです。

2つ目は、大学研究者の共同研究の場として設立されたものということで、これも中は幾つかのタイプがあって、1つは地域的研究課題への研究活動の強化をねらってつくられたもの。具体的には、研究対象が組織名についているものというのがこれに当たります。富山大学の環日本大学海地域研究センターだとか、島根大学の汽水域研究センターだとか、就実女子大学の吉備地方文化研究所とかが挙げられておりました。

もう一つが、学内だとか学部内における共同研究者の共同研究の円滑化を念頭に置いてつくられたものでして、下関市立大学の産業文化研究所とか、広島大学の地域経済システム研究センターなどが当たります。佐賀大学の地域経済研究センターというのは、この最後の部分が担っている役割の一つだと考えております。

3つ目が、大学の地域貢献を具体化したものとして、一つは地域連携を重視する大学の意思表示ということで、近年設立された大学、地方大学にこのタイプの地域経済研究機関が多いそうです。近年設立された国公立大学などというのが、こういったタイプの研究組織を抱えていることが多いということでした。

もう一つが、地域社会との連携、協力の窓口ということで、広島大学の地域連携センター、多くの国公立大学が近年新たな形で設立されているタイプの組織はこの2番目、地域と大学との窓口の役割を担うことを目的として設立された研究センターであります。

最後に、とはいえ、国内の大学における地域経済研究機関にはいろんな面で多様であるんだということです。組織形態も経済学部などの学部附属する機関から全学に附属するタイプの機関、組織形態もあるし、あと研究スタッフに関して見ても、これは研究機関の規模によるところが多いんですけども、専任、専属の研究員がいたりいなかったり、専任の事務職員がいたりいなかったりということで、これもいろんなバリエーションがあります。もう一つは、研究活動費に関して、外部の科研だとか寄付だとか、外部の資金に依存しているところから学内の経費が充てられているところまで、ここについてもバリエーションがあるんだということです。

以上が前半、国内大学における地域経済研究機関ということでお話ししました。それらを踏まえまして、佐賀大学経済学部の地域経済研究センターの活動と地域貢献ということでお話を進めさせていただきたいと思っております。

詳細は手元の資料と、あと地域経済研究センターのリーフレットをおつけしているんですけども、設立は1989年で、研究・教育の成果を地域に公開するとともに、地域社会と協力して研究・教育を発展させることを目的として設立されたとあります。

佐賀大学地域経済研究センターの地域貢献なんですけれども、当センターの特徴としましては、そこに大きく■で2つに分けておりますとおり、研究面での地域貢献と研究面以外での地域貢献の双方を担っているというところがこのセンターの特徴であると考えております。したがって、その2つに分けて

今から中身についてお話させていただきたいと思います。

まず、研究面での地域貢献なんですけれども、柱が大きく2つございます。一つはオーソドックスな地域に関する共同研究、受託研究をいろいろな形で請け負っているというものであります。配付資料の1ページから4ページに設立以来の地域に関する共同研究、受託研究を載せたものがございます。レジュメのほうには近年の、しかも中でも受託研究として受けたものの主なものを載せております。〔 〕の中にあるのが委託先であります。「中原町観光資源利活用調査」といった中原町からの委託でありますとか、佐賀県からの「人口減少社会における社会資本整備手法のあり方に関する研究」、有田町からの「“食”と“農”による地域づくり事業の推進に伴う総合研究」、佐賀県中小企業団体中央会からの「佐賀県内中小企業の経営課題に関する実態調査」、佐賀県機械金属工業会連合会からの「佐賀県機械金属関連工業に関する実態調査」ということで、受託元はこのように佐賀県、及び県内の自治体、もしくは県内の団体となっております。

委託の調査の入り方としましては、いろいろあるみたいなんですけれども、委託先から直接学内の教員のほうに入る場合ですとか、学内の窓口でありますところの産学連携推進機構等に入ってそこから教員に入る形などいろいろあるようでございます。中に入って、その中で受けてから学内の研究者が、複数で、この多くは複数の教員でやっておりますので、学部内及び経済学部外の教員と複数でチームを組んで研究に当たっていくスタイルをとっております。これが1つ目の受託研究、共同研究でございます。

もう一つの柱が地域経済研究会というものでございまして、これは資料の8ページから17ページに詳細が書かれております。佐賀県内における地域経済問題に関する情報交換、研究を行うことにより、地域の振興に寄与することを目的に、1989年に発足いたしました。現在の構成員は県内9市の企画担当課、民間企業、佐大教員等によって構成されております。

実際に中で研究会を通して行っていることは二つございまして、一つは配付しております資料にタイトルがついておりますとおり、年間6回程度の研究会を開催しております。年間テーマを設けて、それに沿った形で研究会を開催しております。今年度の年間テーマは「人口減少における地域産業」となっております。その年間6回のうちの1回を公開研究会という形で外部に公開した形でシンポジウムを開催しております。資料には過去5回分の公開シンポジウムのタイトルを載せております。「人口減少時代の到来と地域経済」、「地方にお

ける大学の役割～地域に求められる文系学部のセンターとは～」、「食と農から探る地域の活性化」、「佐賀県の陶磁器産業～佐賀のやきもの再発見!～」、「佐賀県の茶産業と茶文化」ということで年1回開催しております。

それとは別に、もう一つ、地域課題調査ということも行っておりまして、これは研究会のメンバーに県内の自治体の企画担当課の方がおられますので、その方々を中心に、その方々からその自治体内における地域課題、できればほかの県内自治体とも共有できるような地域課題を提案していただきまして、年間1テーマを選び、2年間の研究期間を設けて研究を進めるというものです。年間1テーマを2年間ですので、常に2つのテーマが同時に走っている状態になっております。始まってまだ3年半ですので、3つのテーマしかないんですけども、鳥栖市から提案されました「学校給食における地産地消のあり方について」、唐津市から提案されました「合併後の新市における都市機能の整備と機能分担について～定住自立圏構想『唐津モデル』推進のために～」、嬉野市から提案されました「『温泉』・『食』・『文化』を併せ持つ観光地の構築」ということで、現在はその下の2つが現在進行中で研究を進めている途中でございます。

最後、もう一つの、研究面以外での地域貢献としまして、2つそちらに代表的なものを載せております。

一つが学生への地域教育、学生の地域活動支援ということで、「ウォッチング佐賀」という活動を行っております。これは資料に具体的に主なテーマとして載せておりますとおり、特に学生なんですけれども、学生を学外授業ということで外に連れて行って学習をするということの企画をしております。そもそもは佐賀大学の学生というのが遠方から来ている学生も多いんですけども、大学と自宅とバイト先ぐらいを行き来するだけで、地域のことをなかなか知る機会がないということで、そういった学生に対して地域のことを知ってもらおうというのがきっかけでスタートした企画でございます。

もう一つが、今度対象が市民になるんですけども、市民への生涯学習支援としまして、「みんなの大学」という公開講座を設けております。2010年度は佐賀大学の図書館と鳥栖の中央公民館を会場に週1回、前期、後期10回ずつ、佐賀に関しては人数が多くて午前午後の2部制で開催しております。基本的には佐賀大学の教員、あと外部の方が講師となって公開講座という形で行っております。これも形を変えながら長年にわたって続いていることでございます。

私のほうからの報告は以上であります。

○司会（樫澤教授）

じゃあ、引き続きまして、池田助手のほうから補足をお願いいたします。

○池田助手

まず、きょうの、先ほど戸田先生が説明されたこの2枚のレジュメの2ページの一番上に「地域経済研究機関には以下の点において多様」とありますけれども、本センターは組織形態としては学部附属機関で、研究付託としては専任の研究員がなくて、経済学部の先生方がみなスタッフということになっています。専任の事務職員の有無は、私、助手の池田が専任としてあそこの運営のお手伝いをしています。研究活動費としては、学内経費が主な経費になっています。その中で地域貢献ということで、このリーフレットにもありますように、何回かの改組をこのセンターの中でも加えて、今は調査研究事業部と社会連携事業部、情報化事業部の3本の事業部で活動しています。研究に関しては、先ほどのように研究員の専任がいませんので、それぞれの先生方がいろんなところから依頼を受けたものについていろんなお手伝いをしながら、こちらの研究面での地域貢献ということでリーフレットに上げさせてもらっています。

佐賀地域経済研究会員におきましては、自治体の会員さんもどんどん入っていただいて、最初の旧7市から今は9市で、あと神埼を入れれば全10市になりますので、まず10市そろって参加をいただきたいということと、始まりが行政の方の地域課題について何かできないかということから始まりましたので、今でも行政の方の地域課題についてを掘り下げてやっていきたいということで、2年前から地域課題調査としてまた個別な調査もするようになりました。

特にことは、来年の1月19日に「佐賀県の茶産業と茶文化」のシンポジウムをしますが、これはちょうどことしの地域課題が3ページの一番上にありますように10年度、11年度の地域課題調査が嬉野から上がりました温泉食文化を「『温泉』・『食』・『文化』を併せ持つ観光地の構築」ということになっていますので、それにあわせて実施するようにシンポジウムのテーマを決めたことと、「ウォッチング佐賀」でも、今53回目まで書いてありますが、この54回目、1月14日には、シンポジウムでお話を聞く前に、それぞれの県内のいろんな茶業試験場とか西九州茶業組合連合会とか、いろんな嬉野のお茶産業にかかわるようなところにも現地に出向いてお話を聞く予定にしています。限られた人数でやっていますので、こういうふうに、少し、1つのことをいろんなところからアプローチしていくようなやり方も考えているところです。

「ウォッチング」に関しましては、学生主体に始めましたけれども、地域貢

献として市民のレベルでもということ、別に市民版とか高校生版というものもやっていたんですが、先ほどの公開講座の「みんなの大学」がおかげさまでたくさんの人に来ていただいている、これも座学だけじゃあんまりおもしろくありませんので、何か特徴をとということで、こちらにも実地研修を年に2回以上は入れるようにしています。これを「ウォッチング佐賀」の市民版ということ、これを別に設けずに、この公開講座の中で市民の方への実地研修を行っています。

それと公開講座につきましては、ちょっと大学の雰囲気ということで前期と後期に10回ずつと夏休みを設けていますが、これは受講生、嬉野とか鹿島、伊万里市あたりからも来ていただいているんですが、おおむね佐賀市民の方が多いですけれども、そういう市民の方とのつながりを持つことと、あといろんな講座を持つことで、いろんな地域の団体の方、逆に講師にお願いする方が所属しているいろんな地域の方とのつながりも強めていくことを一つ挙げています。特に今年度は単発ではなくて5回シリーズですずっとやっていたので、5回ごとにNPOの方だとか、いろんな地域で活躍されている団体の方と一緒に5回シリーズの講義をさせていただきました。鳥栖の場合も鳥栖市教育委員会の方に共催していただいて、大学の取り組みを理解していただくようにしています。

以上です。

○司会（檜澤教授）

以上の概略の説明ですけれども、外部委員の青山様、宮崎様のほうから何かコメント、あるいは疑問等ございませんでしょうか。

○青山委員

この資料を見せていただいて、非常に我々が想像した以上に活動内容が多岐にわたって、また非常に厚い、いろんなことをやっているんだなということ、認識を新たにしたところが多々あります。

私は、この地域経済研究センターというのはシンクタンクじゃないかという程度の認識しかなかったものですから、現実にはいろんな企業であるとか視察を試してみたり、特定のテーマを受託ではなくて自立した事業としてやってみたりというのは初めて見ましたので、随分いろんなことをやっているんだなという気がいたしました。そういったことを積み重ねることによってやはり社会の認識度というのが高まっていくのではないかということで、感銘というか、認識を新たにしたところでございます。

そもそも地域経済研究センターというのは、全学でも連携のシステムがある

ようですけれども、これが学部にあるというのが意味がよくわからなくて、これは佐賀経済調査協会がなくなって、シンクタンクというのは佐賀県内では多分これだけだろうと思うので、例えば、自治体等、あるいは団体等の受託研究なんかになってくると、むしろ全学的な研究者の知恵をお借りするというようなことにもなるんですね。この地域経済研究センターが学部にあるというのは、発足時からの問題なのかもしれませんが、ちょっと全学的な組織でもいいんじゃないかという、そういう感じはいたします。

それとやはり、私ども一般市民の感覚からいくと、これだけいろんな事業をやっているにもかかわらず、以外と外部に対する発信力というのが、もちろん受託研究の場合は委託者に対する報告で済むんでしようけれども、もう少し社会に対するアピール力というんですかね、そういうものをもう少し持って、いろんなことをやっているんだよということで、さらに市民の関心を呼ぶと、そういった方策も必要じゃないかなと。今聞いて今意見を言っているわけですからわけわからんところありますが、率直にその程度の感触は持ちました。

○司会（檉澤教授）

ありがとうございました。宮崎様のほうから何か一言ないですか。

○宮崎委員

私も今説明を聞きながら、自分をお願いしたのもあるなと思いながら、こういうことだったんだなということを改めて思ったところです。

質問みたいになってしまうんですけど、最初のほう、地域経済研究機関の累計なりあれこれお調べになって、それぞれの長所短所いろいろあるかと思うんですけれども、そういうのが端的にわかって、それを佐賀大学のこの地域経済研究機関、こういった累計や研究では恐らく長所短所あると思うんですけれども、そういったものを佐賀大学の今の機関でどのように生かされているのかということの御所見があれば、今の形でこういう欠点があって、何かそういう補いの形、何か対策とかとられていたらお伺いしたいと思います。

もう一つは、いろんな受託とか研究をされておりますけれども、いっぱい弾数というか、されていると思いますけれども、先ほど青山さんのほうから質問がありましたが、外部からはなかなか見えにくいところがありましたけど、この手ごたえというか、もう大分歴史、20年以上たちますけど、その辺というのは、存在感というか、そういう感じ方をずっとされていて、そういうものというのはどういうふうな感触を持たれているのか、その中に課題とかもし感じられているものがあればちょっとお聞きしたいなと思います。今のところ

はそういったところですが。

○司会（檉澤教授）

では、センター、あるいは学部のほうから何か、今の応答をお願いします。

○長 教授

そしたら、私がずっとこのセンターには長年かかわってきておりますので、今のお二方からの御意見、あるいは御質問等について、できる範囲内で簡略に話したいと思います。

私どもの地域経済研究センターは、先ほどの説明にありましたように、1989年4月に発足しているわけですが、実はそれと同じ時期に地域経済研究会も発足しているんですね。実はこれは、うちの経済学部で大学院の修士課程を設置することとかかかわっているわけですが、その設置に伴って、経済学部の社会人枠がございまして、夜間開講もやっているわけです。そういううちの大学院の設置と絡めてこういう地域経済研究センターをつくるということがありました。単に学内でつくる研究センターということだけじゃなくて、特に先ほどありました行政の方々との連携を図る必要があるということで地域経済研究会も同時につくりまして、当初は佐賀経済調査協会、佐経調さんがこの研究会の事務局をうちのセンターといわゆる共同というような形で、実際の実務的なことは向こうのほうでしていただいたわけですが、そういうことがありました。この会長は歴代地域経済研究センターのセンター長が会長をするという形でやってきていました。佐経調がなくなるのに伴って事務局がこちらのほうに移ってきているという経緯もございまして、そういう意味で非常に私どものセンターの設置そのものが行政とのかかわりが強い形でできています。

それで、この間何度か、先ほど池田さん、あるいは戸田先生の御説明にありましたように、組織のいろんな組み替えをやってきております。そういう中でいわゆる試行錯誤でやってきているわけですが、設置の趣旨は先ほどのとおりなんです、私たちは専任の研究者がいない中で研究者についてはほとんど兼任なんです、地域に関する調査研究というものを少ない予算の中でこれはやっぱりやっていく必要があるということ、それと財源が限られているものですから、なるべく外資導入ということで、受託研究ということに最近シフトしてきている経緯があります。

それと、社会連携ということで、御存じのように、今、社会貢献とか地域貢献というのが、特に法人化の前後から全国のかつての国立大学法人にそういう

役割が担わされてきているわけですが、私どものセンターは、実はもう発足当時からまさにそのことをずっと先行してやってきたという自負がございます。そういう中で地域との連携ということに関しましては、先ほどあったような形、「ウォッチング」というのが一つのメインでございますけれども、そういうものとか、それから学生が主体的に街中に出ているような活動をする、そういう活動の支援とか、そういうことをやってきました。

それと最近、うちも学長が昨年変わられて、佛淵学長のもとで、地域のニーズに基づくシーズの貢献ということで、そういうことを努力しろということ言われているわけですが、私どものセンターは、先ほどありましたように、地域経済研究会もそうなんですが、やっぱり地域から課題をいただいて、それに対して答えようということもやってきております。そういう意味で、先ほどの青山さんから御指摘のあったことなんですが、実は経済学部の地域経済研究センターでありながら、実質的には佐賀大学のいわゆる文系のセンターとしての役割を担ってきています。先ほど最近の受託研究ということで人口減少社会に関する県からいただいている受託研究、それから食と農に関する有田からの受託研究、これも実は、私が今年の10月から兼任ということでやっています地域貢献推進室ですね、こちらのほうに依頼があって、それを受ける機関がいるわけですが、文系は、御存じのようにこういうセンターというのは、うちと、それから歴史学部研究センター、これは全学センターですが、2つしかありません。それで経済学部のほうが窓口になりまして、調査していただく方々については全学部、ほかの学部の先生方にもお願いしてという形をとってきています。そういうことで、やっていることは決して学部の中でやっているわけではなくて、受託研究等々につきましては、全学部のほかの先生方に協力をいただきながらやってきております。

それから大学の役割ということで、先ほども報告がありましたけれども、2007年7月に私ども佐賀地域経済研究会シンポジウムを開きまして、きょうここにおいでいただいている青山さんにも実はパネラーになっていただきまして、大学の中での文系センターというもののあり方と、私どもの将来のあり方ということも念頭に置きながら御意見をいただいた経緯があります。そういうことで、今後とも経済学部のセンターでありながら、実質的には佐賀大学の中の唯一の文系の研究センターとして、そういう役割を担っていく必要があるんじゃないかと思っておりますし、それから、今私がもう一つしています地域貢献推進室があり、さらにもう一つ理系のほうは産学官連携推進機構というのがございませ

て、先ほどの戸田さんの創業型と支援型という説明でいうと、まさにこちらは支援型そのもので、地域貢献推進室はどちらかという支援型で、他方、創業型が産学官連携推進機構です。これにつきまして、外部からやっぱり見えにくいということがありまして、一本化しようということで、実は、つい先週でしたか、拡大役員会がございまして、この組織を一本化して、外部とのいろんな協議会もありますけれども、これも一本化しようという、そういうことが議論されたおります。これは全学的にもやはりそういう形で、今の地域課題というのは理系だけでやるとか農学部だけでやるとかそういう問題じゃなくて、むしろ総合的に対応しないといけないという状況がありまして、そういう形をしております。そういう中で、私は地域経済研究センターがやってきたこれまでの役割といたしますか、実績といたしますか、それから地域経済研究会もそうですね、この役割は非常に大きいとっていて、それを大学の全学の中にどういった形で担っていただくようにするか、それが今後の課題かなというふうに思っております。少し言い落としたところがあるかもしれませんが、今そういう状況です。

○司会（檜澤教授）

今の御意見を聞いていて、何か戸田先生、補足でもいいですよ。

○戸田准教授

大丈夫です。

○司会（檜澤教授）

じゃあ、宮崎様、青山様のほうから何かありませんか。

○青山委員

要は、今、長先生の話でよくわかったんですが、経緯とかね。ただ最後に私が申し上げた、いわゆる情報発信力というのが今、非常に問われているんですよ。確かに学内のコンセンサスをとということで今お話があったんだけど、地域経済研究センターに限らず、よその大学は知りませんが、当大学のいろんな催し物その他が学内開催が圧倒的に多いんですよ。そして、特にこの本庄地区というのは佐賀市でもあんまり便のいいところじゃないものですからね。情報が余り入らない上に便利もよくないということになると、なかなか人を集めるにしても内容を徹底するにしても非常に大変だろうと。そういう意味では発信力をまた高めていくことが大事ではないかなというような気がするんですよ。

これは何も地域センターだけの問題ではありませんけれども、今、全国、特

に私立の大学なんかでは大学のPRということを生懸命やっていますよね。先年も、日本福祉大学というのが愛知県にあるんですけど、あそこの役員から私頼まれて、福岡にサテライトをつくりたいんだということで、一緒に福岡に行って部屋探しまでしたんです。私は博多駅とかあの辺がいいのではないかと考えたんですけど、天神のど真ん中につくりたいということで、ものすごく金かかりましたが、福ビルの中にサテライトをつくったんです。それはほかの意味があってやっていると思うんですけど、そういったことは一つの例ですけども、やはりどこの大学も大学の施策なり、こういった研究発表の場というのをどんどん表に出してきているんですよね。だからそういう意味でももう少し、半歩、一歩ですね、外に出て、こういった研究成果等についてもどんどん一般市民に発表していくというふうな情報発信力を高めるようなことを、センターだけという意味ではありませんけど、お考えになったらどうかなと思っています。

○長 教授

よろしいでしょうか。言われるとおりで、うちのセンターだけじゃなくて全学的なことなんですけれども、実は今度の組織改革の中でもそのことを意識的に取り上げています。佐賀大学のサテライトが唐津とか幾つかあります。うちも街中に私がやっている「ゆつたら〜と館」、それから駅前の中にもあります。これは佐賀市のほうでいろんな形で御支援いただいているわけなんですけれども、それで、やっぱり最低限、佐賀の街の中に大学が地域といろいろかかわってやっていること、そういうものがわかる場所をつくるべきではないかなと思います。既存のものを拡充していくとか、再生整備していく必要があるのではないかなということで、それを産学連携のほうとも一体化した形でどう実現するかというのを今考えています。

それと、6者協定というのを私たち文系のサイドでつくっているわけなんですけれども、産学官のほうにも同じような機関、これを一つにしながら、そういう大学が地域と産官学民まで入れた形のいろんなことをやっているんだという、そういうものをアピールするロゴマークをつくらうということも今始めているんですけども、もう一つは、そういう館をどこかにつくる必要があるのではないかなと思っています。そういうことを実は正月に6者のトップの懇談会が予定されているので、そちらに向けて少しアピールしていこうかなと思っています。また県のほうでもよろしく御支援をお願いしたいと思います。ちょっと余談になりました。

○司会（樫澤教授）

宮崎様のほうから何かありませんか。

○宮崎委員

おっしゃるとおり、もう情報発信合戦になっていますから、どの世代もそうですけれども、ここはやっぱり常に全方位でやっていかんといかんのでしょうね。

○司会（樫澤教授）

じゃあ、そのほかのところで、情報発信以外に何かセンターの地域貢献の内容で皆様から御意見はないですか。

○富田学部長

横からいいですか。僕がこう言うのはおかしいんですけど、宮崎さんがおっしゃっていた受託研究等の手ごたえみたいなものはどうだったのでしょうか。そこら辺はどうですか。

○長 教授

受託研究については、今のところ、先ほど言いましたように、地域貢献推進室を通じて大学の窓口を一本化している関係で、そちらを通じてきて学内各所に流すほうが割と多い。もちろんそこをすべて通すということではなくて、どちらかというところ、どこに相談したらいいかわからないというのが推進室のほうに来るわけですね。そういう意味では非常に複合的な課題のものがやってきます。それについてはそのほうからしかるべきところにおろして、例えばこのセンターにおろして、そこでプロジェクトを組んでいただくというようなことをやってきていて、徐々にそういうものは増えてきているかなとは思いますが。それ以前は、個別に時たま単発で自治体から依頼がある程度のものでしたので、そのような形のもものが今後徐々に増えていくのではないかなとは思いますが。

それと、昨年、佛淵学長になられてから自分が自ら企業回りをされていることもあって、やはり地域に出向いていってちゃんとニーズを掘り起こす、一種の御用聞きですけれども、そういうことをやっぱりこれからやっていかないと、正直なところ、地域からの声がなかなか大学に届かないんですね。じっと待っているだけではだめじゃないかと考えております。

それで、これも非常に手前みそなんですけれども、地域経済研究会の場合は、先ほど報告がありましたように、研究会の中で自治体の企画担当の方から課題を出していただいて出てきたものについてやっていくという形をとっています。もちろん推進に当たっては、行政の皆さん方と協力していただいてやっていく

ような体制をやっているわけですが、まだ全学的にはなかなかそういう体制が、例えば、6者協定の場合でもとれていません。お金と人と、そういうものを出して依頼、つまりお金を出していただかないとやれないというような形になってなかなか課題は出てこないんですけれども、そういう意味で、うちがやってきた経験とかそういうノウハウというのを全学的な体制の中にどう生かしていくかという、そういうことが必要かと思います。そういう意味で先ほど青山さんから御指摘いただいたんですけれども、経済学部の中のセンターという形式は、これはうちの学部のほうにいろんなこともありますので、今後ともそういう形が望ましいかなと思うんですけれども、でもやっぱり全学の中で文系のセンター、ここが全学的なことを担っていくという、その辺のところは非常にこれからは重要になっていくのではないかなと思っております。

○司会（檉澤教授）

ほかにないですか。あと、研究面以外での地域貢献の部分とかでは御意見はないですか。公開講座であるとか、あるいは学生を地域に連れ出すというようなことについてはどうですか。

○宮崎委員

学生さんを連れて行かれて、これはただ見るだけですか。その後何かレポートとかはあるんですか。

○戸田准教授

それはある場合とない場合とがあるんですけれども、見るだけの場合、事前学習というのをくっつけて見る場合が多いです。それは必ずほぼ毎回、その別の日をとる場合もあるし、当日事前学習会をした後で見に行く場合もあるんですけれども、その後、さらに課題レポートを書かせることもあります。そうですね、それはケース・バイ・ケースです。

○長 教授

感想程度のものですね、普通のレポート用紙でいうと、1枚か2枚程度のものは出してもらうような形でやっていますけれども。

○宮崎委員

単位とかは全く関係ないんですか。

○戸田准教授

関係ないです。

○司会（檉澤教授）

私がついでに言うのもちょっとはばかられますけれども、例えば、市民版の

場合には一般の市民の方にも感想文を書いてもらいます。それから、高校生の版のときには高校生にも書いてもらいます。

○青山委員

そういった市民にしても学生にしても、参加者の顔ぶれというか、何か200円とか500円であちこちにいろいろ行っているようですけども、固定はしていないですか。いつも来る人は同じような人ばかりだなとか。

○司会（檜澤教授）

池田さん、どうですか。

○池田助手

学生に関しては、やはりなかなか情報発信というのがうまくできていないところがありまして、やはりここのセンター関係の主任の先生方の学生が中心になることは多いです。市民版に関しては、公開はしていますけれども、私としてもある程度確実に参加を見込めるということで、公開講座に来ている方にお声かけをするということはよくあります。

○長 教授

公開講座が、私も全学の推進室をやっていて、推進室の役割の一つに公開講座があるんですね。それで毎年各学部の先生方から手を挙げていただいているんですけど、なかなか人の確保が難しく、定員割れしているところが結構多いんです。ただ、うちの池田さんとか、いわゆるうちのセンター絡みでやっているものについては、ほとんど定員オーバーという状況です。それは一つやっぱりやり方がありまして、年間を通じた、いわゆる「みんなの大学」スタイルで講座をいわゆる20講座ぐらい設けて、講師の方をいろんなテーマで入れ替えていくという、そういうスタイルなんです。その他の場合は何か1週間とか3日とかある時期に単発でやる。そういうことで、なかなか情報が皆様方に伝わらないというのがありますね。それでうちのやり方を推進室のほうでも参考にして3年前からでしたか、私がアドバイスして、佐賀大学の公開講座を前年度末に全部次年度の計画を企画しあげて、4月にはリーフレットをつくってあちこち配るといった形をとったりしています。そういうことで、情報をどうちゃんとニーズのあるところに届けていくかというのが非常に大きな課題ではありますですね。

○青山委員

県がやっている老人大学ですか、高齢者大学かな、随分希望者が多いらしくてね。

○長 教授

そうです。もうあふれていますよね。あふれた人たちが実はこういうところに入ってこられるという状況がございます。

○青山委員

どこが違うんですかね。

○長 教授

そうですね、少なくとも発信の問題があるんじゃないですかね。「みんなの大学」は学内でもやってもオーバーして、なかなか希望者全員を受け付けるということができない。私が推進室のほうでやっている、街中の街角大学も同じことなんですけれども、はるかに定員をオーバーする人たちの申し込みがあっている状況です。

○宮崎委員

1回乗るとそうなるんでしょうね。その何かに、回転にね。そこに乗せる秘訣があれば。

○青山委員

卒業式か何かはちゃんと知事さんが出てきて卒業証書を渡していますよね。

○宮崎委員

あれは恐らくそういうものがあるのかなと思うんですね。そういうのが回っていくと自然に行くんでしょうけどね。

○青山委員

同窓会が楽しみね。

○富田学部長

僕は公開講座なんかでしゃべっている側なんですけど、ことしもここに座っている山下先生とか納富先生なんかと一緒に、テーマはそれぞれの専門でしゃべったからあまり統一性はなかったと思うんですけど、五、六人で1セットやったんです。たまたま僕がやったのが時間もなくて非常に細かいデータをずっと1時間近くちょこちょこしゃべるような内容で、これはもうちょっとちゃんと準備をしてすっきりした話にすればよかったなとしゃべりながら思ってたんですけど、お年寄りというか高齢者の方が多かったというのもあって、若い人たちの雇用問題というのをしゃべったので、今問題になっていることだからかもしれないけど、すごく話の内容の割には反応がよかったです。結局、答えているともう時間がいっぱいになって、それもウイークデーにやったから、もう次に僕はどこかに行かなきゃいけないので、ほとんど質疑も何もできない

ような状態でした。僕がしゃべり過ぎたんですけど、とにかく反応がすごくよくて、大学に少し慣れていらっしゃるなという感じもしました。わからないところとかすぐ聞いてもらえるという雰囲気ができているような感じの中でやったというのがあって、だからある程度慣れているということは何度か来られているんだなという感じがしたりするから、それはある程度いいと思ったんですね。余り固定客的になるのはよくないけれども、多少大学と深い縁を持って、あんまり濃い縁になるとよくないと思いますけど、中ぐらいの縁ができるという状態で維持されているのかなというように、僕は直接コーディネートにかかわっていないのでよくは分かりませんが、そんな感じがしました。

○宮崎委員

参加型にしていくとまた大分違うんですね。会場から何か、そういう質疑とかがもっと出てきたりですね、そういうのがあるかもしれませんね。

○司会（檉澤教授）

私のほうからちょっと追加というか、自分の経験ですけれども、ことし私が話したのが9月28日で、その日は台風で大雨で学校は休校になったんですよ。ところが、このお年寄りたちは全員参加で（笑い）、「皆さん、帰りは大丈夫ですか」というぐらいのそういう状況でした。あと皆さん大変元気で、実地研修を組み込んでいるんですけれども、それにもほとんど参加されて、そして学生も一緒に行くとその学生を叱咤激励されるんですね。「あんたたちもっと勉強せいかんよ」と。その実地研修も「佐賀藩の近代遺跡をめぐる」とか「諫早湾の潮受け堤防見学」もありますけれども、ことしの企画では「ホームレスの支援」というので、実際に福岡まで行ってホームレスの炊き出しに参加されるとか、そういうのまであって、非常にうらやましい、こちらのほうが見てもうらやましいような企画があります。非常に手前みそすけれども、そういう気はいたします。

○ラタナーヤカ教授

一ついいですか。

○司会（檉澤教授）

どうぞ。

○ラタナーヤカ教授

地域経済研究センターの主な事業である「ウォッチング佐賀」を、来年10月から設立する予定である「佐賀大学国際交流センター」の教育実演のために利用することも考えています。これは、佐賀大学の日本人学生と留学生は佐賀の

文化や地域経済のことを何もわからないまま佐賀大学を卒業していますので、そのために「ウォッチング佐賀」を主な実施方法として導入することでその問題を解決することができます。その場合は学生を地域の様々な場所へ案内することだけではなく、その経験についてレポートを提出させ、単位を出すことを考えています。そうすると留学生も日本人学生も、佐賀の文化や地域社会、経済のことを学んで卒業できるのではないかと、そういうような動きが今、出てきております。

○司会（檜澤教授）

ほかに何か御意見ありませんでしょうかね。ないようでしたら、ちょうど1時間ぐらいたちましたので、ここでちょっと休憩を入れて、また再開したいと思います。

<休 憩>

○司会（檜澤教授）

それでは、休憩になったのかどうかわかりませんが、ずっと議論は続いていた気がしますけど、時間になりましたので、再開したいと思います。

それでは、次は経済学部の社会貢献と、それから、経済学部の国際貢献についてということで、富田学部長とラタナーヤカ先生にお願いしたいと思います。

○富田学部長

私から、では一言でお話申し上げたいと思います。大学は法人化されましたが、教育基本法というのも変わっていて、そう大きく変わっているわけではないんですけど、大学というのは当然学術の中心であらねばならないというふうなことと、それから、教育内容で教養と専門の能力を養うということも具体的にうたわれています。これが教育なんですけど、3つ目として、そういった知見というのを社会に提供していかなきゃならないという、一応1つの文章になっているんですけど、学術の中心であるべき研究と、それから、教養と専門の能力を付与するという教育と、それから、社会に対して知見を提供していくという、これが社会貢献に当たるもので、研究・教育・社会貢献というのは、結局箇条書きで3つ明示されているわけではないんですけど、3つの役割をはっきり果たすべきだというような教育基本法に、ちょうど法人化前後に変わったわけなんですよね。

それで、それがあろうがなかろうが、ともあれ社会と大学の関係というのはもともとどんな距離をとるといふか、どのように近づくかということが問題だったわけですから、そういう法律があろうがなかろうが、特に社会貢献をどんなふうにやっていくのかということ、ここしばらくの間非常に大きな大学のテーマになってきていて、経済学部としては、もともといろんな意図と、それから、意思を持って地域との関係を持ってきていて、それで、その中に地域経済研究センターというのがあって、これをどんなふうにするのかということ、ずっと真剣に考えてきたわけなんです。きょうも最初のところで報告してもらったように、いろんなことをやっているわけです。

ただそれが、いろんなことをやっているけど、なかなか、よくも悪くも体系化しきれていないところがあって、ある意味では、結局一体どういう方向を向いているのか、どういう方向性でやっているのかということが見えづらくなってくるといふ、これはあえて悪く言えばそういうふうな方向に——方向といふか、そういう性格を持っているけれども、しかし、活動の幅は厚いんだということが先ほど報告されたと思うんです。今後は、だから、ある程度社会貢献と言っても、もともとの大学の社会貢献では結局人材を供給するということで、それである意味では居直ってきた面もあるんですけど、そこをもう1回そこに立ち返る必要があるのではないかなというふうに思っていて、それで、3本の柱をどうやって体系化し、まとめていくかということを考えなきゃいけないということになってきているわけなんです。それを何で束ねるかというところでは、今もう既にお話が出たように、公開講座なんだけど、ある程度の濃過ぎない地域との関係、ちょうどいい、中ぐらいの地域との関係を保ちながら、それで、教育であるけれども、一緒に大学と社会の橋渡し役になっていただいて、社会教育から社会貢献のほうにつなげていくとか、あるいは大学の学生をその中に参加させていくというようなことも、これはまだ不足していると思うんですけど、公開講座に来られている方と学生との関係をつけるというようなことも、これは後からしゃべりますラタナーヤカ先生の国際貢献室なんかを軸にやろうとしていまして、そういうようにばらばらのいろんな活動が少しずつ体系化されかかっているというのが現状なんだと思っています。

その辺もこの後ラタナーヤカ先生の話の中で触れていただくことになると思います。

少し、なかなか難しいかもしれないんですけど、いろいろやっているんだけど、どういう体系化の方向があるのかとか、活動の方向性、全体としての

方向性というものをどこに持っていくのかということ念頭に置いたお話をいただければというふうに思っています。

なかなか注文するような形になって申しわけないんですけども、私からの今のところの少しまとめと、それから、今後のことについてお話をさせていただきました。

○司会（樫澤教授）

続きまして、ラタナーヤカ先生のほうから国際貢献についてお願いします。

○ラタナーヤカ教授

ラタナーヤカです。経済学部の国際貢献を一枚の紙にまとめていますが、それをもとに資料を参考にしながら詳しい内容を説明させていただきます。経済学部の国際貢献は3つのことを中心にやっております。

1つは、教育の国際化、2番目が研究の国際化、そして3番目は地域社会の国際化です。経済学部がその3つのことを具体的に実施するためには、さまざまな活動を今までやってきました。

1つの課題としてあるのは、「国際教育研究交流事業」です。それは2004年から始まりましており、この事業の内容になっているのは、今まで佐賀大学が実施してきた国際交流活動を我が学部の教育研究に利用することです。今佐賀大学は海外の130校以上の大学や学部と協定を結んでいます。これらの大学と交流をしながら、教育、研究、そして、地域社会の交流もしようということで始まったプロジェクトです。

具体的にどんなことをやってきたのかを皆様の前にある資料を参考にしながら説明します。資料1をごらんになって下さい。この資料は何を纏めているのかというと、協定を結んでいる大学の先生方を佐賀大学に招待して、我が学部と大学院の学生に集中講義をしてもらいました。最後に試験またはレポートを提出していただいて単位を出しました。講義はすべて英語で行いました。

学部学生はだいたい50人から70人ぐらい出席しております。その学生からももちろん評価もいただいております。今までの評価の結果を見ると、学生はこの講義を高く評価しています。もちろん英語で講義を行っておりますので、少し日本語訳も入れています。これによって講義の内を学生は理解しやすかったと思います。

その資料を見ると、先生方にはわかると思いますが、講義がシラバスをもとに非常に詳しく行われています。様々な国々の先生方にそれぞれの専門家として、必ず1つのシラバスを担当して教えてもらっております。それは主な課題

としてあります。

それから2番目の授業としてあるのは、現在日本の国際交流活動を実際やっているジャイカ（JICA）やアジア経済研究所（JETRO）の先生方を呼んで、ジョイントで1つのシラバスを分けてもらって、日本は現在海外でどのような国際交流活動をやっているのかを具体的に学生に教えてもらうことです。これも最後に単位を出しております。

この講義は日本語で行っています。昨年行いました講義のシラバス、それから、担当の先生方の名前を資料2に書いておりますので参考にして下さい。それを見るとわかると思いますが、講師が大学の先生ではなくて、国際交流活動を実際に行っている先生方になっております。その先生方がジョイントで行っていますので、これはジョイント講義と言っています。

3番目の授業としてあるのは英語で講義を行うことです。2005年から日本人学生と、留学生に対して、英語での講義を実施しております。やはり今までは留学生のためだけに英語の講義がありましたが、経済学部は始めて2005年から日本人学生も参加できるような形にして、英語での講義をしております。

現在私どもがやっている講義で、参加している日本人学生が40名、留学生が15名出席しております。英語でしか講義をしておりませんが、留学生は交換学生で、日本語で説明してもわからないので、英語だけにしております。

4番目の授業としてあるのは、「国際交流実習」という科目です。それは、多分恐らく私どもが思い出すところ、2000年ぐらいから始まっていると思います。それはどのようなことかということ、毎年約20名の学部学生を連れて海外と協定を結んでいる大学を訪問し、協定大学の先生方からその国の経済社会のことについて教えてもらっています。また、協定大学の学生と一緒にいろいろな交流活動をしています。それと同時に日本人学生が協定大学の学生の前で日本の経済や社会、文化などについて発表しております。また研修後、帰国した学生が協定大学で学んだことについても発表し、それをレポートとして提出しなければいけません。それらの材料をもとにして単位を出します。2単位になっています。

本年度（2009年）の研修はスリランカのペラデニヤ大学の協力のもとで行いました。学生が訪問前に佐賀県の農業やお茶栽培、佐賀大学の国際交流などについて調査し、その成果をペラデニヤ大学で農学部の学生の前で発表してもらいました。また、スリランカの農村を訪問しながらスリランカの農業について聞き取り調査をして、その成果をレポートとして纏めてもらいました。このレポ

ートは12月15日に佐賀大学で実施した研修発表会で報告させていただきました。

それから、5番目の主な授業として、1990年から経済学部は日本人学生を海外の協定大学に派遣しています。今まで佐賀大学が留学生を受け入れることにしか力を入れていませんでしたが、経済学部は、それと同時に日本人学生の海外派遣も必要と考えて、この事業を実施しました。今まで3カ月以上、或いは1年以上海外に派遣した学生の資料の一部をこの資料の中で纏めておりますので参考にして下さい。この資料によると今まで経済学部は200名以上の学生を海外に派遣したことがわかります。何でそんなことができるのかというと、この130校以上の協定大学に派遣すると、3人まで授業料を払わなくてもいいからです。例えば、アジアの大学に派遣した場合は、1年間でかかる費用は約50万円程度です。50万円もかからない大学もあります。従って、日本人の学生に経済的負担があまりかかりません。今までの経験によれば、留学して帰国した学生の就職は非常によく、多くの学生が有名な大企業に就職をしております。

アジアだけではなくて、アメリカ、ヨーロッパ、あるいはいろんなオセアニアの大学の大学院まで行った学生たちも多いです。留学している学生数は年間約10人程度です。時々、20人ぐらいになる時もありますが、だいたい15人程度留学しています。

そして、6番目の授業としてあるのは、海外の大学の先生方を我々の大学に呼んで集中講義をしていただいて単位を出していますが、それと同時に、経済学部の先生方を海外の協定大学に派遣し、協定大学で集中講義を行ってもらっています。それも単位を出しています。

資料があまりありませんが、もう一つの教育の国際化のために我が学部が今年の4月から実施しているのは、「国際交流室」の設立です。なぜそのような組織が必要なのかというと、今までの国際交流活動はいろんな形でいろんなところでやっているわけですので、それらを纏めて1つのところを中心にして実施する必要があると思ったからです。そこで、留学生の支援よりも日本人学生の教育研究の国際化の発展のために必要な支援を行うことを中心にしております。その理由は留学生の場合は留学生センターという別の組織があるからです。また、来年から「国際交流センター」をつくりますので、留学生の支援はそのセンターを中心に行われると思います。しかし、日本人学生の海外派遣は学部別にサポートしなければならないので、我が学部の「国際交流室」の必要性は非常に高いと思います。経済学部の国際交流室を日本人学生の海外派遣の

ための情報サポートセンターとして発展させるのが主な目的です。

資料6で述べている通り、今年は「国際交流室」の主な役割として海外留学生の案内を2回やっております。約15人から20人程度の学生が参加しております。

それで研究の国際化については、資料が7から10までありますので、これらを参考にして下さい。今まで経済学部が研究の国際化のために何をやってきたのかをここに書いております。しかし、学部長から研究の国際化については説明しなくていいだろうということですので、その説明は省略させていただきます。

それで次に3番目、地域社会の国際化について経済学部の活動を説明させていただきます。昨年「国際交流室」を中心にして、韓国の全南国立大学に地域の20名の方々と社会福祉と国際交流に対する研修に連れて行きました。また、帰国した地域の方々に韓国で受けた研修について発表してもらう会をアバンセで行いました。資料としてはここにあります。これは新聞にも取り上げられております。

地域社会の国際化の2番目は、今年台湾の協定大学になっている天主教輔仁大学にも同じような課題で地域の方々が20名と学部長も、また、職員の方々の何人かを連れていきました。その研修の目的も韓国と同じように向こうの大学にお願いして社会福祉のことを教えてもらって、また、それに関する施設も見学させてもらいました。韓国研修と同じように帰ってきて報告会も行いました。これに関する資料を見て下さい。

それで3番目として、それは余り関係ないかもしれませんが、「留学生の日本語スピーチコンテスト」を行いました。その活動は地域の方々のご協力のもとで行いました。特に地域の方々に留学生の日本語の指導、それからホームステイ先や審査員も地域の方々に頼みました。

そのとき我々もちょっと驚きましたが、100人以上の方々が参加しました。それは新聞にも大きく取り上げられております。それは資料13を見るとわかると思います。

4番目は、今度は皆さんも多分ご存じと思いますが、県と市は国際交流活動に積極的に力を入れています。それで経済学部は県と市、それから地域の国際交流活動をやっている様々な機関と協力しながら地域の国際交流の発展に貢献しました。

そして最後に5番目としては、佐賀の県民の方々の非政府団体（NGO/NPO）による国際交流活動にも積極的に協力をしています。例えば、2004年のスマト

ラ沖の津波の問題で、当時スリランカの中でかなり大きな被害があったわけなのですが、そのために「スリランカと佐賀の会」、又は「未来協会」の方々と地域の方々が行いました支援活動に積極的に協力しました。スリランカ・ハンバントタ県で、200人以上の犠牲者を出した1つの学校で、2階建ての大きな図書館を建設しました。なぜ図書館なのかというと、スリランカの人々は津波や地震などの自然災害のことについてあまり知らなかったために多くの方々が亡くなったようです。図書館をつくって地域の方々がときどきその学校を訪問しながら津波のことや地震のことについて向こうの子供たちと地域の方々が学べるようにしています。この図書館は「佐賀・ランカ友好図書館」と呼ばれています。また、今年の3月に同学校で「スリランカと佐賀の会」の方々が「講堂」を建設しました。これは、「佐賀・ランカふれあい講堂」と呼んでいます。地域の方が、そのような活動にも積極的に協力しております。

以上です。

○司会（梶澤教授）

以上の説明にほかの方から何か補足はないですか。

なければ、今説明を受けたばかりで大変恐縮ですけれども、青山様と宮崎様のほうから何か御意見いただければありがたいんですけれども。

○青山委員

学部長がおっしゃった経済学部为社会貢献の話、やっぱりおっしゃったように、3つの柱、研究と教育と社会貢献があるんだという、3つの柱はそうだと思うんだけど、この社会貢献というのもよくよく考えてみると、やっぱり人材育成なんですよね。それは市民とか県民対象ということもありますが、まず第一に学生を鍛えていくと、人材として学生を育てていく、あるいは市民、県民にまで広げていくという、人材育成ということがやはり社会貢献の大学としては基本的なスタンスだと思うんですよね。それをどのようにやるかということが問題なわけで、社会貢献というところはすぐ外に向かってどうするかということを考えてはいいんですけども、やはりまず内部の学生を教育して人材として育てていくということが一番の社会貢献だと思うんですね。

私ももう半世紀近く前に学校にいた人間だから、よく今の学校のことはわかりませんが、経済界の一般論からいくと、今の学生は、もちろん一般論ですから専門的な能力とかなんとかは別にして、レベルが非常に低いとよく聞くんなんです。それこそ半世紀前の高卒程度のレベルしかないのではないかと、そういうような話をよく聞きます。もちろん人によっては全然違うわけですが

れども、それを各大学の人材育成のシステムとかなんとかいろんなことを聞いてみると、かなり大学によって考え方の違いがあって、比較的旧国立大学の子供というのは、専門の学問というのは私はよく知りませんが、社会性にかなり欠けておるといふ意見を聞くんですね。その辺で、さっき言った社会貢献の最たるものである人材育成のところで、大学で人材を育成するというのは、もちろん学問的な育成もあるでしょうし、あるいは人間として、社会人としてのスタートを切るわけですから、それに向けての人材としての育成の方策もあるのではないかということで、やはり少し学内の学生を中心とした人材育成ということをもう少しいろんな、世の中はどんどん変わっておりますので、工夫を試みてはいかがかなというふうな気がいたしました。

それから、ラタナーヤカ先生のお話で、経済学部の国際的な活動というものについて、私も不案内でよく知らなかったんですが、非常によくやられておられるなというふうな感じがいたしました。教育の国際化で、特に最近マスコミでも取り上げておるんですが、学生の海外留学が非常に就職活動との絡みで子供が希望するんだけどなかなか行けないという現実があるというようなことでよく話を聞くんです。そういった問題は今どうなのかなということと、私費、国費と二種類学生いますよね。圧倒的に私費が多いわけですがけれども、やはり私は特に学生のうちにどんどん海外に行って勉強するというのは非常にいいことだと思っておりますので、こういったシステムをどんどん広げていかにやいかんけれども、ちょっと今就職協定がないような状況の中で、学生に非常に申しわけないなと思っておりますけれども、現実はどうなのかなということをお尋ねしたいと思えます。

○ラタナーヤカ教授

先ほど言ったとおり、だいたい「国際交流室」を中心にして今年も2回ぐらい説明会をしております。約15名の学生が参加しております。非常に小人数にしていますが、大きな問題としてあるのは、やはり経済的な問題よりも親の問題です。親があまり自分の子供を留学させたくないのです。時々、学生の方から私たちに、「お父さんに電話してくれませんか？」というお願いもあります。親の気持ちは我々もわかるから、海外留学はあまり危険なものではないと説明しています。そういういろんなことで電話をしながら親に理解をしていただいております。今まで留学した200名以上の学生の海外派遣の中で、小さな問題も起きたことはありません。なぜ危険がないのかというと、留学先というのは我々が協定を結んでいる大学になっているからです。我々は海外協定大

学と共同研究しながら我が学生の留学に必要な環境をつくっております。ですから、学生が同大学に留学するときに同大学の共同研究者にコンタクトして、日本人学生の受け入れをお願いしていますので、危険がない留学になっています。

それから留学上の経済的な問題の場合は、もちろん協定関係以外の大学に行く場合は、かなりお金がかかります。だいたい、一年間に2～3百万円ぐらいないと絶対だめです。しかし、協定を結んでいる大学に行く場合は、前にも説明したとおり、30万円から50万円もかからないです。留学先は学生の目的によって変わります。例えば、英語、また中国語、また韓国語を勉強したい場合はアジアの大学に決めております。留学から帰国した学生の就職もすごく良いことも分かっています。

それから、英語ができる学生の場合は、今度は大学院に行くこともあります。その場合は、ロータリークラブや文部科学省などからの奨学金を申請しています。文部科学省の場合はTOEFLが550点以上ないと申請できません。

それから、学部学生の場合は、佐賀大学経済学部の後援会のほうから一人当たり10万円を出しております。だから、ほとんどの学部学生の場合は親に経済的に負担をかけないような形で派遣するようにしております。

○富田学部長

今全学部で10人ぐらい行っているわけですか。

○ラタナーヤカ教授

全学じゃなくて経済学部ですね。

○富田学部長

1年から4年まででちょうどことし10人ぐらい行って、毎年少しずつ増えていきますよね、海外派遣。

○青山委員

大体何年生が中心ですか。

○ラタナーヤカ教授

大体4年生が多いですね。

○富田学部長

留年して、そこはもう覚悟で、1年多くなくてもしょうがないというので行っているんだと思いますよ。

○宮崎委員

その場合、休学ですね。

○ラタナーヤカ教授

休学です。休学しないと、佐賀大学の授業料を払わなければならないからです。払って行ったら、向こうのほうで取った単位は全部認められて4年間で卒業できるようになります。しかし、問題になるのは佐賀大学はまだそこまで認めるようになっていないことです。授業料免除を認めても、やっぱり帰ってすぐ就職できるのかどうかの心配もあります。

○富田学部長

向こうで取った単位をこちらの単位にするという制度はつくっているんですけど、それでもなかなかやっぱり5年どうしてもかかるんですね。

それと、最近の特徴は、以前はやはり横文字というか、アルファベット圏に行きたがっていたんですけど、ここしばらくこちらからの働きかけもあって、アジアにかなり目が向くようになったという変化はありますよね。

○ラタナーヤカ教授

そうですね。

○青山委員

留学生もアジアが圧倒的に多いんでしょう。

○ラタナーヤカ教授

もちろんそうです。大体90%ぐらいかな。特に中国が多いですね。

○富田学部長

確かにこの前、私も台湾に行ったんですけど、経済学部の学生、4年の学生がいて、やっぱりすごくしっかりしてきていて、やっぱり効果があるんだなというのは肌で感じました。ただ、もう少し増えなきゃいけないんですけど。

○ラタナーヤカ教授

台湾の大学と違って、どんどん留学生を増やしたいという考えがあるんです。しかし、台湾の天主教輔人大学の先生方が言ったのは、自分の大学の学生を少なくとも100人以上1年間は留学させたい。それが目的だそうです。もちろん留学生も受け入れますが、それと同時に、少なくとも100人くらいの台湾の学生を留学させたいということが1つの目標になっています。

○司会（樫澤教授）

国際貢献のほかに、青山さんのほうから出ましたけれども、人材育成ということでの社会貢献ですね、それについて学部長、何かありませんか。

○富田学部長

そうですね、人材育成については、ここはもうもともとどういう教育をするかということはずっとカリキュラム、あるいは教員の組織のあり方を改良することによって改善してきているんですけども、今ちょうど経済学部、教育システムの端境期に来ていて、予定では平成25年、だから、あと3年後に教育組織を改編してカリキュラムを大きく変えようということで練り上げているところなんです。

それで、そこだとやはり最初の一、二年の教育をかなり改良していこうということで、ゆっくりなんだけど体系立った教育をして、かつまた少し1年で詰め込むというか、特に強制的にも勉強させる仕組みのほうに変えていこうというので、今ちょうど制度改革をやっている最中です。それで、いろいろあったんです、大学の外でこうやるべきだ、ああやるべきだといういろんな教育議論があって、言葉として今学士力とか、学士課程教育というような言葉が広がって、それを大学がどうやって受けとめるかというのが現状にあるんですけども、基本は比較的目的意識が希薄な学生が入ってくるという、入ってきて勉強しようという学部なものですから、早目に、とにかく入ってきたときは、ある意味では白紙に近い学生でもいいから、入ってきて早目に動機づけをして体系的に基礎的な素養を身につけた人材を育成していくということを、これまでもやってきたつもりなんですけど、よりポリシーをカリキュラムに落とした形のものをつくり上げたいというので今やっているところです。

ちょっと時間もありませんし、資料も今用意していないので、具体的にこうやりたいんだということはしゃべらないですけど、そういう方向を今意図的に追求しようというふうにやっています。

それと、確かにそれが大学の社会貢献の根幹なんですけど、ちょうどきょう社会貢献の問題をやっている中で、生涯教育なんかも当然やるというのは使命で、それで「みんなの大学」という公開講座をやっていて、そこに来られた方を留学生の日本語スピーチコンテストの審査員にしたり、留学生の日本語教育をそれでやってもらったりするという形で、学生の教育と、それから、生涯教育で来られている方たちを合体させているというようなこともやっていて、少しずついろんなことをやっているものがつながる、連結しかかっているというような状態なんですけれども、これはどうも学部としていろんなことをやっている全体系をどうというような方向に持っていくかということについては、今ちょうど考えていて、この場もそのような材料にさせていただきたいというのが現状で、なかなか体系立ったところまで、根幹の人材教育以外のもっと広いと

ころの人材、社会貢献については、なかなか体系化する方向に向かわないけど、少しずつそういう方向にやっていくということを考えています。

それで、これはどこもそうなんですけど、人的資源とか財源が限られているもので、少し体系化し、簡素化し、方向づけしてやっていくということをしなないと、今までどおりあれもこれもというようにやっていくことは難しいので、その体系化というのは非常に喫緊の課題になっているんだということは大学としてもよくわかっているつもりではあります。

○司会（樫澤教授）

ほかの方からどうですかね。

○山下副学部長

先ほど言われた社会性がないという話なんですけど、それは社会常識がないということなのか、そういう教養が、いわゆる大学生としてのあるべき教養がないということなのか、ひっくるめてなのかですね。

○青山委員

いわゆる一般論として出るんでしょうけどね。ただ、私なんか卒業生を何人かとった経験から言うと、今若い人はみんなそうなのかもしれませんけど、非常に知的好奇心がないですね。だから、何を見ても感動もしないし、関心も持たないしですね。じゃあ、何に関心があるのかということよくわからない。社会的な関心事で、例えば、特に若い人たちにしょっちゅう聞くんだけど、我々の時代はよかったけども、あんたたちはお先真っ暗で、どうせ10年、20年生きていいこと何もないんだから、どうするのと言っても反応がない。

例えば、よく言われる社会保障の問題にしても、財政運営にしても、あるいは環境問題にしても、非常に先行き厳しい状況があるんですよ。だからそれについて、例えば、学生さんが何人か集まってみんなで議論をすとか、あるいは何か仲間うちで取りまとめたものを発表すとか、そういったことはやっているのかなと。若い人は自分たちの将来を心配していないのかなと、余計な心配ですけどね。

今の学生というのは、これはもう今だけじゃなくてずっと長いことかもしれませんが、豊かな時代に育ってきたので、これから先も何とかなると。極めて楽観主義で行っているのかなと、主義はいいんですけど、やっぱり若いときにそういうふうな知的好奇心でどんどんやらないと、社会に出て商売だけやっているわけではありませんからね。いろんな先輩、取引先と話すときでも、その財政の問題、社会保障などいろんな話がどんどん出てくるわけですから、そ

ういうことをどういうふうにやっているんだろうかなと。

○長 教授

私は、今先ほど青山さんが言われたように、街中に、大学のサテライトをつくって、街中でゼミやっているんですよ。まちづくりとかいろいろな活動の中に学生をかかわらせてやるんですね。

この前、今度小城市役所に入った子がおるんですけど、夏になって自分たちが企画してやるって、やる途中で周りの人たちからかなりいろんことでしかられたりしてやっているんですよ。いみじくも青山さんは佐賀大学のOBで私の先輩なんですけど、以前同窓会で会誌をつくったときに、イラストを文教の学生に頼んだら、おもしろい絵を書いていて、そこで何を言っているかということ、学生は結構地域で学んでいますという、そういうことを書いていたんですね。

僕は、大学4年間で、そこでいろんなことを人間として社会性を持たせるということを、今の中でやれるというのは本当限りがあると思います。やっぱり大学に入ってくるまでの間に、やっぱり社会の中で育ててきていないですね。小・中・高等学校でもそうです、地域でもそうです。それで、そうは言っても4年で社会に出ていかないといけないわけですから、佐賀大学に来た学生を佐賀の地域の方々がよく言われるのは、例えば、寮とかああいうものも何か別世界になっていて、もう完全に断絶しておるんですよ。だから、昔の下宿とか間借りなんかですと、かなり地域の方々といろいろ接して、そういう中で学ぶことが多いわけなんですけども、そういう場がだんだん少なくなっているのではないか。だから、これから佐賀大学の中でもいろんな努力しないといけないわけなんですけども、佐賀大学の学生を地域の方々がやっぱり、佐賀市を中心にきたえていただいて、やっぱりここで皆さんで教育していただく。それが先ほど言った公開講座とか、そういう中でのつながりとか、どう皆さん方とチャンネルをつくって、そこの中で生きた教育をしていただくかということが大事なかなと思うんですよ。

そういう意味で、実はうちの学部と同窓会との間で定期的な話をする中で、毎回そういうことを言ってきているわけですけども、一つは大学、佐大のOBの方々がまさにその橋渡しをしていく必要があるかなと私は思っています。

そういう意味で、この社会の中での生きた教育と大学の中で専門なり教養教育なり、そういうものをどううまくつないでいくかということをやらないと、これ本当4年間の中で、言われたように社会が期待するような学生を送り出し

ていくというのがなかなか難しいなという、そういうことを思っています。

以上です。

○山下副学部長

さっき言われたように、僕らのときと比べて社会的な関心が非常に少ない。コンパをやっても、僕らのときは何か尖閣列島の問題とか議論したと思うんです。しかし、そういう議論はまず出ないですね。身近な問題、趣味の問題とか、あそこにおいしいものがあるとか、どうしてもそういうふうになってですね。

先ほど学部改組の話がありましたけれども、学部改組では小クラスゼミを増やして、もう少し自分の意見を学生が言えるような教育をしたいということで、今度の改組では小クラス授業を1年生のほうで増やして議論をしよう。つたない話でもいいから議論をしようという教育をやろうというふうに計画しているんです。それをやったことによって今言われたような社会性、知的興味がどのくらい高まるのかというのはわかりませんが、おっしゃった問題は我々も十分意識をしております、何とかそれは大講義じゃなくて、小クラスゼミで達成したいというふうに努力はしようと思っております。

ただ、社会一般的にそういう傾向がある中で、我々の力だけでどのくらい高めることができるかと言われたら、やっぱり先生が言われたようになかなか難しい問題があるなと思っっているんです。そういうことをしたいというのは、おっしゃるとおりの状況を我々も十分把握をしているところです。

○青山委員

やっぱり非常にいいことだと思いますよ。やっぱり今問題になっているように、30を過ぎてもまだ自分探しの旅と言ってうろうろうろうろしている人が多いわけですからね、早目にそういうディベートでも何でもして、自分の意見が発言できるような、そういう場をつくるというのは非常にいいと思いますね。

○司会（樫澤教授）

ほかにありませんか。

○宮崎委員

その前に、経済学部の社会貢献の話で、私も基本的にやっぱり、大学には大学にしかできないことをやっていただきたいという強い思いがあります。特に佐賀大学1校しかございませんので、その延長線上で考えて、一方で、その地域経済研究センターなんかでいろんな御要望することは申しつつも、やっぱり大学ができることをまず、大学しかできないことの延長線で考えていただければなと思います。

もう1点、これ御質問というかあれなんですけれども、国際貢献というわけではないんですが、経済学部もいろんな国際化の取り組みはいっぱいされていると思ったんですけど、これは最近よく聞くのが、会社に入っても海外赴任をしたがらないという子供がいっぱいおるということなんですけど、こういう国際化の留学なり経験した子供はやっぱり、そういう子は積極的に海外に目を向けようという子供に育ってきているものなんでしょうか。それともかえって見てきて消極的になるとか、それは知りませんが、そういった効果というのはどういふうに感じられていますか。

○ラタナーヤカ教授

いや、今までの私の経験で言えば、世界のどこでも働きたいと思っている学生が多いですね。アジアで1年間むこうの学生と一緒に勉強するわけですので、非常に苦勞しているわけです。そしてむこうの学生というのは我々と全く違う。青山先生が言ったとおり、やっぱり日本人には自分の意見を述べる学生が非常に少ない。その面で我々の学生は向こうの学生と比べたらもう子供なんですよ。だから、1年ぐらい留学したら、本当にかなり変わって帰国しています。それで日本企業に就職しても、タイとか中国とかあちこちにいろいろな支店がありますので、そういうところに行っているわけなんです。

○宮崎委員

これ長期に行くといいけど、短期だとかえってマイナスとか。

○ラタナーヤカ教授

短期は我々はあんまりやっていないんです。それらはほとんど語学研修で、3カ月とか1カ月とか、2週間とかになっていますので、それはあまり期待しておりません。

○宮崎委員

その要因はなんですかね。これだけやっぱり、今から国際化というのが叫ばれる時代にどんどん入っていく中で、外に目を向けない社会人が増えているというのは非常に危機的に感じるのです。

○ラタナーヤカ教授

非常に少ないですね。経済学部でも1年間ぐらいだから、そんなに大したことには出来ません。

○青山委員

もう海外どころか、佐賀からよそに転勤を嫌う社員が多くて困っているんで

すよ。転勤の内示をすると、家族会議して、もうひどいときは会社を辞めさせてくれとか、あるいは3年たったら必ず佐賀に帰すという念書を書いてくれとかね。まあ土地柄もあると思うんだけど。

○司会（檉澤教授）

ほかにないでしょうか。

なければ、最後に青山様、宮崎様のほうから、全体としてこの経済学部に見込むことということで、もし何かあれば御意見をいただきたいんですけども。

○青山委員

大体今まで申し上げたようなことではないかと思うんだけど、今経済学部は1学年学生数が200……

○富田学部長

1学年275が定員で、大体300弱ぐらいいます。

○青山委員

ちょっと多過ぎるような気がするんですね。まあ半分とは言わないけれども、ちょっと学生が経済学部は多過ぎるんじゃないかという、まあよく中身を知らんで言うておるわけですけどね。先ほどの少人数学級ではないけれども、何かもう少し単位を小さくして、少数で鍛えるような方法というものもあるのではないとか、これは全体の話ですからね、どうこうとは言えませんが。

まあ、我々のころは法律がありましたからね、かなりいろんなバラエティーに富んだ学生がいましたけれども、法律がない、経済一本なものだから、その幅という面でね。もちろん法律の講義はあるんでしょうけれども、教育の幅という面ではちょっと狭いのかなというふうな気もしますけどね。これは制度に関する問題ですから、我々が言ったってどうにもなりませんけど。

○富田学部長

ちょっと補足のところでしゃべってはいけないのかもしれませんが、今度の改組というのでは、1つまた法律としての学科のようなものにする予定なんですね。しかし、そういう意味では経済の中にも法律があるという意味で少し、今も先生の顔ぶれは変わらないまま組織を変えるんですけど、そういう同じ社会科学だからそんなに遠くはないんですけど、少し経済とは違った部門が大きくなるというか、前面に出てきて横の幅が広がるかなというふうには思っているんですよ。それはまあやろうということではいるんですけど。

○司会（檉澤教授）

宮崎様は特にないですか。

○宮崎委員

私も特にはないですけど、先ほどの繰り返しになりますけど、県内に唯一の代表する大学でございますから、ぜひやっぱり質の高い人材を出せるような、今教育課程の見直しもされているということでございましたけども、これについてもぜひ期待したいと思います。またその社会との関係においても、これも繰り返しになりますけれども、やっぱりいろんな取り組みがいろんなところでされていて、それが総合的な窓口にも整理されているということになっていきますけど、そこをぜひ県民にわかりやすいように窓口をしっかりと一本化されて、それを学内でそれぞれに落とししていくという、そういうシステムをきちっとつくっていただいて、周りにわかりやすい学校にしていいただければと思います。

以上です。

○司会（樫澤教授）

それでは、時間ですけれども、最後に学部長のほうから。

○富田学部長

本当にきょうはお忙しいところ長時間、時間を割いていただきましてありがとうございました。お二人の先生に本当に心からお礼申し上げます。

また、これに限らず今後ともいろいろ御協力いただくことがあるかもしれません、そのときもよろしく願いいたします。

今回もいろいろご示唆をいただいた中、直接取り入れたいこともたくさんありますし、それから長い目で生かしていきたいという論点もたくさんご指摘いただいて、心から本当にお礼申し上げたいと思います。本当にどうもきょうはありがとうございました。

○司会（樫澤教授）

では、きょうはこれで閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

佐賀大学経済学部の地域貢献：地域経済研究センターの活動

20101210

報告者：戸田順一郎

本報告の概要

1. 国内大学における地域経済研究機関
2. 地域経済研究センターの活動と地域貢献

1. 国内大学における地域経済研究機関

国内の大学における地域経済研究機関について戸田（2007）をもとに整理。

■大学による地域・社会貢献には、2つのタイプがある。

①創業型：大学がもつ技術シーズや人材，研究開発機能やビジネスのノウハウを生かして新規事業の創出や既存事業の展開を図り，地域産業振興への貢献を進めること。

→主に理工系。対象は企業。

②支援型：地域が直面している社会問題，経済問題，環境問題，教育問題など，多様な問題について，大学が有する人材（専門家としての教官や学生）や知的資源を生かして調査研究を行い，問題解決のための知恵を地域社会に提供すること。

→主に人文・社会系。対象は自治体，市民。

■地域経済研究機関は，設立の経緯・目的により以下の3つに分類できる。

①資料室機能を発展させて設立されたもの

→e.g. 大分大学経済学部経済研究所，福島大学地域研究センター

②大学研究者の共同研究の場として設立されたもの

・地域的研究課題への研究活動の強化（対象が組織名についているものも多い）。

→e.g. 富山大学環日本海地域研究センター，島根大学汽水域研究センター，就実女子大学吉備地方文化研究所 etc.

・研究費の確保

・学内外における共同研究の円滑化

→e.g. 下関市立大学附属産業文化研究所，別府大学地域社会研究センター，広島大学地域経済システム研究センター

③大学の地域貢献を具体化したもの

- ・地域連携を重視する大学の意思表示（近年設立された地方大学に多い）
→e.g. 新潟経営大学地域活性化研究所，青森公立大学地域研究センター
- ・地域社会との連携，協力の窓口
→e.g. 広島大学地域連携センター

■地域経済研究機関には以下の点において多様.

- ・組織形態（学内共同機関・附属機関／学部附属機関）
- ・研究スタッフ（専任の研究員の有無，専任の事務職員の有無）
- ・研究活動費（科研／学内経費／寄付／外部機関との共同研究費）

2. 地域経済研究センターの活動と地域貢献

(1) 地域経済研究センターの概要

設立時期：1989年4月

設立目的：研究・教育の成果を地域に公開するとともに，地域社会と協力して研究・教育を発展させることを目的に設立.

(2) 佐賀大学地域経済研究センターの地域貢献

■研究面での地域貢献

①地域に関する共同研究，受託研究（配付資料 pp.1-4）

- ・「中原町観光資源利活用調査」(2004) [中原町]
- ・「人口減少社会における社会資本整備手法のあり方に関する研究」(2007～2008) [佐賀県]
- ・「“食”と“農”による地域づくり事業の推進に伴う総合研究」(2008～2009) [有田町]
- ・「佐賀県内中小企業の経営課題に関する実態調査」(2008) [佐賀県中小企業団体中央会]
- ・「佐賀県機械金属関連工業に関する実態調査」(2010) [佐賀県機械金属工業界連合会]

②佐賀地域経済研究会（pp.8-17）

- ・佐賀県内における地域経済問題に関する情報交換，研究を行うことにより，地域の振興に寄与することを目的に，1989年4月に発足.
- ・構成員は，県内9市（佐賀，唐津，鳥栖，多久，伊万里，武雄，鹿島，小城，嬉野）の企画担当課，民間，佐大教員等.
- ・年間6回の研究会の開催（今年度の年間テーマは「人口減少時代における地域産業」）.

- ・年1回のシンポジウム（公開研究会）の実施。
 - 「人口減少時代の到来と地域経済」（2007.07.25）
 - 「地方における大学の役割～地域に求められる文系学部のセンターとは～」
（2008.07.23）
 - 「食と農から探る地域の活性化」（2008.11.26）
 - 「佐賀県の陶磁器産業～佐賀のやきもの再発見！」（2010.01.20）
 - 「佐賀県の茶産業と茶文化」（2011.01.19）
- ・地域課題調査
 - 自治体会員から提案された地域課題について調査を実施（年間1テーマ、2年間）。
 - '08-'09年度 「学校給食における地産池消のあり方について」（鳥栖市）
 - '09-'10年度 「合併後の新市における都市機能の整備と機能分担について～定住自立圏構想『唐津モデル』推進のために～」(唐津市)
 - '10-'11年度 「『温泉』・『食』・『文化』を併せ持つ観光地の構築」（嬉野市）

■研究面以外での地域貢献

①学生への地域教育，学生の地域活動支援

- ・ウォッチング佐賀（pp.19-25）

最近の主なテーマ

- 第47回 諫早湾干拓潮受け堤防を歩く（2009.01.14）
- 第48回 元気な商店街&大きな造船所（2009.01.16）
- 第49回 軍艦島上陸ツアー（2009.09.28）
- 第50回 日本海の町並み探訪（2009.12.13～2009.12.14）
- 第51回 博多駅再開発とまちづくり（2010.01.15）
- 第52回 佐賀県の農林業と民泊体験（2010.09.25～2010.09.26）
- 第53回 完成間近！！嘉瀬川ダムの工事見学をみる（2010.11.17）

②市民への生涯学習支援

- ・佐賀大学公開講座「みんなの大学」（pp.36-40）

2010年度は，佐賀（佐賀大学図書館），鳥栖（中央公民館）において週1回（佐賀は午前，午後の2部制），前期，後期10回ずつ開催。

今年度の主な開講テーマ

- 佐賀藩の幕末近代化遺産について
- 佐賀大学経済学部学ぶ

有明海の再生を考える
佐賀大学女性研究者に学ぶ
日本の貧困問題について
“国際”的に考える
鳥栖市誌を振り返る
市民によるまちおこし

《参考文献》

戸田常一『大学の社会貢献に関する調査研究—国内・国外の地域研究機関の社会的役割を中心にして』（平成12・13年度文部科学省科学研究費補助金成果報告書）2007年.

佐賀大学経済学部の地域貢献の 現状について

～地域経済研究センターの事業について～

◆◆◆ 調査研究事業部 ◆◆◆

1. 地域に関する共同研究・委託調査 1990年～

()は報告書発行年、[]は委託元、担当者の先頭は幹事、#は他学部、##は学外者、@は大学院生

1)『地域経済・社会計画の展開と計画策定手法に関する研究』(1990)

薦川正義、石橋主税、桑原幹夫、大矢野栄次、村上英明、常盤洋一、今久保幸生、奥松安六

2)『新総合計画策定のための横断的課題にかかるガイドライン』(1990) [佐賀市、(財)佐賀経済調査協会] 常盤洋一、石橋主税、薦川正義、中原弘二、大矢野栄次

3)『新総合計画策定のための2000年佐賀市フレーム』(1990) [(財)佐賀経済調査協会]

常盤洋一、薦川正義

4)『武雄工業団地関連用地の利用方向調査』(1990) [(財)佐賀経済調査協会]

薦川正義、石橋主税、荒牧軍治#、大矢野栄次、今久保幸生、納富一郎、ラタナーヤカ・ピヤダーサ、奥松安六

5)『肥前陶磁器商工青年部労働事情実態調査』(1990) [肥前陶磁器商工青年部連絡協議会]

常盤洋一、池田智子

6)『佐賀県内における雇用・労働問題の総合的研究』(1991) 石橋主税、中原弘二、村上英明、富田義典

7)『地域に開かれた大学の研究・教育体制整備に関するプロジェクト—社会人の受け入れ問題を中心に』(1991) 薦川正義、鷹巣信孝、納富一郎、奥松安六、大石芳裕、大久保憲章、池田智子

8)『佐賀県地場産業振興新ビジョン』(1991) [佐賀県商工労働部]

薦川正義、濱内繁義、納富一郎、大下丈平、幸田亮一

9)『佐賀県三根町総合計画策定調査』(1991) [三根町企画財政課] 荒川米一郎、加来研##、奥松安六

10)『21世紀を展望した組織化と組合活動のあり方—佐賀県中小企業組織等活用化ビジョン—』(1991) [佐賀県中小企業団体中央会] 古賀公治、松尾陽好、池田智子

11)『地域資源総合利活用等調査報告書—農業農村活性化推進事業—厳木町におけるケーススタディ』(1992) [(財)佐賀経済調査協会] 石橋主税、大矢野栄次、奥松安六、山下宗利#

12)『進出企業と地元とのかかわりあいについての調査』(1992) [(財)佐賀県産業技術情報センター]

栃尾晶子、奥松安六、池田智子

13)『情報技術人材強化調査』(1992) [佐賀県企画局情報システム課]

薦川正義、中村博和、神山恒夫、池田智子

14)『三根町総合計画(案)』(1992) [三根町企画財政課、(財)佐賀経済調査協会]

荒川米一郎、加来研##、奥松安六

15)『大学教育方法等改善調査～経済学部教育の内容・組織・体制整備に関するプロジェクト～』

(1993) 古賀公治、常盤洋一、上山和俊、中村博和、一之瀬高博、山下宗利#、朱保華、池田智子

- 16)『地域資源総合利活用等調査報告書—農業農村活性化推進事業—有明町におけるケーススタディ』
(1993) [(財)佐賀経済調査協会] 石橋主税、大矢野栄次、奥松安六、山下宗利#
- 17)『佐賀県中小企業雇用関係実態調査報告書』(1993) [(財)佐賀県産業技術情報センター]
中原弘二、平地一郎、池田智子
- 18)『佐賀県中小企業福利厚生実態調査報告書』(1993) [(財)佐賀県産業技術情報センター]
水野一郎、栃尾晶子、池田智子
- 19)『佐賀県の商工業』(1993) [佐賀県商工労働部商工企画課]
蔦川正義、中原弘二、時政昴、飯盛信男、奥松安六
- 20)『北部九州・佐賀における人口問題—21世紀への対応—』(1994)
奥松安六、佐賀県及び県内7市の企画担当課
- 21)『地域資源総合利活用等調査報告書—農業農村活性化推進事業—脊振村におけるケーススタディ』
(1994) [(財)佐賀経済調査協会] 石橋主税、大矢野栄次、奥松安六
- 22)『佐賀県における経営者意識実態調査報告書』(1994) [(財)佐賀県産業技術情報センター]
水野一郎、栃尾晶子、池田智子
- 23)『地域イベントが商店街に及ぼす効果に関する調査』(1994) [(財)佐賀県産業技術情報センター]
奥松安六、池田智子
- 24)『佐賀県の商工業』(1994) [佐賀県商工労働部商工企画課]
時政昴、中原弘二、飯盛信男、濱内繁義、奥松安六
- 25)『佐賀県脊振村地域資源活用農業構造事業基本計画報告書』(1995) [(財)農林漁業体験協会]
長安六、岡本均##、篠田啓二##
- 26)『佐賀県の商工業』(1995) [佐賀県商工労働部商工企画課] 時政昴、飯盛信男、濱内繁義、長安六
- 27)『熊本県益町における農業・農村活用化推進事業について』(1996) [(財)農業構造改善協会]
長安六、白武義治#、山中守##
- 28)『小売商業の構造変化に関する調査研究』(1997) 宮崎卓朗、磯田宏
- 29)『佐賀県におけるベンチャー企業の財務と会計』 水野一郎、藤田晶子
- 30)『地域社会の情報化へ向けた試み』 安田伸一
- 31)『佐賀インターナショナル・バルーフェスタ開催に伴う経済効果の調査』(1997) [佐賀市] 福島宏
- 32)『佐賀市における地方分権への取り組み～佐賀市議会議員に対する意識調査～』(1998)
村上英明、古賀直@
- 33)『地域経済の構造変化に付いての研究～高齢化、情報化などによる影響～』(1998)
経済情報大講座・田川正二郎他
- 34)『国際化・ソフト化・高齢化のなかの地域課題と地域再生の展望』(1998) 地域政策大講座・蔦川正義他
- 35)『有機堆肥の需要に関する調査研究報告書』(1998) [西有田町] 長安六、ラタナーヤカ・ピャダーサ

- 36)『不況下の地域経済』(1999) 飯盛信男、長安六、磯田宏、中西一
- 37)『近世初頭における佐賀平野の水利事業に関する研究』(1999) 宮島敬一、神山恒夫、半田駿[#]、松本隆昌[#]
- 38)『佐賀大学の廃棄物対策～他の事業所と比較して～』(1999)池田智子、蔦川正義、長安六、中村博和
- 39)『伊万里市における農産物の地域自給について～生産者及び消費者に対するアンケート調査分析』
(1999)[伊万里市] 長安六
- 40)『佐賀県小売業の構造分析』(1990) 岩永忠康、篠原明子[@]、山崎裕二^{@##}
- 41)『市民参加のまちづくりとは何か～佐賀市の取り組み事例発掘から考える～』(1990)
蔦川正義、畑山敏夫、長安六、池田智子、大石和子
- 42)『商店街活性化支援調査報告書(佐賀県)』(2000)[佐賀県] 岩永忠康、篠原明子[@]、柳純^{@##}
- 43)『佐賀地域における経済・社会および教育の総合的研究～わが邦近代化に先駆的役割を果たしていた時代の佐賀地域～』(2001) 木戸田力、家永国広[#]、江頭彰[#]
- 44)『NPOの取り組みの現状と課題』(2000) 総合政策コースのジョイント講義「NPO論」講師
- 45)『市民参加型のまちづくりとは何か～佐賀市の市民ワークショップの事例から考える～』(2001)
蔦川正義、畑山敏夫、長安六、池田智子
- 46)『高齢社会と地域経済の諸問題～地域経済・社会の変化に関する多角的研究～』(2001)
福島宏、蔦川正義、長安六、富田義典、塚本一郎、石田道彦
- 47)『中心商店街の実態調査報告～佐賀市と長崎市の比較分析～』(2002) 岩永忠康、堤田稔[#]、野中琢磨[@]
- 48)『有明海等総合調査研究会議・文系研究会公開研究会報告書』(2002)
蔦川正義、樫澤秀木、五十嵐勉[#]、後藤隆太郎[#]、中西一
- 49)『佐賀県の自治体における財務情報開示の現状と課題～県および7市の事例～』(2003)山下寿文
- 50)『平成の市町村合併問題研究会報告』(2003) 濱内繁義、大矢野栄次[#]、中西一
- 51)『低所得世帯に対する国民健康保険税の賦課状況～佐賀市・佐賀郡を例に～』(2004) 丸谷浩介
- 52)『景品・懸賞付販売及びオープン懸賞の実態と独禁法の諸問題』(2004) 岩本諭、左達[@]
- 53)『佐賀小売業の構造分析』(2004) 岩永忠康、楊海洋[@]
- 54)『中原町観光資源利活用調査報告』(2004)長安六、山本長次、五十嵐勉[#]、三島伸雄[#]、山下宗利[#]、池田智子
- 55)『トレーサビリティの現状と課題—佐賀を事例として—』(2005) 品川優、羽石寛志
- 56)『コンピューターを使った教育方法および教材の開発の研究』(2005) CD
木戸田力、円城寺祐子[#]、金崎瞳[#]、岸川公紀[#] 他
- 57)『佐賀県内商業高校における簿記教育の現状と課題』(2005) 山下寿文、山口浩[@]、中嶋淳[#]、北島直幸[#]
- 58)『アジアにおける農業の近代化の地域社会的影響と維持可能な発展方向の模索的事例研究』
(2003～2005年度) 長安六、岩永忠康、ラタナーヤカ・ピヤダーサ、蔦川正義、五十嵐勉[#]、白武義治[#]、
Preeda Praperchob、W.M.Tilakaratne[#]
『アジアにおける農業の近代化の地域社会的影響と維持可能な発展方向の模索的事例研究(上)』(2005)
『アジアにおける農業の近代化の地域社会的影響と維持可能な発展方向の模索的事例研究(下)』(2006)

- 59)『旧大和紡績佐賀工場の経営史的研究』(2006) 山本長次
- 60)『佐賀県中心市街地活性化プロジェクト』 2005～2007年度、長安六
『佐賀県中心市街地活性化プロジェクト その1—現地調査のまとめ—』(2005)
『佐賀県内7市における中心市街地活性化—コミュニティタウン構想との接点を探る—』(2007)
- 61)『佐賀県の自治体における地域課題』 2005年度～、岩永忠康、長安六
『佐賀県内の自治体における地域課題に関する調査報告書』(2006)
- 62)『人口減少社会における社会資本整備手法のあり方に関する研究』(2007～2008) [佐賀県]、
長安六、濱内繁義・岩永忠康、外尾一則#、五十嵐勉#
- 63)『“食”と“農”による地域づくり事業の推進に伴う総合研究』(2008～2009) [有田町]
長安六、岩永忠康

2. 佐賀大学有明海等総合調査研究会議・文系研究会 2000～2004年度

2000年2月に佐賀大学に設置された「有明海等総合調査研究会議」の1クラスターとして、文系分野の総合研究を目指した本研究会を3月下旬に発足。代表は蔦川正義・センター長で、事務局を担う。2005年度より「佐賀大学有明海総合研究プロジェクト」となり事務局ができたため、本センターの事業は終わったが、コア研究3・地域文化・経済研究部門への協力・支援は継続している。

第1回(2001.03.27) 発会にあたって 研究会の課題と運営などの意見交換

第2回(2001.04.20) 研究会の全体課題と参加者別課題について

第3回(2001.05.15) 「有明海と大規模公共事業～筑後大堰と諫早湾干拓事業～」 経済学部教授 蔦川正義

第4回(2001.07.11) 「韓国の干潟:生態人類学的側面と意義」 農学部教授 武田淳

第5回(2001.07.24) 「法は、環境を守れるか?—有明海環境保全法について考える—」

経済学部助教授 樫澤秀木

第6回(2001.10.05) 「コモンズ論再考—環境への発言権」 農学部講師 藤村美穂

第7回(2001.11.25) 「第4回有明海・不知火海フォーラム in 諫早」に参加

第8回(2001.12.14) 今後の活動についての意見交換

第9回(2002.01.31) 「有明海沿岸地域における集住地特性」 理工学部助手 後藤隆太郎

「多元主義的・政府間政策評価の可能性」 経済学部助教授 中西一

第10回(2002.03.02) 公開研究会

第1部:報告

1. 『有明海異変』をどう捉えるか」 経済学部教授 蔦川正義

2. 『有明海特別法』について考える」 経済学部助教授 樫澤秀木

第2部:現状分析・問題提起

1. 「干拓地の低湿地農耕と干潟漁労の複合的生業のもつ意味」農学部助教授 五十嵐勉
2. 「音文化と環境」文化教育学部教授 田中健次
3. 「有明海沿岸地域における集住地特性」理工学部助手 後藤隆太郎
4. 「多元主義的・政府間政策評価の可能性ー諫早湾問題から評価論の国際的潮流を展望するー」

経済学部助教授 中西一

第3部:討論

第11回(2002.05.22)「地理情報システム(GIS)を用いた佐賀県土地利用の空間解析」

文化教育学部助教授 山下宗利

第12回(2002.06.28.)「入会権と入浜権？」 弁護士、西南学院大学名誉教授 中尾英俊

第13回(2002.11.16) 有明海シンポジウムで報告

「有明海・いま何が問題か」 経済学部教授 蔦川正義

「有明海沿岸地域のハザードマップ」 文化教育学部助教授 山下宗利

第14回(2002.12.05)「有明海沿岸地域のハザードマップ」文化教育学部助教授 山下宗利

第15回(2003.03.08) 公開研究会

第1部:報告

1. 「本研究会の趣旨について」 経済学部教授 蔦川正義

2. 「近年の佐賀県有明海区漁獲動向ー玄海海区と比較してー」

佐賀大学海浜台地生物生産研究センター副センター長 小林恒夫

3. 「流通からみた有明海の変化」 福岡県魚市場(株)顧問 近藤潤三

4. 「有明海と私たちの食生活」 フードプロデューサー 橋本祐充子

5. 「貝紫の話」 玉木女子短期大学教授

6. 「豊饒の筑紫潟」 自治体職員・日用釣師 古川清久

第2部:討論

第16回(2003.06.11)今後の活動についての意見交換

第17回(2003.12.09)今後の活動についての意見交換

第18回(2004.01.28)「有明海沿岸の現状(漁・祭り・集落の変容など)」 漁師 寺田一成

第19回(2004.03.13)「有明海の漁民の生活」 アマチュアカメラメン 南里忠宏

3. 市民参加のまちづくり研究会 2001～2004 年度

従来の行政や商業者主体のまちづくりではなく、市民を中心にしたまちづくりを構想し、具体化していくためのシナリオを3ケ年で描くことを計画。2001年12月に、学生のサークル・学生まちづくり広場「ば

るん」を発足させ、学生の視点からも活動を開始。

第1回(2001.10.04) 発会

第2回(2001.11.12)「中心市街地の活性化に向けた世界各地での取り組み」理工学部助教授 三島伸雄

第3回(2001.11.27)佐賀市企画課・都市計画課・町づくり推進課・産業振興課との懇話会

第4回(2002.05.28)「佐賀のまちに、高い煙突を」地域情報プロデューサー 川本喜美子

第5回(2002.07.02)八女中心商店街(八女市)視察、九州芸術工科大学助教授の藤原恵洋氏訪問

第6回(2002.07.08)六ツ門商店街(久留米市)視察、高齢者快適生活づくり研究会代表理事の吉永美佐子氏訪問／鳥栖中心商店街(鳥栖市)視察、鳥栖 YOSAKOI 実行委員会を訪問

第7回(2002.07.24)第1回水市民講座「川づくりと住民参加」(武雄工事事務所所長 島谷幸宏)に参加

第8回(2002.07.26)「第3回佐賀商人塾・(佐賀市商工振興課主催)魚町商店街(北九州市)視察」に参加

第9回(2002.08.01)「市民参加のまちづくり～人にやさしい街を目指して～」

高齢者快適生活づくり研究会代表理事 吉永美佐子

第10回(2002.08.07-08.08)県内商店街(鹿島市、武雄市、伊万里市、唐津市)視察

第11回(2002.09.12)まちづくり研究会代表の三原宏樹氏を訪問

第12回(2002.09.19-09.20)岐阜経済大学・マイスター倶楽部と名古屋学院大学・人コミュ倶楽部視察

第13回(2002.10.17)「アートを通じて、ものづくり、まちづくり」

まちづくり研究所代表／(株)アルフデザイン代表取締役 三原宏樹

第14回(2002.10.11)佐賀大学地域貢献推進室分室「ゆっつら〜と館」改装前の下見

第15回(2002.12.06)「産官学民による鳥栖市商店街の取組み事例」龍谷短期大学助教授 西光義秀

第16回(2003.02.05)「住民参加のまちづくり—長田の良さを生かした街づくり懇談会とかつちえる城栄の経験から—」長崎大学経済学部 山口純哉

第17回(2003.03.16)「わが町に住む人々の孤独と不安と悲しみ」文化教育学部教授 北川慶子
他

第18回(2003.04.01)「昭和30年代のまちづくり」(大分県豊後高田市)視察

第19回(2003.04.24)「佐賀県の自治体における財務情報開示の現状と課題—県および7市の事例」
経済学部教授 山下寿文

第20回(2003.05.18~19)「黒壁のまちづくり」(滋賀県長浜市)視察

第21回(2003.07.09)「六角堂スクエア」(福岡県久留米市)視察

第22回(2003.08.29~09.04)「花とみどりのまち」(ニュージーランド・オークランド市)視察

第23回(2003.10.09)四ヶ町商店街(長崎県佐世保市)視察

第24回(2004.03.06)「学生によるまちづくり」に取り組む研究者の交流会

(「まちづくりカレッジ in 佐賀」連携事業)

- 第 25 回 (2004.03.10)「地域通貨の取り組み」 島根大学法文学部助教授 飯野公央
- 第 26 回 (2004.03.27)「地域通貨『木屋』について」 NPO 法人かごしま文化研究所代表 三嶽公子
「地域通貨『ガウ』について」 NPO 法人北町大家族代表 村上孝子
「地域通貨『千姫』について」 NPO 法人千姫プロジェクト理事 進藤淳三
- 第 27 回 (2004.03.28～30)「鶴見西口オープンカフェ協議会」(神奈川県横浜市北町商店街)、
「小江戸川越のまちづくり」(埼玉県川越市)視察
- 第 28 回 (2005.03.26)まちづくりシンポ
基調講演「みずから創りみずから育てる国土(くに)と都市(まち)～21世紀オランダ・モデルに学ぶ
市民参加と生活哲学～」 九州大学大学院芸術工学研究院助教授 藤原恵洋
報告「ゆつつら～と館のこれまでの取り組みと今後の展望」 ゆつつら～と館館長 長安六
意見交換

4. 平成の市町村合併研究 2001 年度～2006 年度

市町村合併問題がマスコミ等で報じられるようになり、大学の立場から取り組むことができる合併問題に関する研究会を発足。

- 第1回 (2001.10.05) 発会
- 第2回 (2001.11.06)「平成の市町村合併の現状と課題」 経済学部教授 濱内繁義
- 第3回 (2001.12.03)「市町村合併について」 経済学部教授 濱内繁義
- 第4回 (2002.05.16)「合併問題の財政的側面」 経済学部助教授 中西一
- 第5回 (2002.06.27)「佐賀県の市町村合併について」 久留米大学経済学部教授 大矢野栄次
- 第6回 (2002.07.25)「市町村合併とまちづくり」 文化教育学部教授 田中豊治
- 第7回 市町村合併シンポジウム(2003.02.22)
「平成期の市町村合併はどうなるのか?～市町村合併が佐賀県に及ぼす影響について～」
- 第1部 報告
1. 「佐賀県における市町村合併の現状について」 佐賀県市町村課課長 中野哲太郎
 2. 「まちづくりの視点から見た市町村合併について」 佐賀電算センター専務取締役 浅川達夫
 3. 「女性の目から見た市町村合併について」 地域情報プロデューサー 川本喜美子
 4. 「市町村合併問題研究会の総括」 経済学部教授 濱内繁義
- 第2部 討論
- 第 8 回 (2003.06.17)「なぜ、合併しないといけないのか?」座談会
- 第 9 回 (2004.02.20)「市町村合併について考える(その1)～なぜ今、市町村合併なのか～」

経済学部教授 濱内繁義

第10回(2004.02.27)「市町村合併について考える(その2)～合併で、佐賀県はどうなるのか」

経済学部教授 濱内繁義

第11回(2004.03.26)先進地視察・熊本県中球磨郡あさぎり町

第12回(2004.09.17)「市町村合併成立後の過疎対策について」 経済学部教授 濱内繁義

第13回(2005.03.26)先進地視察・福岡県宗像市

第14回(2005.07.13)「行政と協働による住民主体のまちづくり」

宗像市市民部コミュニティ課推進担当係長 大隈義仁

第15回(2005.12.21)今後の研究会の運営について

第16回(2006.05.12)「平成期における市町村合併の功罪」 経済学部教授 濱内繁義

第17回(2006.05.17)「佐賀県における市町村合併の現状と課題」 経済学部教授 濱内繁義

第18回市町村合併シンポジウム(2007.03.25)

「みんなで考えませんか？子供たちが大きくなったときの”佐賀“」

第1部 基調講演

「合併後の自治体自立化の必要性について～内部市場の進展と生産(農業)基盤の確保～」

経済学部教授 濱内繁義

第2部 討論 パネラー (株)佐賀 IDC 代表取締役社長 浅川達夫、

(有)サンエヌフーズ代表取締役 中嶋洋一、フリーカメラマン 角縁直子

5. 佐賀地域経済研究会 1989年度～

「佐賀県内における地域経済問題に関する情報交換・研究を行うことにより地域の振興に寄与する」ことを目的に発足。(財)佐賀経済調査協会を事務局に、佐賀県、県内の市(企画担当課)、民間、大学教員などを会員に研究会を開催。2007年度より、当センターが事務局を担当。

2008年度より、自治体会員からの地域課題について調査も実施。

発 会(1989.04.28)

第1回(1989.06.05)「都市経済の現状と課題(佐賀市の事例)」 佐賀市企画室長 小柳忠彦

「地域情報化について」 経済学部助教授 常盤洋一

第2回(1989.07.03)「佐賀県の地場産業と情報化」 経済学部助教授 大矢野栄次

第3回(1989.08.07)「伊万里市におけるテレトピア計画」 伊万里市テレトピア推進室長 内田秀俊

「武雄市におけるテレトピア計画」 武雄市市長公室次長 井上一夫

第4回(1989.09.04)「情報化の現状と施策」 佐賀県企画局情報システム課主査 志波幸男

「多久市快適環境整備計画について」 多久市企画開発課長 永石英彦

- 第5回(1989.10.02)「ふるさと創世事業への取り組みについて」各市・佐賀県地方課
- 第6回(1989.11.06)「佐賀県内消費者購買動向のこの10年間の推移」経済学部教授 飯盛信男
「佐賀農業における中山間地農業の今日的役割」経済学部助手 奥松安六
- 第7回(1989.12.04)「地域経済圏の変遷と相互依存」経済学部助教授 大矢野栄次
- 第8回(1990.02.05)「外国人労働者をめぐって」経済学部教授 中原弘二
- 第9回(1990.04.09)「山積する大型プロジェクトへの対応－鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業の概要と進捗状況－」鳥栖市企画課長 樋口邦雄
- 第10回(1990.05.07)「九州横断自動車道の開通をふまえた佐賀市の将来都市像について」
佐賀市企画課長 小柳忠彦
- 第11回(1990.06.04)「幕末における佐賀藩の科学技術摂取について」経済学部教授 長野暹
- 第12回(1990.09.03)「アメリカの政治と経済」経済学部助教授 大矢野栄次
「ヨーロッパの街づくりと産業政策」佐賀市企画課長 小柳忠彦
- 第13回(1990.10.01)「J.アングラスンのスコットランド高地地方開発論」経済学部教授 飯塚正朝
- 第14回(1990.11.05)「多久市の現況と発展策について」多久市市長 百崎素弘、同企画課長 永石英彦
- 第15回(1990.12.10)「今の金融動向を顧みる」日本銀行佐賀事務所長 佐藤和夫
- 第16回(1991.02.04)「変化の時代と佐賀」佐賀市文化会館館長 貞森比呂志
- 特別講演会(1991.02.13)「最近の中国事情について」
中国社会科学院世界経済・政治研究所高級研究員・金沢大学外国人専任教授 凌星光
- 第17回(1991.04.08)「佐賀県の地場産業について」経済学部教授 蔦川正義 他
- 第18回(1991.05.20)「佐賀の地価について」日本不動産研究所佐賀支所長 森田明成
- 第19回(1991.06.03)「佐賀県の情報・通信について」NTT佐賀企画部長 井植忠男
- 第20回(1991.07.01)「中国における世界経済モデルの開発」
中国社会科学院世界経済・政治研究所総合統計研究室代主任 陳沙
「一次元インターリレーションモデルと国民経済システムの予測及び制御について」
中国社会科学院世界経済・政治研究所世界経済理論研究室主任 沈華嵩
- 第21回(1991.09.09)「日韓国際シンポジウム報告」経済学部助教授 大矢野栄次 他
- 第22回(1991.10.07)「伊万里市の行政施策の現状について」伊万里市助役 富村繁雄、伊万里市企画課
- 第23回(1991.11.11)「多変量解析を用いた佐賀県の地域区分」教育学部講師 山下宗利
- 第24回(1991.12.02)「県都を考える」佐賀市助役 富永貞夫、佐賀市企画課長 荒木義信
- 第25回(1992.02.03)「佐賀のコメ流通事情～なぜ凶作の中でヤミ米が出回ったのか～」
NHK佐賀放送局 弥富仁
- 第26回(1992.04.06)「九州経済白書と佐賀」経済学部教授 蔦川正義
- 第27回(1992.05.18)「農業農村活性化事業について」経済学部助教授 奥松安六

- 第 28 回(1992.06.02)「日本における外国人労働者の問題について」 経済学部助教授 ラタナーヤカ・ピャダーサ
- 第 29 回(1992.07.06)「地方における新聞制作について」 朝日新聞社佐賀支局長 江上泰
- 第 30 回(1992.09.14)「鹿島市の状況について」 鹿島市長 桑原允彦
- 第 31 回(1992.10.05)「九州経済の浮揚と地域間格差の是正」 経済学部助教授 大矢野栄次
- 第 32 回(1992.11.09)「幕末期における佐賀・唐津の地域的特徴について」 経済学部教授 長野暹
- 第 33 回(1992.12.07)「都市環境用水の話～佐嘉神社裏の松原川を流れる水は何の水でしょう?!」
経済学部教授 蔦川正義
- 第 34 回(1993.02.01)「新春雑感」 日本銀行佐賀事務所長 木下正俊
- 第 35 回(1993.04.12)「地域経済研究会の今後の運営について」 佐賀経済調査協会理事長 宮崎善吾
- 第 36 回(1993.05.10)「人口をめぐる諸問題」 佐賀市企画課長 北島修
「交流人口の増加を目指して」 鹿島市企画課長 井手口馨
- 第 37 回(1993.06.07)「生活農業論について」 経済学部助教授 奥松安六
- 第 38 回(1993.07.05)「鳥栖市の人口と諸問題について」 鳥栖市企画課長 篠原正孝
「住みたい街、訪れたい街、そしてもえる街 武雄の街づくり」 武雄市企画情報課長 古川弘安
- 第 39 回(1993.09.13)「多久市の人口について」 多久市企画課長 蒲原鉄也
「伊万里市の人口問題について」 伊万里市総務部次長 多久島隆
- 第 40 回(1993.10.04)「地球環境保護に関する国際的な法制度の課題」 経済学部助教授 一之瀬高博
特別講演会(1993.10.08)「地域格差と地域葛藤―日韓比較の試み」韓国・全南大学校経済学科教授 朴光淳
- 第 41 回(1993.11.08)「人口問題と街づくり」 唐津市企画調整課長 佐伯正友
「人口と佐賀県の課題について」 佐賀県企画調整課 北島正博
- 第 42 回(1993.12.06)「佐賀県・各市の施策への要望や経済の展望について」
嬉野温泉観光協会副会長 小原健史
- 第 43 回(1994.02.07)「少産社会の問題点について」 経済学部教授 濱内繁義
- 第 44 回(1994.04.11)「地域社会の変動と自治体組織の変革～住民と行政の新しい接点を求めて～」
教育学部助教授 田中豊治
- 第 45 回(1994.05.16)「世界・炎の博覧会について」 世界・炎の博覧会事務局次長 中野啓
- 第 46 回(1994.06.06)「唐津・東松浦地方拠点都市地域基本計画」 唐津市企画調整課長 佐伯正友
- 第 47 回(1994.07.18)「日韓中・学術交流シンポジウム～農産物市場開放体制下の農業問題～を終えて」
経済学部助教授 長安六
- 第 48 回(1994.10.17)「佐賀空港と九州国際空港」 久留米大学経済学部教授 大矢野栄次
- 第 49 回(1994.11.07)「鳥栖市の状況について」 鳥栖市企画課長 篠原正孝
- 第 50 回(1994.12.05)「住んでみた、歩いてみた中国～社会主義市場経済の実態」 経済学部教授 水野一郎
- 第 51 回(1995.02.06)「イギリス社会の特異性～イギリスに滞在して～」 経済学部教授 楊枝嗣朗

- 第 52 回(1995.04.17)「佐賀の活性化(長所・短所)～フリートーキング」
- 第 53 回(1995.05.15)「佐賀県での地域情報化事例」佐賀電算センター常務取締役 浅川達夫
「見えるラジオについて」 FM 佐賀放送次長 小川正則
- 第 54 回(1995.06.12)「農業経営基盤促進事業への取り組みについて」 経済学部助教授 長安六
- 第 55 回(1995.07.03)「マルチメディアの現況と今後の課題」 NTT九州支社経営企画部長 柳澤繁
- 第 56 回(1995.09.18)「自治体の情報発信について」 経済学部助教授 安田伸一
- 第 57 回(1995.10.09)「高速道路とまちづくりについて」 日本道路公団福岡管理局長 末永哲人
- 第 58 回(1995.11.20)「佐賀市総合計画について」 佐賀市企画課長 森下久
- 第 59 回(1996.12.04)「最近の金融経済情勢について」 日本銀行佐賀事務所長 小栗誠治
- 第 60 回(1996.02.15)「住民参加とまちづくりシステム」 教育学部助教授 田中豊治
- 第 61 回(1996.04.22)「現代日本における雇用の弾力化政策～「日本的」労使関係の変貌～」
経済学部助教授 塚本一郎
- 第 62 回(1996.05.27)「中国ビジネスの裏話」(株)代表取締役社長 江口征成(王征成)
- 第 63 回(1996.07.01)「佐賀県における国際交流の現状について」佐賀県国際交流課国際交流係長石橋正彦
- 第 64 回(1996.09.30)「市村清の事績と思想」 経済学部助教授 山本長次
- 第 65 回(1996.10.21)「アジア三カ国の農業農村調査から」 経済学部助教授 長安六
- 第 66 回(1996.11.18)「佐賀県の貿易について」 (社)佐賀県貿易協会事務局次長 槻木正伸
- 第 67 回(1996.12.16)「規制緩和の現況について」 経済学部教授 濱内繁義
- 第 68 回(1997.03.10)「海外における起業家支援プログラムと地域経済への効果」 経済学部教授 福島宏
- 第 69 回(1997.04.8)「生協の福祉事業～コープ神奈川の事例」 経済学部助教授 塚本一郎
- 第 70 回(1997.05.13)「市立図書館の経緯と現状と課題」 佐賀市立図書館館長 千葉治
- 第 71 回(1997.06.13)「佐賀の地価動向と全国賃料統計・市街地価格調査の紹介」
(財)日本不動産研究所佐賀支所長 森幸太郎
- 第 72 回(1997.07.14)「世界・炎の博覧会の開催効果について」
佐賀県企画局地域振興課企画調整主査 志岐宣幸
- 第 73 回(1997.10.13)「江戸時代の朝鮮通信使について」 佐賀県立名護屋城博物館主査 山口久
範
- 第 74 回(1997.12.16)「地球温暖化と私たちの役割～地球規模で考え、地域で活動する～」
環境市民会員 林靖幸
- 第 75 回(1998.02.02)「ネットワーク社会と地域のあり方」 情報通信ジャーナリスト 高田正純
- 第 76 回(1998.04.21)「市街地活性化について～佐賀市都市部を中心として～」
佐賀大学科学技術共同開発センター副センター長 金澤成保
- 第 77 回(1998.05.16)「活力とうるおいのある佐賀の都市づくり」 佐賀県都市計画課課長 高森誠

- 第 78 回(1998.06.26)「中心市街地の活性化について」 佐賀市助役 川崎正彦
- 第 79 回(1998.10.27)「地域創造～新しい地域主体の形成～」 文化教育学部教授 田中豊治
- 第 80 回(1998.12.10)「福祉コミュニティーの形成～エンゼルプラン、障害者福祉プラン、介護保険制度を通して～」 地域政策コンサルタント(有)セピ代表取締役 田中卓哉
- 第 81 回(1999.03.16)「イギリスにおける産業遺産の活用」 経済学部助教授 山本長次
- 第 82 回(1999.04.16)「司馬遼太郎さんと佐賀」 文芸春秋社常務取締役 竹内修司
- 第 83 回(1999.06.25)「福祉でまちづくり～社会福祉の基礎構造改革・介護保険制度新設をふまえて」
文化教育学部助教授 田中英樹
- 第 84 回(1999.07.27)「佐賀県における介護保険の準備状況」 佐賀県介護保険準備室副室長 小柳勉
- 第 85 回(1999.12.13)「生涯学習から見た高齢者問題」 文化教育学部助教授 上野景三
- 第 86 回(2000.03.22)「市民参加とまちづくり」 経済学部教授 蔦川正義
- 第 87 回(2000.04.27)「市民参加とまちづくり～フォーラム鹿島とガタリンピック」
フォーラム鹿島代表世話人 土井敏行
- 第 88 回(2000.05.30)「ドイツの地方自治事情～住民投票制度のしくみと実例～」 経済学部教授 村上英明
- 第 89 回(2000.06.23)「地域づくりと大学のかかわり」 佐賀県地域・情報政策課副課長 小柳勉
- 第 90 回(2000.07.21)「第 4 次武雄市総合計画基本構想策定について」
武雄市企画情報課企画調整室長 大庭健三
- 第 91 回(2000.09.13)「街づくりにおける土地利用～改正都市計画法と中心市街地活性化との関連」
(財)日本不動産研究所佐賀支所所長 寺山三男
- 第 92 回(2000.10.20)「郊外大型店の開店とその影響にみるまちづくり」 大和町議会議員 平原嘉徳
- 第 93 回(2000.11.20)「介護保険の現状と課題～介護保険で幸せな老後を～」
佐賀県福祉保健環境部長寿社会課副課長 西村芳昭
- 第 94 回(2000.12.12)「2000SAGA International Balloon Fiesta の波及効果について」
佐賀市熱気球推進室 池田剛
- 第 95 回(2001.02.09)「市民参加の一手法について～佐賀市総合計画策定における市民ワークショップを事例として～」 (財)九州経済調査協会 内田和実
- 第 96 回(2001.04.27)「夢・輝く『人財"有"県 生活"悠"県』のさがづくり～新しい県総合計画について」
佐賀県企画調整課参事 山口和之
- 第 97 回(2001.05.23)「佐賀空港の現状および今後の課題と取り組みについて」
佐賀県空港・交通課技術監 山口博訓
- 第 98 回(2001.06.22)「吉野ヶ里歴史公園の開園について～国営歴史公園としての位置付け、その特徴および意義～」 国土交通省国営吉野ヶ里歴史公園工事事務所所長 藤吉信之
- 第 99 回(2001.07.27)「フランスの行政評価と自治体経営」 経済学部助教授 中西一

- 第 100 回(2001.09.26)「佐賀地域経済研究会の意義と役割」討論会
- 第 101 回(2001.11.06)「平成の市町村合併問題の現状と課題」 経済学部教授 濱内繁義
- 第 102 回(2001.12.21)「教育の情報化について～佐賀県内の取り組み～」
(株)佐賀電算センター専務取締役 浅川達夫
- 第 103 回(2002.01.25)「地域情報の収集・管理・運用システムの構築について～九経調・経済図書館
の事例から～」 (財)九州経済調査協会情報研究部編集担当部長 高田鎮雄
- 第 104 回(2000.02.26)「戦後の証券市場について」 経済学部教授 古賀公治
- 第 105 回(2002.05.21)「21 世紀の佐賀経済の姿とその実現へ～九州経済同友会提言より考える～」
国際経営情報センター・サガ代表幹事 野中明
- 第 106 回(2002.06.18)「佐賀空港と PFI」 (財)日本不動産研究所佐賀支所所長 寺山三男
「長崎県と佐賀県にとっての九州国際空港」 長崎県立大学助教授 矢野生子
- 第 107 回(2002.07.18)「アメリカの小さな町」 佐賀大学経済学部教授 納富一郎
- 第 108 回(2002.09.28)日韓中・国際学術交流シンポジウム「アジア経済における WTO の影響」に参加
- 第 109 回(2002.10.21)「河川を通じた官民協働関係」 国土交通省武雄工事事務所所長 島谷幸宏
- 第 110 回(2002.12.06)「産官学民による鳥栖市商店街の取組み事例」 龍谷短期大学助教授 西光義秀
- 第 111 回(2003.01.24)「宝くじを活用した地域振興(高島の事例)」 唐津市地域振興課係長 山下末二
- 第 112 回(2003.03.04)「地域と産業(佐賀地域経済研究会の活動に寄せて)」 経済学部教授 葛川正義
- 第 113 回(2003.04.25)「佐賀大学が仕掛けるまちづくり(コミュニティータウン構想)」経済学部教授 長安六
- 第 114 回(2003.05.27)「商店街とまちづくり(長浜のまちづくりを中心に)」 経済学部教授 岩永忠康
- 第 115 回(2003.06.14)日本計画行政学会九州支部大会「地域間連携と計画行政」に参加
- 第 116 回(2003.07.11)「街づくり推進課ってなに」 佐賀市街づくり推進課課長 池田剛
- 第 117 回(2003.09.26)「道路整備の建設マネジメントシステムの改革について」 佐賀国道事務所所長
吉原匠
- 第 118 回(2003.12.01)「伊万里市のまちづくり」 伊万里市男女協働・国際交流課副課長 小島利津
「伊万里市商店街の現況と活性化の方策」 伊万里市商工観光課課長 川久保茂
- 第 119 回(2004.01.30)「佐賀のまちづくりを考える(人を大切にしたいまちづくり)」
NPO 法人まちづくり協会理事長 三橋重昭
- 第 120 回(2004.03.06)「まちづくりカレッジ in 佐賀」に参加
- 第 121 回(2004.04.21)「新年度のプロジェクトについて」
- 第 122 回(2004.07.01)行政部会「行政部会の発足と地域機材研究会の事業について」
- 第 123 回(2004.07.30)「住民参加による公共事業の計画・建設そして管理～公園改修と環境基本計
画の策定として～」 (株)アースクリエーション代表取締役 小野仁
- 第 124 回(2004.10.04)行政部会「中心市街地再生プロジェクトの立ち上げについて」

- 第 125 回(2004.11.24)「市民が主役のまちづくり～ワークショップの実践を通して～」
 (株)アーバンデザインコンサルタント取締役営業開発部長 十時裕
- 第 126 回(2004.12.13)「～子づれ DE CHA・CHA・CHA! を軸とした～21 世紀のバリアフリー街づく
 り計画」 NPO 法人男女・子育て環境改善研究所理事長 濱砂圭子
- 第 127 回(2005.01.17)行政部会「中心市街地再生プロジェクトアンケート調査の結果について」 座長 長安六
- 第 128 回(2005.02.15)現地視察「宗像市のコミュニティを中心としたまちづくりについて」
 宗像市市民部コミュニティ課推進担当係長 大隈義仁、日の里地区コミュニティ運営協議会事務局長 平川周造
- 第 129 回(2005.03.26)「みずから創りみずから育てる国土(くに)と都市(まち)～21 世紀オランダ・モ
 デ
 ルに学ぶ市民参加と生活哲学～」 九州大学大学院芸術工学研究院助教授 藤原恵洋
- 第 130 回(2005.05.30)行政部会「今年度の活動についての意見交換」
- 第 131 回(2005.05.30)「新年度のプロジェクトについての意見交換」
- 第 132 回(2005.07.13)「行政と協働による住民主体のまちづくり」
 宗像市市民部コミュニティ課推進担当係長 大隈義仁
- 第 133 回(2005.09.28)「中心市街地のまちづくり～補助金でつくる街から人がつくる街へ～」
 佐賀市街づくり推進課長 池田剛
- 第 134 回(2005.10.19)「地域経営の理論と実践～福岡における都心再生と郊外開発管理の試み～」
 (財)福岡アジア都市研究所主任研究員 後藤太一
- 第 135 回(2005.11.16)行政部会「唐津市中心市街地視察」
- 第 136 回(2005.11.30)行政部会「鹿島市中心市街地視察」
- 第 137 回(2005.12.14)行政部会「鳥栖市中心市街地視察」
- 第 138 回(2006.01.23)「波佐見町ツーリズム運動の変遷」長崎県陶磁器卸商業協同組合理事長 児玉盛介
- 第 139 回(2006.02.14)行政部会「伊万里市中心市街地視察」
- 第 140 回(2006.02.21)行政部会「武雄市中心市街地視察」
- 第 141 回(2006.02.24)行政部会「多久市中心市街地視察」
- 第 142 回(2006.03.16)「中心市街地再生プロジェクト調査の取りまとめ」 経済学部教授 長安六
- 第 143 回(2006.05.17)「佐賀県内における市町村合併の現状と課題」 経済学部教授 濱内繁義
- 第 144 回(2006.06.21)「山内亮一旧宅について」 NPO 法人まちづくり研究所理事長 三原宏樹
- 第 145 回(2006.07.19)「世界に羽ばたけ！有田焼～有田焼万華鏡の開発を通して～」
 (有)佐賀ダンボール商会代表取締役副社長 石川慶藏
- 第 146 回(2006.10.18)「まちづくり三法と TMO の今後について」TMO 佐賀タウンマネージャー 伊豆哲也
- 第 147 回(2006.11.15)「佐賀県 CSO の現状と課題」NPO 法人佐賀県 CSO 推進機構代表理事川副知子

第 148 回(2007.02.21) 行政部会報告「IT によるコミュニティネットワークの構築」 本研究会座長 長安六

第 149 回(2007.05.23)「人口減少時代の到来と地域経済」 財)九州経済調査協会調査研究部次長縄田真澄

第 150 回(2007.07.25) 第 150 回記念シンポジウム「人口減少時代の到来と地域経済」

- ・ 問題提起「人口減少時代の到来と地域経済」佐賀大学経済学部准教授 戸田順一郎
- ・ シンポジウム

第1部 県内7市からの報告

佐賀市「人口問題～佐賀市の現状と今後の取組み～」

唐津市「①放課後児童クラブと子育て支援策 ②コンパクトシティの推進」

鳥栖市「①団塊ジュニア世代対策 ②ごみステーションの設置」

伊万里市「①自治体組織の縮小化と新たな公づくり ②ゴミ処理広域化の取組み ③企業誘致」

多久市「安心して子育てしやすい環境づくりを目指して」

武雄市「①市民意識とがばいばあちゃん ②保育所・幼稚園の統廃合」

鹿島市「浜地区・大村方地区の景観保全と観光資源開発の取組み」

第2部 討論

第 151 回(2007.10.10)「人口減少社会と社会福祉」 文化教育学部教授 北川慶子

第 152 回(2007.11.21)「人口減少社会における社会資本整備の手法の研究

—中山間地域(・離島)地域—」 農学部准教授 五十嵐勉

第 153 回(2008.01.23)「人口減少期における持続的都市構築の課題」 理工学部教授 外尾一則

第 154 回(2008.05.28 「最近の金融経済情勢について」 日本銀行佐賀事務所所長 吉住健二

第 155 回(2008.07.23) 佐大大学会館多目的ホール

佐賀大学地域経済研究センター設立 20 周年記念シンポジウム

『地方における大学の役割～地域に求められる文系学部のセンターとは～』

- ・報告1「新・地域経済研究センター構想の紹介」 同センター長 長安六
- ・報告2「久留米大学産業経済研究所の取組みについて」

久留米大学経済学部附属産業経済研究所 所長 藤田八暉

- ・パネルディスカッション

パネラー 佐賀県統括本部副本部長 山崎忠文

佐賀県経営者協会専務理事 青山祐二

佐賀市勤興公民館館長 秋山千潮

久留米大学経済学部附属産業経済研究所所長 藤田八暉

佐賀大学経済学部地域経済研究センターセンター長 長安六

第 156 回(2008.10.22) 行政部会 8市会員の意見交換

第 157 回(2008.11.10)「地方伝統産業の経営発展～佐賀県有田香蘭社の事例から～」

帝塚山大学経営情報学部准教授 山田雄久

第 158 回(2008.11.26) アバンセ

佐賀地域経済研究会発会 20 周年記念シンポジウム『食と農から探る地域の活性化』

共催:佐賀経済同友会

後援:佐賀県、佐賀県農業協同組合中央会、佐賀県生活協同組合連合会、NHK 佐賀放送局、STS サガテレビ、NBC ラジオ佐賀、エフエム佐賀、朝日新聞社、西日本新聞社、読売新聞西部本社、毎日新聞

・基調講演 「食の安全と農」 放送大学佐賀学習センター客員教授 田中欽二

・パネルディスカッション

コーディネータ 佐賀地域経済研究会座長 長安六

パネラー 味の素(株)九州事業所所長 田中清

JAさが常務理事 水田徳美、

佐賀県生産者支援課主幹 熊谷節子

コープさが生活協同組合常任理事 吉田裕子

第 159 回(2009.01.28)

「戦後の経済復興と中小企業の発展について」 佐大経済学部教授 福島宏

「大規模商業施設の郊外開発規制誘導と撤退後の方策について」 佐大経済学部教授 濱内繁義

第 160 回(2009.05.27) 「地域経済社会の再生と大学—昨年度のシンポジウムを受けて—」

本会座長 長安六

第 161 回(2009.07.22) 地域課題調査「学校給食における地産地消のあり方について—中間報告—」

佐賀大学経済学部准教授 品川優

第 162 回(2009.09.30)

「自治体クラウドとシステムのASP/SaaS 化の取り組み」 (株)IDC 代表取締役社長 浅川達夫

第 163 回(2009.10.28)「佐賀市から世界遺産を」佐賀市企画調整部歴史まちづくり課課長 松村健

第 164 回(2009.11.18)「近現代の鳥栖・基山地域への企業進出」 佐大経済学部准教授 山本長次

第 165 回(2010.01.20) アバンセ

公開シンポジウム「佐賀県の陶磁器産業～佐賀のやきもの再発見！」

・内容 ◎現状と課題 ◎パネルディスカッション

・報告およびパネラー 大塚武司 佐賀県農林水産商工本部商工課課長

北川節子 嬉野温泉大村屋女将、おかみの会会長

北島悦子 薬剤師

畑石眞嗣 (有)畑萬陶苑代表取締役社長

深川祐次 (株)香蘭社代表取締役副社長

第 166 回(2010.05.26) 2008 年度地域課題調査報告

「学校給食における地産池消のあり方について」 佐賀大学経済学部准教授 品川優

第 167 回(2010.09.08) 行政部会

第 168 回(2010.09.22) 2009 年度地域課題調査中間報告(唐津市)

「合併後の新市における都市機能の整備と機能分担について～定住自立圏構想『唐津モデル』推進のために～」 佐賀大学文化教育学部教授 田中豊治

第 169 回(2010.10.27) 「特産品を活用した地域活性化～ニューヨーク流通市場調査における事例等」 武雄市農林商工課主任 古賀敬弘

第 170 回(2010.11.24) 『『多久市のまちなか再生について』-10 年後のまちづくりを目指して-』

商工観光課課長補佐(街づくり係担当) 安田良彦

第 171 回(2011.01.19) 佐賀大学理工学部多目的ホール室

公開シンポジウム「佐賀県の茶産業と茶文化」

基調講演 「佐賀県の茶—現状と課題—」 元佐賀県茶業試験場場長 村岡実

パネラー 茶農家 松尾俊一

原製茶園代表取締役 原英彦

西九州茶業組合連合会参事 山口満夫

NPO 法人高遊外壳茶翁顕彰会理事長 川本喜美子

●地域課題調査

- ・2008 年度「学校給食における地産池消のあり方について」(鳥栖市)

佐大経済学部准教授 品川優

- ・2009 年度「合併後の新市における都市機能の整備と機能分担について～定住自立圏構想『唐津モデル』推進のために～」(唐津市)

佐大文化教育学部教授 田中豊治、佐大経済学部教授 長安六

- ・2010 年度「「温泉」・「食」・「文化」を併せ持つ観光地の構築」(嬉野市)

佐大経済学部教授 長安六、同准教授 山本長次、同 戸田順一郎、同 安田伸一

◆◆◆ 社会連携事業部 ◆◆◆

6. 佐賀大学大学院経済学修士とのネットワークづくり 2001～2003 年度

修士生の追跡調査と修士生とのつながりを継続するために発足。

第1回(2002.02.16) 参加者 45 名

・第1部 15:00～17:00 佐賀ワシントンプラザ

1. 経済学研究科について 経済学研究科長 古賀和文
2. 地域経済研究センターについて 地域経済研究センター長 蔦川正義
3. 修士生からの近況報告

・第2部 交流会 17:00～19:00 佐賀ワシントンプラザ、参加費 2,500 円

第2回(2003.02.15) 参加者 40 名

・第1部 16:00～17:30 ゆっつら～と館

1. 地域経済研究センターについて センター長 蔦川正義
2. ゆっつら～と館について 館長 長安六
3. 出前講座について 経済学部教授 木戸田力
4. 大学の地域貢献について 修士生若干名

・第2部 18:00～20:00 レストランなお巣 参加費 2,500 円

第3回(2004.02.28) 参加者 15 名

・第1部 佐賀再発見 14:00～16:00 佐賀城下ひなまつりなど中心市街地の散策

・第2部 交流会 16:00～17:00 ゆっつら～と館、最近気になる話題の提供をしながら意見交換

・第3部 懇親会 17:30～19:30 ゆっつら～と館、参加費 1,500 円

7. 自治体とのネットワークづくり 2001～2002 年度

①町村総務課長研修に講師として(2001.08.09-10) 経済学部教授 村上英明

②定期幹事会に出席(2001.09 月) 経済学部教授 長安六、同 村上英明

③佐賀郡全議員研究会(佐賀郡町村議会議長会主催)の講師として(2002.02.09)

「佐賀の暮らしと自治を考える」 経済学部教授 蔦川正義

④講演(2002.08.23) 主催:佐賀県町村会、場所:ホテル・ビアントス(鳥栖市)

「平成期の大合併をどう理解するかー地方自治行政の変容を、どう受け止めるか」 経済学部教授 濱内繁義

⑤政策法務研修[市町村職員]の講師として(2003.06.30-07.01) 経済学部教授 濱内繁義

⑥政策法務研修[県職員]の講師として(2003.10.16-17) 経済学部教授 濱内繁義

⑦政策法務研修[佐賀市職員]の講師として(2003.10.02) 経済学部教授 濱内繁義

8. ウォッチング佐賀 2000 年度～2009 年度 []内は参加者数、参加費

●市民版

地域貢献事業の一環として計画。2008年度から開催している公開講座「みんなの大学」でも実地研修があるため、2010年度より対象を区別しない「ウォッチング佐賀」として継続。

第1回(2000.08.04) 多布施川周辺～歴史と自然とトンボ～ [22名、300円]

1. 石井樋地区歴史的水辺整備事業(大和町)
2. 佐賀市水道局・神野浄水場(佐賀市)
3. 神野公園のトンボ池

第2回(2001.03.27) 佐賀の日本一～クルマ産業の九州展開～ [31名、200円]

1. 吉田刃物(株)(多久市)
2. 佐賀大学理工学部附属海洋温度差エネルギー実験施設(伊万里市)

第3回(2001.08.03) 佐賀の買い物スポット～大型店と中心商店街～ [19名、200円]

1. ジャスコ佐賀大和店(大和町)
2. 佐賀市中心商店街(佐賀市)
3. 討論会(656コミュニティー会館)

第4回(2002.03.26) 佐賀のお菓子 [34名、100円]

1. 小城羊羹・山田老舗(小城町)
2. 佐賀錦など・村岡屋(佐賀市)
3. 佐賀のり・サン海苔(佐賀市)

第5回 佐賀の七賢人 [20名、900円(小人400円)]

・事前学習会(2002.11.15)「幕末佐賀の状況」九州国際大学教授 長野暹

・ウォッチング佐賀(2002.11.17)

1. 佐賀県立博物館(佐賀市)
2. 佐嘉神社
3. 徴古館
4. 築地反射炉跡
5. 神野公園
6. 大隈重信記念館
7. 佐野常民記念館(川副町)

第6回(2003.03.26) 武雄の一押し～楠・登り窯・ゆめぎんが～ [16名、1,200～1,700円]

1. 川古の大楠(武雄市)
2. 竹古場キルンの森公園
3. 佐賀県立宇宙科学館

第7回(2003.11.22) 柳川のまちづくり [27名、200円]

1. 昇開橋(諸富町)
2. 柳川遊歩道散策(柳川市)
3. 柳川商店街

第8回(2004.03.25) 自然を満喫 in 中原町 [13名、200円]

1. 鷹取山登山(中原町)
2. 白坂公園
3. 綾部神社・風天山
4. 風の館

第9回 諫早湾干拓地の今を見る [63名、200円] ※法学概論Ⅱとのジョイント企画

・事前学習会(2005.01.19) 経済学部教授 榎澤秀木

・ウォッチング佐賀(2005.01.26)

1. 諫早湾干拓地の全景をみる
2. 中央干拓地、北部排水門を見学する
3. 鹿島市海岸の干潟を見学する

第10回(2004.03.25) 自動車産業を見る [46名、200円]

1. アラコ九州(神埼町)
2. トヨタ自動車九州(福岡県宮田町)

第11回(2005.11.23) 九州最後の炭鉱 池島炭鉱見学[25名、4,000円]

1. バスの中で事前学習会 講師:経済学部助教授 山本長次
2. 三井松浦リソース(株)長崎炭鉱技術研修センター

第12回(2006.02.17) チッソ水俣製造所および関連施設の見学[46名、1,000円]

・事前学習会 当日バスの中でビデオ学習

・ウォッチング佐賀

1. チッソ(株)水俣工場見学
2. (財)水俣病センター相思社による水俣病関連地区見学
3. 元新日本窒素労働組合委員長・山下義寛さんによる当時の社員の話

第13回(2006.10.19) 佐賀大学関連施設見学[28名、1,000円]

1. 九州シンクロトン光研究センター(鳥栖市)
2. 海洋エネルギー研究センター(伊万里市)

第14回(2006.11.29) ハンセン病について学ぶ[42名、1,000円] ※法学概論Ⅱとのジョイント企画

- ・事前学習会(2006.11.22) 佐賀新聞社論説委員長 富吉賢太郎氏
- ・ウォッチング佐賀

1. リデル・ライト両女史記念館(熊本県熊本市)
2. 国立療養所菊池恵楓園(熊本県合志市)

- ・事後学習会(2006.1.17) 映画「あつい壁」上映(1970年)

第15回(2007.08.28) 伝統的建造物保存群地区巡り[19名、2,100円]

※低平地研究会・景観ルックイン「佐賀県鹿島市肥前浜宿の町並み」に一部参加

1. 嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区巡り(嬉野市)
2. 鹿島市浜庄津町浜金屋町・浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区巡り(鹿島市)

第16回(2007.11.27) 鳥栖市の進出企業 [27名、200円] ※出前講座 in 鳥栖との同時企

- ・学習会(同日)「鳥栖市における企業誘致」経済学部准教授 山本長次

1. 森永デザート(株)
2. コカ・コーラウエストジャパン(株)

第17回(2008.02.18~19) 伝承遺産巡り～長崎の中の佐賀～ [18名、17,000円]

- ・学習会(2008.02.18)

「長崎事始」長崎史談会会長 宮川雅一

「軍艦島について」NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会理事長 坂本道徳

1. グラバー園、出島、居留地散策
2. 砲台跡、軍艦島クルーズ
3. 小菅修船場(そろばんドック)
4. 長崎歴史文化博物館
5. 三菱史料館

第19回(2008.11.28) 鳥栖市の進出企業 [25名、100円]

※ 出前講座 in 鳥栖との同時開催

1. 久光製薬(株)
2. (株)トーホー

講義「鳥栖市制の発足と企業誘致」佐大経済学部准教授 山本長次

第20回(2008.12.09) 夕陽が美しいキリシタンの里～遠藤周作が魅せられた町・外海町～[28名、600円]

大野協会、大平作業場跡、バスチャン屋敷跡、出津文化村(出津教会、ド・ロ神父記念館、外海歴史民俗資料館、沈黙の碑 等)、黒崎教会、サン・ジワン枯松神社、遠藤周作文学館 等

第21回(2009.09.16) 軍艦島上陸ツアー [30名、5,000円]

「軍艦島について」NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会理事長 坂本道徳

第22回(2009.10.21~25) 協定校訪問～韓国・全南大学とその周辺地域 [17名、57,000円]

事前学習会(2009.10.08)

映画「5.18 光州」鑑賞

講義「現代韓国の諸問題－歴史的視点から」佐賀大学経済学部准教授 石川亮太

●高校生版

オープンキャンパスが学内事業であるため、実地研修として別に実施。2010年度からは、学生版、市民版と併せて実施予定。

第1回(2008.08.01) 石炭産業を軍艦島に学ぶ[23名、(うち高校生17名、大学生2名)、100円]

講義「佐賀の炭鉱について」経済学部准教授 山本長次

講義「軍艦島について」NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会理事長 坂本道徳

軍艦島クルーズ、フェリーで海上から軍艦島を見学
第2回(2009.12.12) 諫早湾干拓事業を考える[21名(うち高校生9名、大学生10名)、200円]
諫早湾干拓事業関連地を巡り、参加者の報告書作成
車中で事前学習会 経済学部教授 樫澤秀木
現地案内 有明海漁民市民ネットワーク事務局 時津良治

9. 学生版ウォッチング佐賀 1990年度～

学生に佐賀のことを知ってもらい、卒業後も郷土愛を育んでもらうために発足。2010年度より、市民版・学生版・高校生版をなくし、参加対象を区分しない「ウォッチング佐賀」として実施。

第1回(1990.10.04) 北部山間地域 [35名、1,000円]

1. 雄淵・雌淵警告(郭沫若記念碑)
2. 畑瀬(嘉瀬川ダム建設予定地)
3. 古場(りんご園)
4. 上無津呂(吉村家住宅、国定重要文化財)
5. 七山村(鳴神の庄、特産品直売所)
6. 杉山分譲別荘
7. 天山ハイランドビレッジ(スキー場)
8. 天山発電所展示館&発電所

第2回(1991.04.15) 焼き物の里—有田— [35名、1,000円]

1. 有明町歴史資料館と泉山磁石場
2. 岩尾磁器(対山窯と上有田工場)
3. マイセンの森(有明ダム)
4. 有田焼卸団地
5. チャイナ・オン・ザ・パーク
6. 武雄工業団

第3回(1991.10.09) 東部地域 [38名、1,000円]

1. 田代太古古墳(国史跡)
2. 庚申堂塚古墳(県史跡)
3. 安永田遺跡(国史跡)
4. 佐賀競馬場
5. 佐賀東部中核工業団地
6. 大塚製薬研究所&工場
7. 東妙寺

第4回(1992.04.15) 南西部地域[36名、2,000円]

1. 福富町役場(地盤沈下)
2. 有明海堤防(干拓地)
3. ヨーツリ(海外進出企業)
4. 肥前夢街道
5. 鹿島城跡と武家屋敷
6. 視絡線(西日本一)
7. 稲佐神社(日本最古の肥前神社)

第5回(1993.04.27) 唐津地域 [18名、1,000円]

1. 明治ナショナル工場唐津工場
2. 鏡山
3. 虹の松原
4. 唐津城
5. 上場開発(後川内ダム)
6. 志気のシャクナゲ
7. 鶴殿石仏群

第6回(1994.07.14) 佐城・杵藤地区 [11名]

1. 六角川河口堰(福富町)
2. 福富町役場
3. 紳士服縫製工場リムス(北方町)
4. 聖岳 金華山長寿の滝&展望場(大町町)
5. 多久聖廟(多久市)
6. 大平庵酒造資料館

第7回(1994.10.13) 武雄・伊万里地域 [10名]

1. おつぼ山神籠石(史跡)(武雄市)
2. オムロン武雄工場
3. 川古の大楠
4. 伊万里ふるさと村(伊万里市)
5. 秘密の里 大川内山
6. 関所跡・陶工無縁塔・鍋島藩窯公園・窯元巡り

第8回(1995.07.21) 福岡県大川市地域 [7名]

1. 大川市小保・榎津地域(江戸時代後期の建物が点在)
2. 大川家具工業会
3. 大川製材団地
4. 大川家具工業団地
5. 新運送
6. 福岡県インテリア研究所

第9回(1995.10.12) 佐賀市周辺 [11名]

1. 佐賀空港予定地(川副町)
2. 川原食品
3. ふれあいクリーク公園(久保田町)
4. 佐賀市廃棄物最終処分場(佐賀市)
5. 県有明海水産振興センター(芦刈町)

第10回(1996.4.19～20) 浜玉町・七山村・富士町地域 [11名]

1. 山瀬(浜玉町)過疎地域「山瀬の里づくり」
2. 平原(浜玉町)平原「フルーツランド構想」
3. 鳴滝の庄、貸し農園、樫原湿原等
4. 古湯温泉泊(富士町)
5. 天山登山

第11回(1996.10.09) 唐津地域 [7名]

1. 県水産局漁政課栽培漁業センター(波戸岬)
2. 佐賀大学合宿研究所(神集島)
3. 佐賀大学海浜台地生物生産研究センター(唐津市)
4. 宝当神社(高島)

第12回 古紙の再資源化の流れ [18名、500円]

- ・事前学習会(1997.10.08) 経済学部助教授 一之瀬高博
- ・ウォッチング佐賀(1997.10.09)
 1. 佐賀市清掃センター(佐賀市高木瀬町)
 2. 小松商店紙業部(佐賀市兵庫町)
 3. 王子製紙(株)(佐賀郡久保田町)
 4. コトブキ製紙(株)(小城郡牛津町)

第13回 佐賀の酒(製造と流通)[13名、500円]

- ・事前学習会(1998.01.10) 嬉野酒店店主
- ・ウォッチング佐賀(1998.01.10)
 1. 窓の梅酒造(佐賀郡久保田町)
 2. 瀬頭酒造(藤津郡塩田町)
 3. 山口酒造(鹿島市)

第14回 三池炭鉱の跡地探訪 [15名、500円]

- ・事前学習会(1998.03.02) 経済学部教授 蔦川正義
- ・ウォッチング佐賀(1998.03.03)
 1. 昭和アルミニウム缶(株)(大牟田市)
 2. 三池倶楽部
 3. 三池港閘門
 4. 石炭産業科学館
 5. 集治監跡
 6. 宮原堅坑跡
 7. 囚人墓地跡

第15回 佐賀のエネルギー事情[18名、500円]

- ・事前学習会(1998.09.30) 佐賀大学名誉教授 伊藤榮彦
- ・ウォッチング佐賀(1998.10.01) [18名、500円]
 1. 天山揚水発電所(東松浦郡巖木町)
 2. 玄海原子力発電所(東松浦郡玄海町)
 3. 海洋温度差エネルギー実験施設(伊万里市)
 4. さが健康ランド(コジェネレーション設備)(佐賀郡大和町)

第16回(1999.01.23) 商店街のまちづくり [14名、500円]

1. 佐賀市中心商店街(佐賀市)
2. (株)まちづくり佐賀
3. ままごと亭(空店舗対策店)(唐津市)
4. 唐津商工会議所・(有)まちづくり唐津
5. 郊外型大型店ジャスコ建設予定地

第17回 県内の日本一企業 [20名、500円]

- ・事前学習会(1999.02.24) 東京商工リサーチ佐賀支店長 木原忠
- ・ウォッチング佐賀(1999.03.02)
 1. 今村機械(川副町)
 2. 久光製薬(鳥栖市)
 3. くすり博物館

第18回 佐賀の窯業 [14名、500円]

- ・事前学習会(1999.07.09) 有田商工会議所会頭 蒲地昭三
- ・ウォッチング佐賀(1999.07.12)
 1. (株)ヤマトク(有田町)
 2. 志田焼の里博物館(塩田町)
 3. まちづくりの事業概要説明 塩田塾代表 峰松哲也

第19回 県内の日本一企業 ※台風の影響で、前週の定期試験が10.01に実施されることになり中止。

- ・事前学習会(1999.09.29) 県新産業情報課副課長 石橋正彦
- ・ウォッチング佐賀(1999.10.01)
 1. (株)佐賀鉄工所
 2. (株)中山鉄工所
 3. 佐賀県立宇宙科学博物館

第20回 周辺地域編 [32名、500円]

- ・事前学習会(2000.01.21) 経済学部助教授 山本長次
- ・ウォッチング佐賀(2000.01.21)
 1. 三菱重工業(株)長崎造船所(長崎市)
 2. グラバー園(長崎市)

第21回 県内の日本一企業 [33名、500円]

- ・事前学習会(2000.02.23) 経済学部助教授 山本長次
- ・ウォッチング佐賀(2000.02.23)
 1. (株)YBM(旧称:吉田鉄工所)(唐津市)
 2. (有)萬坊(鎮西町)

第22回 水の浄化システム [23名、300円]

- ・事前学習会(2000.07.06) 経済学部教授 蔦川正義

- ・ウォッチング佐賀(2000.07.19)
 1. ヤクルト本社佐賀工場(神埼町)
 2. ブリヂストンカンツリー倶楽部(合併浄化槽設備)(鳥栖市)
 3. 筑後大堰および同管理所(久留米市)
- 第23回 農村と都市の交流～村からの呼びかけ～ [21名、300円]
 - ・事前学習会(2000.09.26) 伊万里市農林水産課課長 田中正廣
 - ・ウォッチング佐賀(2000.10.02)
 1. JA南波多・梨の選果場(伊万里市)
 2. 観光梨園
 3. 道の駅・ふるさと村
 4. 夢耕房たきの
- 第24回 クルマ産業の九州展開 [26名、200円]
 - ・事前学習会(2001.01.31) 熊本学園大学経済学部教授 野間重光
 - ・ウォッチング佐賀(2001.02.21)
 1. タカタ九州(株)(多久市)
 2. トヨタ自動車九州(株)宮田工場(福岡県鞍手郡)
- 第25回 佐賀と韓国の交流～今むかし～ [17名、200円]
 - ・事前学習会(2001.06.19) 朝鮮近現代史研究家 藤井正昭
 - ・ウォッチング佐賀(2001.06.26)
 1. 佐賀県立名護屋城博物館(鎮西町)
 2. 九州電力・玄海原子力発電所展示館(玄海町)
- 第26回 県民の森でボランティア体験 [25名、500円]
 - ・事前学習会(2001.09.25) 北山びつくり倶楽部代表・農学部助教授 五十嵐勉
 - ・ウォッチング佐賀(2001.10.01)
 1. 県民の森(富士町)
 2. 観光スポット(三瀬村)
- 第27回(2002.02.20) 鳥栖の新都市構想と伝統産業 [24名、100円]
 1. 鳥栖北部丘陵都市開発整備事業
 2. 久光製薬(株)鳥栖工場
 3. 筑後大堰
- 第28回(2002.05.25) 佐賀県を知る [74名、150円]
 1. 鳴神の庄
 2. 呼子大橋
 3. 風のみえる丘公園
 4. 杉ノ浦キャンプ場
 5. 名護屋城博物館・名護屋城跡
 6. 道の駅・厳木
- 第29回 佐賀の焼き物 [26名、100円]
 - ・事前学習会(2002.06.25) 「肥前陶磁器の誕生と流通および陶工の歴史」 中里紀元
 - ・ウォッチング佐賀(2002.07.06)
 1. 陶工の碑・泉山磁石場
 2. 館林源右衛門窯
 3. 歴史と文化の森公園
 4. 佐賀県立九州陶磁器文化館
 5. 皿山通りを散策(ポイント:有田館、陶山神社、トンバイ塀)
- 第30回(2003.01.17) 佐賀の酒 [24名、1,000円]
 1. 田中酒造合資会社(佐賀市蓮池町)
 2. 大平庵酒造資料館・大平庵(多久市)
 3. 宗政酒造株式会社(西松浦郡有田町)
- 第31回(2003.06.07) 佐賀県を知る [58名、100円]
 1. 大原老舗和多田店
 2. 呼子大橋
 3. 風のみえる丘公園
 4. 杉ノ浦キャンプ場
 5. 名護屋城博物館・名護屋城跡
 6. 道の駅・厳木
- 第32回(2003.08.01) 天山登山と古湯温泉 [16名、350円]
 1. 天山登山
 2. 古湯温泉
- 第33回(2004.02.24) 伊万里方面[7名、1,400円]
 1. 武雄競輪
 2. NPO 伊万里はちがめプラン
 3. 東洋水産 伊万里即席麺工場
- 第34回 佐賀の長崎街道 [13名]
 - ・事前学習会(2004.06.12) 「佐賀のまちづくりから見た願正寺の役割」 願正寺前住職 熊谷勝
 - ・ウォッチング佐賀(2004.06.12)
 1. 高橋
 2. ノコギリ型家並み
 3. 筑地反射炉跡
 4. 伊勢神社
 5. 護国神社
 6. 柳町界限
 7. 八坂神社

第 35 回 医学部探訪 [24 名、100 円]

- ・事前学習会(2004.10.20) ※台風で休講になり中止。
「病院・医院・クリニック、何か違うの？」 経済学部助教授 丸谷浩介
「本庄地区でボランティア活動に取り組む学生組織の紹介」

・ウォッチング佐賀(2004.10.27)

1. ミニ講義「医学部と地域のつながりについて」
「病院経営について」 医学部教授 庄野秀明
「福祉行政について」 医学部教授 齋場三十四
2. 大学病院見学
① 検査部 ②手術部 ③薬剤部 ④看護部 ⑤医療情報部 ⑥安全管理対策室
⑦ 地域医療連携室 ⑧診療記録センター
3. ボランティア活動に取り組む学生組織の活動報告と交流

第 36 回 麓刑務所に学ぶ [40 名、100 円]

- ・事前学習会 (2004.12.01) 経済学部教授 勝亦藤彦
- ・ウォッチング佐賀(2004.12.08) 1. 麓刑務所(鳥栖市) 2. 鳥栖プレミアム・アウトレット(鳥栖市)

第 37 回 鹿島ガタリンピックにボランティア参加しよう[40 名、100 円]

- ・事前学習会(2005.05.18)「鹿島ガタリンピックについて」フォーラム鹿島ボランティア担当 亀本昌子
- ・ウォッチング佐賀(2005.05.22) 1. 鹿島ガタリンピック

第 38 回(2005.11.23) 九州最後の炭鉱 池島炭鉱見学[25 名、1,000 円]

- ・事前学習会 当日バスの中で 講師:経済学部助教授 山本長次
- ・ウォッチング佐賀 1. 三井松浦リソース(株)長崎炭鉱技術研修センター

第 39 回(2006.02.11) 新春三恵比須めぐり[13 名、500 円]

- ・事前学習会 当日ゆつつら〜と館でビデオ学習
- ・ウォッチング佐賀 1. 松原神社 2. 與賀神社 3. 伊勢神社

第 40 回(2006.8.3) 佐賀・伝統産業の過去・未来〜有田焼の歴史と未来への挑戦〜[20 名、100 円]

※経営・会計学実習とのジョイント企画

1. 講演「我が経営を語る〜中国進出と有田の未来〜」 共立エレクトクス代表取締役 西山泰雄
2. 有田の町並みと歴史・有田皿山散歩道を歩く ガイド・有田町歴史民族資料館研究員 尾崎葉子
3. 酒井田今衛右門窯

第 41 回(2006.12.1〜2) 佐賀の東西松浦地区探訪[21 名、2,500 円] ※初の 1 泊 2 日

1. 産業廃棄物処分場(鎮西町) 2. (株)名村造船所(伊万里市) 3. 海洋エネルギー研究センター(伊万里市)
4. 国民宿舎いろは島(肥前町) 5. 宝当神社(唐津市高島) 6. 高取邸(唐津市)
7. NPO 法人伊万里はちがめプラン 8. 大川内山

第 42 回 佐賀県東部・鳥栖市 麓刑務所と中富くすり博物館巡り[36 名、100 円]

※法学概論Ⅱとのジョイント企画

- ・事前学習会(2006.12.06) 経済学部教授 勝亦藤彦
- ・ウォッチング佐賀(2006.12.13) 1. 麓刑務所(鳥栖市) 2. 中富くすり博物館(鳥栖市)

第 43 回(2007.09.26〜27) 身近な化学物質について考える〜食べる(有機農業)&住む(木造建築)〜

[16 名、3,000 円]

1. 講演「豊饒の海だった有明海の思い出」 有機野菜の店・げんき畑オーナー 中嶋洋一
2. 玄米食の店「おひさま」で昼食
3. 農家民泊「具座」オーナーの藤瀬吉徳氏の指導で農業体験
4. NPO 法人森林(もり)をつくろう理事長の佐藤和歌子さんの指導で山の下草刈りを体験

第 44 回(2007.12.08) 佐賀の発電所[19 名、100 円]

1. 肥前風力発電所(唐津市) 2. 玄海原子力発電所(玄海町) 3. 川上川第二発電所(富士町)

- 第 45 回(2008.01.18) 鉄鋼産業と自動車産業[43 名、100 円] ※戸田ゼミとのジョイント企画
1. トヨタ自動車九州(株)宮田工場(福岡県宮若市)
 2. 新日本製鐵(株)八幡製鉄所(福岡県北九州市)
- 第 46 回(2008.09.28~29) 日本で初めてのまち歩き博物館『長崎さるく博』体験[21 名、3,000 円]
1. 体験スポット 池島(池島炭鉱跡)
 2. 日本一の清流と伝統的な町並み・神浦へのんびり・ゆったり・そぞろ歩き～
神浦商店街、神浦神社、丸尾石積群など、神浦散歩未知実行委員会事務局 辻英敏
 3. 夕陽が美しいキリンタンの里～遠藤周作が魅せられた町～
出津教会、ド・ロ神父記念館、遠藤周作文学館など、外海観光ボランティアガイド協会会長 山崎政行
- 第 47 回(2009.01.14) 諫早湾干拓潮受け堤防を歩く ※樫澤ゼミ&講義「法学概論」とのジョイント企画
- ・事前学習会(2009.01.07) 佐賀大学経済学部教授 樫澤秀木
 - ・実地研修 [40名、100 円]
1. 諫早湾干拓潮受け堤防・展望台
 2. 白木峰高原より諫早湾干拓地を一望
 3. 潮受け堤防の開門を求めている市民団体等からの説明
 4. 堤防管理事務所で長崎県農林部諫早干拓室職員からの説明
 5. 諫早干拓地で入植者からの話
 6. 大浦公民館で「よみがえれ！有明海弁護団」と湿地の保護など広く水環境について学ぶ韓国の中小高校生との交流会に参加
- 第 48 回(2009.01.16) 元気な商店街&大きな造船所 ※戸田ゼミとのジョイント企画[30 名、100 円]
1. 車中で戸田ゼミ生による事前学習会
 2. させぼ四ヶ町商店街 同商店街協同組合理事長 竹本慶三
 3. 三菱重工(株)長崎造船所 タービン工場・史料館等
- 第 49 回(2009.09.28) 軍艦島上陸ツアー [30 名、1,000 円]
- 「軍艦島について」 NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会理事長 坂本道徳
- 第 50 回(2009.12.13~12.14) 日本海の町並み探訪[19 名、10,000 円]
- 車中で事前学習会
- 石見銀山エリアコース散策、美保の関・境港ゲゲの鬼太郎の町散策
- 第 51 回(2010.01.15) 博多駅再開発とまちづくり ※戸田ゼミとのジョイント企画[35 名、200 円]
- JR九州・博多駅、博多町家ふるさと館よりボランティアガイドと町散策
- 第 52 回(2010.09.25~09.26) 佐賀県の農林業と民泊体験[18 名、8,000 円]
- 「煎茶道の祖・高遊外売茶翁について」 NPO 法人高遊外売茶翁顕彰会理事長 川本喜美子
- 「佐賀の農業について」 佐賀県茶業試験場副場長 菅裕精
- 「道の駅・大和そとかぜ館の取り組みについて」 農事組合法人そよかぜ館 小野善隆
- 農家民泊「具座」で体験 藤瀬吉徳・みどり
- 「佐賀の林業について」 NPO 法人森林をまもろう理事長 佐藤和歌子
- 第 53 回(2010.11.17) 完成間近！！嘉瀬川ダムの工事見学をみる[17 名、100 円]
- 「嘉瀬川ダムについて」 さが水ものがたり館館長 荒牧軍治
- 各工事現場 嘉瀬川ダム工事事務所工務第一課 田島忍

10. アジアごはん 2002~2004 年度 (2002 年度は「佐大生に聞こう！留学体験談」)

地域の人たちに国際化を身につけてもらうため、日本人学生や海外の学生の留学体験を話してもらった。

第1回(2003.01.25) プリンセスエドワードアイランド大学[カナダ] 経済学部2年 岩永加代子

第2回(2003.02.01) 北京工業大学[中国] 経済学部4年 高見愛

- 第3回(2003.02.08)ペラデニア大学[スリランカ] 経済学研究科1年 宮崎麻理子
 第4回(2003.02.22)コンケン大学[タイ] 経済学部4年 田中聖子
 第5回(2003.03.01)グラスゴー大学[イギリス] 文化教育学部4年 井手安沙子
 第6回(2003.03.08)木浦大学[韓国] 経済学部4年 甲斐未央
 第7回(2003.04.12)カスマワティ[インドネシア]
 第8回(2003.04.19)スィリポーン・サーラニット[タイ]
 第9回(2003.05.10)ペラデニア大学[スリランカ] 農学研究科 楠元恭子
 第10回(2003.05.24)スィリポーン・サーラニット[タイ]
 第11回(2003.06.14)理工学系研究科1年 ピン・ピドー、農学研究科2年 テン・ヴィッティ[カンボジア]
 第12回(2003.07.12)カセサート大学[タイ] 経済学部4年 藤井宏子
 第13回(2003.09.13)鹿児島大学連合農学研究科1年 Juan Acharige Saliya De Silva[スリランカ]
 第14回(2003.10.18)農学研究科2年 Shaikh Moksadur Rahman[バングラディッシュ]
 第15回(2004.02.22)教育学研究科2年 梅定娥(Mei Ding's)[中国]
 第16回(2004.03.03)経済学研究科研究生 Anuluksa Jkapong[タイ]
 第17回(2004.10.23)佐賀西高等学校交換留学生 ファン[タイ]
 第18回(2005.03.13)[スリランカ]

11. ぐるりんおゆずりマーケット(同委員会) 1997年度～

環境問題が社会化され始め、卒業時期の廃棄物の削減を目的に学生と一緒に発足。現在は、学生のみで実施し、当センターは文具等の支援のみ。

第1回(1998.04.04)委員長 経済学部・増田一樹、提供品:約170点、来場者:約400人

第2回(1999.04.03)委員長 農学部・阪東靖、提供品:約150点、来場者:約400人

報告会(1999.05.10)全学教育センター

第3回(2000.04.06)委員長 農学部・阪東靖、提供品:約130点、来場者:約400人

・環境問題に関する講演会

第1回(1999.11.24)「廃棄物法制とリサイクル」 経済学部助教授 檜澤秀木

第2回(1999.12.15)「リサイクルは地球を救う」 農学部助教授 染谷孝

第3回(2000.01.13)「エネルギーは使うとなぜなくなるの？」 文化教育学部助教授 中村聡

第4回(2000.01.24)「オゾンと環境保全」 理工学部教授 山部長兵衛

第4回(2001.04.08)委員長 理工学部・堀田

第5回(2002.04.04)委員長 理工学部・広瀬圭翼

第6回(2003.04.04)委員長 理工学部・小林

第7回(2004.04.03)委員長 経済学部・入佐耕平

第8回(2005.04.03)委員長 経済学部・入佐耕平

第9回(2006.04.02)委員長 理工学部・嵯峨山敬信

第10回(2007.04.01)委員長 農学部・新地祐子

第11回(2008.03.31)委員長 理工学部・三橋彰弘

第12回(2009.03.29)委員長 文化教育学部・森永百々子

第13回(2010.04.04)委員長 理工学部・森

2010年度より、新しい試みで大学祭(11.13～14)でフリーマーケットを実施

12. まちづくりカレッジ(学生まちづくり広場ばるん) 2002 年度～

市民参加のまちづくりの中で、学生の視点による活動を支援。佐賀大学サテライト「ゆっつら～と館」を拠点に佐賀市中央商店街のまちおこしを実施。全国組織「まちづくりカレッジ」にも参加。

- 第1回(2001.) 開催地:三田市(関西学院大学)
第2回(2002.) 代表 文化教育学部、開催地:大垣市(岐阜経済大学)
第3回(2004.03) 代表 経済学部・中村英隆、開催地:佐賀市(佐賀大学)
第4回(2005.03) 代表 経済学部・中村英隆、開催地:那覇市(沖縄国際大学)
第5回(2005.08) 代表 経済学部・中村英隆、開催地:名古屋市(名古屋学院大学)
第6回(2006.03) 代表 経済学部・中村英隆、開催地:三田市(関西学院大学)
第7回(2007.03.03-04) 代表 経済学部・西山新太郎、開催地:佐賀市(佐賀大学)
第8回(2008.)
第9回(2009.)
第10回(2010.)

13. 留学生による語学講座 2006 年度～

留学生が市民に母国語を教えることで、市民とのつながりを作り、大学では学べない日本について体験してもらおう。

(1)中国語 DE 話そう!

- 第1回(2006.11.20～2007.02.12) 月曜日 10時～12時、10回、ゆっつら～と館、28名、1,000円
講師:曹宇軒(Cao Yu Xuan)
テキスト:「NHKスタンダード40中国語 まるごと覚えよう」榎本英雄、日本放送出版協会
【アドバイス編】(2007.02.19～03.12) 月曜日 4回、ゆっつら～と館、10名/回、200円/日
【料理編】(2007.03.26) ほほえみ館、25名、500円
- 第2回(2007.05.07～07.09) 月曜日 10時～12時、10回、ゆっつら～と館、21名、1,000円
講師:曹宇軒(佐大大学院経済学研究科)
テキスト:「NHKスタンダード40中国語 まるごと覚えよう」榎本英雄、日本放送出版協会
- 第3回(2007.10.15～12.17) 月曜日 10時～12時、10回、ゆっつら～と館、17名、1,000円
講師:曹宇軒(佐大大学院経済学研究科)
テキスト:「NHKスタンダード40中国語 まるごと覚えよう」榎本英雄、日本放送出版協会
【実地研修】(2008.02.08～02.12) 講師の故郷である吉林省長春、6名
- 第4回(2008.05.12～07.14)
月曜日 10時～12時、10回、経済学部地域経済研究センター、12名、2,000円
講師:曹宇軒(佐大大学院経済学研究科)
テキスト:「NHKスタンダード40中国語 まるごと覚えよう」榎本英雄、日本放送出版協会
- 第5回(2008.10.27～2009.01.19)
月曜日 10時～12時、10回、経済学部地域経済研究センター、7名、2,000円
講師:曹宇軒(佐大大学院経済学研究科)
テキスト:「NHKスタンダード40中国語 まるごと覚えよう」榎本英雄、日本放送出版協会
- 第6回(2009.05.11～06.13) 6名
月・木曜日 10時～12時、10回、佐賀大学図書館、7名、2,000円
講師:曹宇軒(佐大大学院経済学研究科)
テキスト:「NHKスタンダード40中国語 まるごと覚えよう」榎本英雄、日本放送出版協会

第7回(2009.10.19～2010.01.25)

- ◆初級編 月曜日 13時30分～14時30分、10回、佐賀大学図書館、7名、2,000円
講師：劉辰賛(佐大大学院経済学研究科)
テキスト：「ゼロからのスタート中国語 だれにでもわかる文法と発音の基本ルール 文法編」
- ◆中級編 月曜日 10時～11時30分、10回、佐賀大学図書館、6名、2,000円
講師：劉辰賛(佐大大学院経済学研究科)
テキスト：「基礎中国語会話 新装版」

第8回(2010.05.10～2010.07.12)

- ◆初級編 月曜日 13時30分～14時30分、10回、佐賀大学図書館、5名、2,000円
講師：劉辰賛(佐大大学院経済学研究科)
テキスト：「ゼロからのスタート中国語 だれにでもわかる文法と発音の基本ルール 文法編」
- ◆中級編 月曜日 10時～11時30分、10回、佐賀大学図書館、4名、2,000円
講師：劉辰賛(佐大大学院経済学研究科)
テキスト：「基礎中国語会話 新装版」

第9回(2010.10.25～2011.01.31)

- ◆初級編 月曜日 13時30分～14時30分、10回、佐賀大学経済学部特別会議室、3名、2,000円
講師：劉辰賛(佐大大学院経済学研究科)
テキスト：「ゼロからのスタート中国語 だれにでもわかる文法と発音の基本ルール 文法編」
- ◆中級編 月曜日 10時～11時30分、10回、佐賀大学経済学部特別会議室、5名、2,000円
講師：劉辰賛(佐大大学院経済学研究科)
テキスト：「基礎中国語会話 新装版」

(2)おしゃべりハンゲル

第1回(2007.06.28～08.09) 木曜日13時～15時、7回、ゆつつら～と館、15名、700円

講師：鄭仁淑(文化教育学部)

第2回(2007.10.15～12.17) 木曜日13時～15時、10回、ゆつつら～と館、16名、1,000円

講師：鄭仁淑(文化教育学部)

第3回(2008.05.12～07.14)

月曜日14時30分～16時30分、10回、経済学部地域経済研究センター、20名、2,000円

講師：金根(理工学部)

テキスト：「文法をしっかりと学ぶ韓国語(CD付)」長友英子・荻野優子共著、池田書店

第4回(2008.09.22～2009.01.26)

月曜日13時～15時、15回、経済学部地域経済研究センター、12名、2,000円

講師：金根(理工学部)

テキスト：「文法をしっかりと学ぶ韓国語(CD付)」長友英子・荻野優子共著、池田書店

※NPO法人地球市民の会による「日韓青年交流2008」に参加(2008.08.04)

第5回(2009.06.01～2009.07.13)

月曜日14時～16時、7回、佐賀大学図書館、20名、2,000円

講師：姜ハンソル(経済学部)

テキスト：「文法をしっかりと学ぶ韓国語(CD付)」長友英子・荻野優子共著、池田書店

第6回(2009.10.19～2010.01.25)

◆初級編 月曜日10時～11時、10回、佐賀大学図書館、14名、2,000円

講師：姜ハンソル(経済学部)

テキスト：「韓国語スタート！」

◆中級編 月曜日14時30分～16時、10回、佐賀大学図書館、13名、2,000円

講師:姜ハンソル(経済学部)

テキスト:「文法をしっかり学ぶ韓国語(CD付)」

第7回(2010.05.10~2010.07.21)

◆初級編 月曜日10時~11時、10回、佐賀大学図書館、4名、2,000円

講師:姜ハンソル(経済学部)

テキスト:「韓国語スタート!」

◆中級編 月曜日14時30分~16時、10回、佐賀大学図書館、14名、2,000円

講師:姜ハンソル(経済学部)

テキスト:「文法をしっかり学ぶ韓国語(CD付)」

第8回(2010.10.25~2011.01.31)

◆初級編 月曜日10時~11時、10回、佐賀大学図書館、5名、2,000円

講師:朴ソルジ(文化教育学部)

テキスト:「韓国語スタート!」

◆中級編 月曜日14時30分~16時、10回、佐賀大学図書館、14名、2,000円

講師:朴ソルジ(文化教育学部)

テキスト:「できる韓国語 中級 I」

※2011.01.17に「中国語 DE 話そう」と「おしゃべりハングル」の受講生の交流会を実施予定

(3)ゴピタ・イングリッシュ・チャット

第1回(2007.07.26~12.06) 木曜日10時~12時、20回、ゆつつら〜と館、14名、5,000円

講師:ゴピタ・アマラシンハ(佐大大学院理工学研究科)

※受講料5,000円のうち3,000円をスリランカ津波被害復興支援のための義援金として寄付

第2回(2008.03.27~07.10)

木曜日10時~12時、15回、経済学部地域経済研究センター、21名、3,000円

講師:ゴピタ・アマラシンハさん(佐大大学院理工学研究科)

14. 公開講座 1991年度~

①『地域活性化プランを考える』

期間:1991年10月2日~25日(計8回)、18:00~21:00

第1回(1991.10.02)「序論・国際化の動向と地域活性化」経済学部教授 石橋主税

第2回(1991.10.04)「産業・地域計画の課題とその変遷」経済学部教授 蔦川正義

第3回(1991.10.09)「九州における地域の活性化」九州経済調査協会教唆研究部調査役 榎田裕一

第4回(1991.10.11)「佐賀県における地域の活性化」佐賀県企画局企画調整課課長補佐 徳淵康德

第5回(1991.10.16)「地域活性化と地場産業」経済学部助教授 大矢野栄次

第6回(1991.10.18)「地域活性化と地域文化」教育学部教授 米倉利昭

第7回(1991.10.23)「農業・農村問題と地域活性化」経済学部助教授 奥松安六

第8回(1991.10.25)パネルディスカッション 司会:経済学部助教授 大矢野栄次

パネリスト (佐賀の内側からみた立場)嬉野観光協会理事 小原健史

(佐賀の外側からみた立場)日本銀行佐賀事務所所長 佐藤和夫

(行政の視点)佐賀県企画局地域振興課課長補佐 小柳忠彦

②『市民参加のまちづくり』

期間:2001年10月25日～11月22日(計5回)、19:00～21:00

場所:佐賀大学菱の実会館・多目的室

第1回(2001.10.25)『『まちづくり』ってなんだ—さまざまなテーマや参加者を整理する—』

経済学部教授 蔦川正義

第2回(2001.11.01)「市民参加の時代とその背景」 経済学部教授 畑山敏夫

第3回(2001.11.08)「市民参加型のまちづくり—多様な実践例に学ぶ—」 経済学部教授 長安六

第4回(2001.11.15)「希望としての地方自治—私の体験的地方自治・まちづくり論—」

福岡県自治体問題研究所 宮下和裕

第5回(2001.11.22)「公民協働による中心市街地のまちづくり実践報告—学生・住民・行政のパートナー

シップ—」 岐阜経済大学教授 鈴木誠

③『現代有機農業の意義と展望～今なぜ有機農業が見直されているのか?～』

期間:2004年11月1日～11月29日(計5回)、19:00～20:00

場所:ゆつつら～と館

第1回(2004.11.01)「自然農法の試み」

農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターセンター長 田中欽二

第2回(2004.11.08)「有機農産物の流通」 農学部教授 白武義治

第3回(2004.11.15)「生ごみを宝に」 NPO 法人伊万里はちがめプラン理事長 福田俊明

第4回(2004.11.22)「佐賀における有機農業の現状と課題」 佐賀県農業法人協会特別理事 横尾文三

第5回(2004.11.29)「有機農業の今後の展望～本講座のまとめにかえて～」 経済学部教授 長安六

有機農産物の収穫体験学習(2004.11.28)

15. 出前講座 1990～2008年度

①『社会人と生きるのに経済をどう考えるか』 有田町教育委員会主催

- ・ しん窯 17:30～19:30、しん窯社員食堂

第1回(1990.05.11)「くらしと経済 その1」 経済学部助教授 大矢野栄次

第2回(1990.11.10)「くらしと経済 その2」 経済学部教授 蔦川正義

- ・ 香蘭社 17:30～19:30、香蘭社赤坂社員食堂

第1回(1990.05.16)「くらしと経済」 経済学部教授 中原弘二

第2回(1990.09 中旬)「くらしと法律」 経済学部教授 石橋主税

- ・ 岩尾磁器工業 17:00～19:00、岩尾磁器工業菱藍会館会議室

第1回(1990.05.23)「地域経済と有田」 経済学部教授 蔦川正義

第2回(1990.09.26)「企業が地域経済に果たす役割」 経済学部助教授 大矢野栄次

第3回(1990.11.28)「これからの地域経済」 経済学部助教授 奥松安六

②『2010年／アルカディア伊万里に向けて—ステップ2—』 伊万里市主催

期間:1993年2月4日～3月6日 計5回、19:00～21:00

第1回(1993.02.04)「国際化の動向と地域活性化」 経済学部教授 蔦川正義

第2回(1993.02.12)「地域活性化と地場産業」 経済学部助教授 大矢野栄次

第3回(1993.02.18)「地域活性化と地域文化」 教育学部教授 米倉利昭

第4回(1993.02.26)「農業・農村問題と地域活性化」 経済学部助教授 奥松安六

第5回(1993.03.06)パネルディスカッション —ふるさと伊万里の活性化—

③『簿記検定3級合格をめざす簿記教室 in 鳥栖市』

2002年6月20日～9月12日(計12回)、11:00～12:00、サンメッセ鳥栖、経済学部教授 木戸田力

④『簿記検定3級合格をめざす簿記教室 in 唐津市』

- 2002年9月3日～10月22日(計15回)、19:00～20:30、佐賀大学海浜台地生物生産研究センター、
経済学部教授 山下寿文
- ⑤『簿記検定3級合格をめざす簿記教室 in 富士町』
2002年11月14日～2003年2月13日(計12回)、10:30～12:00、北部山村開発センター、
経済学部教授 木戸田力
- ⑥『簿記検定3級合格をめざす簿記教室 in 佐賀市』
2002年12月9日～2003年2月10日(計15回)、18:00～19:30、ゆつつら～と館、経済学部教授 山下寿文
- ⑦『佐賀大学アカウンティング・スクール～税務会計基礎講座(全経3級)～』
2003年5月8日～7月31日(計13回)、10:00～11:30、サンメッセ鳥栖、
広重正弘(佐賀大学経済学研究科修了生)
- ⑧『佐賀大学アカウンティング・スクール～複式簿記中級講座(日商2級)～』
2003年5月8日～7月17日(計6回)、18:00～19:00、佐賀大学地域経済研究センター、
経済学部教授 木戸田力
- ⑨『簿記検定2級合格をめざす簿記教室 in 唐津市』
2003年8月25日～11月14日(計20回)、18:00～19:30、佐賀大学海浜台地生物環境研究センター、
経済学部教授 山下寿文
- ⑩出前講座 in 鳥栖
- ・2006年度 水曜日3回、10:30～12:00、サンメッセ鳥栖、
第1回(2006.11.15)「鳥栖の近現代経済」 経済学部助教授 山本長次
第2回(2006.11.22)「不思議の国? イギリス」 経済学部教授 楊枝嗣朗
第3回(2006.11.29)「若者は政治に無関心なのか? - フランスの若者と政治の関係から考えたこと」
経済学部教授 畑山敏夫
 - ・2007年度 火曜日4回、10:00～11:30、サンメッセ鳥栖
第1回(2007.11.06)「ニュースの現場は見えない」 元NHK記者 柳原忠行
第2回(2007.11.13)『フラット化』時代における地域・空間」佐大経済学部准教授戸田順一郎
第3回(2007.11.20)「新聞記事に見る有明海・諫早湾」 佐大経済学部教授 樫澤秀木
第4回(2007.11.27)「鳥栖市における企業誘致」 佐大経済学部准教授 山本長次
 - ・2008年度 金曜日4回、10:00～11:30、サンメッセ鳥栖、20名
第1回(2008.11.07)「総選挙! どうなる消費者行政とわたしたちの消費生活」
佐大経済学部教授 岩本諭
第2回(2008.11.14)「日本茶のルーツを訪ねて～日本茶栽培発祥の地は佐賀にあり～」
吉野ケ里町地域まちおこしグループさざんか塾塾長 多良正裕
第3回(2008.11.21)「クライマックスをむかえたサブプライム問題」 佐大経済学部教授 米倉茂
第4回(2008.11.28)実地研修「鳥栖市制の発足と企業誘致」 佐大経済学部准教授 山本長次
 - ・2009年度からは公開講座「みんなの大学」として実施。

16. ゆつつら～と街角大学 2002～2007年度(2003年度まで「佐大教官と語ろう!」)

佐賀大学サテライト「ゆつつら～と館」が佐賀市呉服町商店街の空き店舗に開館し、地域貢献として講座を実施。2008年度からは、同館職員により継続。

※は他団体の企画に参加した回

- 第1回(2003.02.21)「少子高齢社会について」 文化教育学部助教授 松山郁夫
第2回(2003.02.28)「村おこしの起爆剤～基石茶の話～」 経済学部教授 蔦川正義
第3回(2003.03.07)「コミュニティの再生」 経済学部教授 長安六

- 第 4 回(2003.03.14)「山の暮らし～日本と世界～」 農学部講師 藤村美穂
- 第 5 回(2003.03.21)「有明海と佐賀平野」 理工学部教授 岩尾雄四郎
- 第 6 回(2003.03.28)「佐賀県内の建物・町並みとまちづくり活動」 理工学部助教授 三島伸雄
- 第 7 回(2003.04.04)「佐賀の将来展望と市民セクターによるまちづくり」 文化教育学部教授 田中豊治
- 第 8 回(2003.04.11)「インターネットのしくみ」 理工学部助教授 渡邊健次
- 第 9 回(2003.04.18)「安全でおいしい野菜を食べよう＝前菜畑農業をサポートしよう」 農学部教授 田中欽二
- 第 10 回(2003.04.25)「社会の情報化とどう付き合うか」 経済学部教授 津田順司
- 第 11 回(2003.05.02)「生活から環境を考える」 理工学部教授 宮島徹
- 第 12 回(2003.05.09)「商店街問題とまちづくり」 経済学部教授 岩永忠康
- 第 13 回(2003.05.16)「ナチスと環境の国ドイツ」 文化教育学部教授 田村榮子
- 第 14 回(2003.05.23)「地産地消について」 経済学部教授 長安六
- 第 15 回(2003.05.30)「佐賀県の自治体における財務情報開示の現状と課題ー県および7市の事例ー」
経済学部教授 山下寿文
- 第 16 回(2003.06.06)「村と町の空洞化考ー何が違うのか？農村の現場から考えるー」 農学部助教授 五十嵐勉
- 第 17 回(2003.06.13)「松下幸之助を語るー学生と作成した経営学教材を用いてー」 経済学部助教授 山本長次
- 第 18 回(2003.06.20)「経済活動のリスクと統計」 経済学部助教授 中村博和
- 第 19 回(2003.06.27)「これからの健康づくりと生きがい発見」 文化教育学部助教授 栗原淳
- 第 20 回(2003.07.04)「学生発 NPO『佐賀大学スーパーネット』を作りました」
科学技術共同開発センター副センター長 佐藤三郎
- 第 21 回(2003.07.11)「風景の倫理学」 文化教育学部助教授 菅原潤
- 第 22 回(2003.07.18)「土の中の微生物ー目に見えない働き者と仲良くなる方法ー」 農学部助教授 染谷孝
- 第 23 回(2003.07.25)「北朝鮮の『花もたせ外交』と日朝関係」 文化教育学部助教授 森善宣
- 第 24 回(2003.08.01)「NPO 活動と GDP 統計」 経済学部教授 福島宏
- 第 25 回(2003.08.08)「環境をきれいにする微生物の世界を探る」 農学部助教授 染谷孝
- 第 26 回(2003.08.22)「環境と政治～環境にやさしい政党とは？～」 経済学部教授 畑山敏夫
- 第 27 回(2003.08.29)「生体とは何か～サイボーグのはなし～」 理工学部助教授 和久屋寛
- 第 28 回(2003.09.12)「日本経済の諸問題」 経済学部教授 米倉茂
- 第 29 回(2003.09.19)「最近の子どもたち」 文化教育学部教授 池田行伸
- 第 30 回(2003.09.26)「さが公共政策ゼミナールのご紹介」 経済学部助教授 中西一
- 第 31 回(2003.10.03)「法科大学院(ロー・スクール)のゆくえ」 経済学部教授 村上英明
- 第 32 回(2003.10.10)「くらしの豊かさづくり～お金の役割を考える～」 経済学部教授 長安六
- 第 33 回(2003.10.17)「ホンモノの情報技術者を育てる大学教育システム」 理工学部助教授 掛下哲郎
- 第 34 回(2003.10.24)「労働時間はなぜ短くならないのか」 経済学部教授 富田義典
- 第 35 回(2003.10.31)「水をめぐるあれこれ」 佐賀大学名誉教授 蔦川正義
- 第 36 回(2003.11.14)「佐賀の産業遺産」 経済学部助教授 山本長次
- 第 37 回(2003.11.21)「太ったっていいじゃないか！？～トンガ人の事例～」 農学部教授 稲岡司
- 第 38 回(2003.11.28)「私流現代美術案内～今年のヴェネツィア・ビエンナーレから」 文化教育学部助教授 吉住磨子
- 第 39 回(2003.12.05)「佐賀市小売業のお話し～商業統計を中心として～」 経済学部教授 岩永忠康
- 第 40 回(2004.01.30)「尺八とリュートのタベ(ミニ・コンサート)」 文化教育学部教授 吉中幸平、相澤照明
- 第 41 回(2004.02.05)「歴史から学ぶ日本の医療」 経済学部助教授 猪飼周平
- 第 42 回(2004.02.13)「環境報告書について～企業は環境問題に取り組んだ結果をどう伝えているか～」
経済学部講師 小川哲彦
- 第 43 回(2004.02.20)「市町村合併について考える(1)～なぜ今、市町村合併なのか～」 経済学部教授 濱内繁義
- 第 44 回(2004.02.27)「市町村合併について考える(2)～合併で、佐賀県はどうなるのか～」

- 第 45 回(2004.03.05)「佐賀都心部について」文化教育学部助教授 山下宗利
- 第 46 回(2004.03.12)「株式投資と経済学」経済学部教授 原田宏
- 第 47 回(2004.03.19)「安全な生活のために」文化教育学部助教授 甲斐今日子
- 第 48 回(2004.04.02)「ワイマル民主主義の中から、なぜナチス・ヒトラーが政権掌握できたか」
文化教育学部教授 田村榮子
- 第 49 回(2004.04.09)「生活の中の経済」経済学部教授 長安六
- 第 50 回(2004.04.16)「家事と介護をどう担う」文化教育学部教授 北川慶子
- 第 51 回(2004.04.23)「有機野菜を食べよう」農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター長 田中欽二
- 第 52 回(2004.05.07)「自然との美的交流」文化教育学部助教授 菅原潤
- 第 53 回(2004.05.14)「アメリカ文化にみる男女の共生～戦うイヴたち～」文化教育学部教授 早瀬博範
- 第 54 回(2004.05.21)「シェイクスピアにおける男と女」文化教育学部教授 朱雀成子
- 第 55 回(2004.05.28)「アイランドにおける自然と共生のあり方」文化教育学部教授 木原誠
- 第 56 回(2004.06.04)「40 肩・50 肩の治し方と予防」文化教育学部教授 原田奈名子
- 第 57 回(2004.06.11)「北朝鮮における個人独裁の起源と現状」文化教育学部教授 森善宣
- 第 58 回(2004.06.18)「佐賀弁の文法を簡易構文解析機でプログラムし、語列を分析させよう」
留学生センター助教授 古賀弘毅
- 第 59 回(2004.06.25)「土壌汚染と法規制」文化教育学部教授 張本燦
- 第 60 回(2004.07.02)「学生発 NPO『佐賀大学スーパーネット』この1年間の活動を報告します」
科学技術共同開発センター副センター長 佐藤三郎
- 第 61 回(2004.07.09)「個人情報システム:ユビキタス社会における個人情報保護」理工学部助教授 掛下哲郎
- 第 62 回(2004.07.16)「一人ひとりにできること。一人のためにできること」
JICA(独立行政法人・国際協力機構)国際協力推進員 北村祐子
- 第 63 回(2004.07.23)「どうしてヨーロッパで右翼が強くなっているの?～グローバル化の別の顔～」
経済学部教授 畑山敏夫
- 第 64 回(2004.08.06)「監視カメラの見守る社会は、本当に『安全な街』だろうか?」文化教育学部講師 吉岡剛彦
- 第 65 回(2004.08.20)「2004 年の年金改正について」経済学部助教授 丸谷浩介
- 第 66 回(2004.08.27)「佐賀の民話」佐賀民話の会会長 宮地武彦
- 第 67 回(2004.09.03)「スーパーSE セミナー:現役 IT 技術者のための教育システム」理工学部助教授 掛下哲郎
- 第 68 回(2004.09.10)「環境規制について考える」経済学部教授 榎澤秀木
- 第 69 回(2004.09.17)「日本と外国の水事情」放送大学佐賀学習センター所長 蔦川正義
- 第 70 回(2004.09.24)「食資源循環を進める伊万里はちがめプランの活動」
NPO 法人伊万里はちがめプラン理事長 福田俊明
- 第 71 回(2004.10.01)「JR 九州について」JR 佐賀駅駅長 高橋誠
- 第 72 回(2004.10.08)「町並みとまちづくり」理工学部助教授 三島伸雄
- 第 73 回(2004.10.22)「会計不正の話」経済学部教授 山下寿文
- 第 74 回(2004.11.05)「天然温泉が危ない!?～身近な環境有害菌の話～」農学部教授 染谷孝
- 第 75 回(2004.11.12)「山が崩れる」理工学部教授 岩尾雄四郎
- 第 76 回(2004.11.19)「生活と色～カラーコーディネートについて～」佐賀玉屋営業推進部取締役部長 中本英一
- 第 77 回(2004.11.26)「余暇の開発と健康づくり」文化教育学部教授 栗原淳
- 第 78 回(2005.01.28)新春ミニコンサート ハーモニカ:経済学部総務係長 林健吾、
尺八:文化教育学部教授 吉中幸平、オカリナ:ポコ・ア・ポコのみなさん
- 第 79 回(2005.02.04)「水をきれいにする微生物」農学部教授 染谷孝
- 第 80 回(2005.02.18)「映画『佐賀のがばいばあちゃん』の話」佐賀青年会議所直前理事長 永松夕雅
- 第 81 回(2005.02.25)「世界遺産の修復」江島建築事務所代表取締役 江島明義

- 第 82 回(2005.04.08) 入学式、「ことばの丁寧さと思いやり」 文化教育学部教授 熊本千秋
- 第 83 回(2005.04.15)「戦後ドイツの戦争責任・戦後補償」 文化教育学部教授 田村榮子
- 第 84 回(2005.04.22)「なぜペトルルカは自然を愛でなかったのか～西洋的自然観の深層～」
文化教育学部助教授 菅原潤
- 第 85 回(2005.05.13)「憲法9条を考える」 文化教育学部講師 吉岡剛彦
- 第 86 回(2005.05.20)「佐賀市中心市街地恵比須ウォーク」 恵比須 DE まちづくりネットワーク 山内哲朗、甲本洋子
- 第 87 回(2005.05.27)「やさしい証券投資」 元大和証券投資相談次長 頗羅隼昇
- 第 88 回(2005.06.03)実地研修「竹炭がもたらす環境保全と健康生活」 竹資源環境を考える会 野崎順一
- 第 89 回(2005.06.10)「3年目を迎えた学生発 NPO の現状」 科学技術共同開発センター副センター長 佐藤三郎
- 第 90 回(2005.06.17)「佐賀県の近代遺産」 経済学部助教授 山本長次
- 第 91 回(2005.06.24)「佐賀の先人、煎茶道の祖・高遊外壳茶翁を知ろう」
煎茶道の祖・高遊外壳茶翁の生家の活用を進める会代表 川本喜美子
- 第 92 回(2005.07.01)出席者による座談会
- 第 93 回(2005.07.08)「おまけ付販売と法」 経済学部教授 岩本諭
- 第 94 回(2005.07.15)「佐賀にわかを楽しむ」 佐賀ユーモア協会事務局長 音成日佐男
- 第 95 回(2005.08.26)「開国前夜の佐賀藩～ベリー来航と鍋島直正～」 元佐賀県教育長 古藤浩
- 第 96 回(2005.09.02)「平成の佐賀城下まちづくり～足元に気づき地元を楽しむ遊び心からの取り組み～」
SG まちづくり研究所 木下和弘
- 第 97 回(2005.09.09)「佐賀城下の知られざる逸材～歩きながら佐賀の良いところを感じとる～」
元佐賀市文化課課長 中野和彦
- 第 98 回(2005.09.10)「安全でおいしい野菜を食べよう」 放送大学佐賀学習センター客員教授 田中欽二
- 第 99 回(2005.09.16)「EM 菌は有効か？農業・環境改善微生物資材を考える」 農学部助教授 染谷孝
- 第 100 回(2005.09.30)「難聴者に要約筆記や人工内耳を知ってもらう」
佐賀県難聴者・中途失聴者協会会長 古賀道子
- 第 101 回(2005.10.07)「佐賀城本丸歴史館探訪」 佐賀城本丸歴史館ボランティアガイド
- ※第 102 回(2005.10.08～09)字幕付映画鑑賞「男はつらいよ ぼくの伯父さん」、「チルソクの夏」
- 第 103 回(2005.10.14)「アジア諸国と日本～スリランカを中心として～」 経済学部教授 ラタナーヤカ・ピヤダーサ
- 第 104 回(2005.10.21)「映画館のしくみをお話しましょう」 有楽商事(株) 迎富美子
- 第 105 回(2005.10.21)「インドネシア・ムラユ語を習得しよう、言語学「野外手法」の体験」 留学生センター 古賀弘毅
- 第 106 回(2005.11.04)「東北アジアの情勢と日本」 文化教育学部教授 森善宣
- 第 107 回(2005.11.11)「松永安左エ門と電力業」 経済学部助教授 山本長次&ゼミ生
- ※第 108 回(2005.11.23)ウォッチング佐賀～九州最後の炭鉱 池島炭鉱見学～
- 第 109 回(2005.11.25)「BSE(狂牛病)を考える」 農学部助教授 染谷孝
- ※第 110 回(2005.12.10)「良い支援と悪い支援～手助け本質論～」 医学部教授 齋場三十四
- ※第 111 回(2006.01.09)新春三恵比須巡り(伊勢神社・松原神社・與賀神社)
- 第 112 回(2006.01.27)新春ミニコンサート～ハーモニカ～ 経済学部総務係長 林健吾、卒業式
- ※第 113 回(2006.01.29)シンポジウム「帰ってきた、高遊外壳茶翁」
- ※第 114 回(2006.04.08)「筑後川開発と佐賀」 放送大学佐賀学習センター所長 蔦川正義
- 第 115 回(2006.04.14)「佐賀とスリランカの友好の絆～佐賀ランカ友好図書館の紹介～」
経済学部教授 ラタナーヤカ・ピヤダーサ
- 第 116 回(2006.04.21)「裁判員制度について」 佐賀地方検察庁企画調査課課長 馬場義和
- 第 117 回(2006.04.26)「佐賀地方裁判所見学」 文化教育学部講師 吉岡剛彦

- 第 118 回(2006.04.28)「佐賀大学附属図書館利用指導・初級コース」 附属図書館情報サービス係
- 第 119 回(2006.05.12)「平成期における市町村合併の功罪」 経済学部教授 濱内繁義
- ※第 120 回(2006.05.13)「旬を食べよう」 放送大学佐賀学習センター客員教授 田中欽二
- 第 121 回(2006.05.19)「日本の風のあゆみ」 日本の風の会会員 實松真郷
- 第 122 回(2006.05.20)
- 「スリランカと日本の関係について」 経済学部教授 ラタナーヤカ・ピヤダーサ
- 「スリランカのダム造りと農業用水～農業用水はダムからの濾水？」 放送大学佐賀学習センター所長 蔦川正義
- 「スリランカを旅して」 柳原忠行
- 第 123 回(2006.05.26)「政治嫌い、選挙嫌いな若者たち？」 経済学部教授 畑山敏夫
- 第 124 回(2006.06.02)「日本の誰もが理解できなかった IMF 協定ーボタンをかけたがえたケインズ」
- 経済学部教授 米倉茂
- ※第 125 回(2006.06.03)「手助け本質論・パートⅡ」 医学部教授 齋場三十四
- 第 126 回(2006.06.09)「第1回佐賀大学ビジネスプランコンテスト」 科学技術共同開発センター副センター長 佐藤三郎
- 第 127 回(2006.06.16)「ドイツ・ワイマル時代の社会と文化(1)」 文化教育学部教授 田村榮子
- 第 128 回(2006.06.23)「ドイツ・ワイマル時代の社会と文化(2)」 文化教育学部教授 田村榮子
- 第 129 回(2006.06.30)「佐賀弁を科学しよう～佐賀弁の関係節」 留学生センター助教授 古賀弘毅
- 第 130 回(2006.07.07)「暮らしの中の迷信」 郷土史家 川浪広満
- 第 131 回(2006.07.14)「恵比須の歴史とひぜん張り子」 ひぜん張り子まつばら工房 村井禮仁、藤戸俊博
- 第 132 回(2006.07.21)「佐野常民を顕彰する」 佐野常民記念館ボランティアガイド
- 第 133 回(2006.07.28)「動画(アニメ)で綴る佐賀の昔話」 ゆっつら～と街角大学受講生 島崎紀晃
- ※第 134 回(2006.09.01)「初心者に広がる昔の味の元気野菜作り」 大地といのちの会代表 吉田俊道
- ※第 135 回(2006.09.08)「食と農を考える～自然なものを食べよう」 放送大学佐賀学習センター客員教授 田中欽二
- 第 136 回(2006.09.22)「私の健康法」 佐賀県高齢者大学講師 川浪廣満
- 第 137 回(2006.09.29)「環境保全ー山林を取り巻く様々な課題」 NPO 法人森林をつくろう理事長 佐藤和歌子
- 第 138 回(2006.10.06)「寝たきりにならない人間づくり」 医学部地域医療科学教育研究センター助教授 松尾清美
- 第 139 回(2006.10.13)「社会と写真」 元佐賀新聞社カメラマン 川浪廣満
- ※第 140 回(2006.10.19) 第 13 回市民版ウォッチング佐賀～佐賀大学関連施設見学～
- 第 141 回(2006.10.20)「徐福伝説の紹介と薬草観察会」 徐福長寿館館長
- 第 142 回(2006.10.27)「みつばちと森」 養蜂家 吉森康隆
- 第 143 回(2006.11.10)「刑法における『違法性』について」 経済学部教授 勝亦藤彦
- 第 144 回(2006.11.17)「山口亮一旧宅について」 NPO 法人まちづくり研究所理事長 三原宏樹
- 第 145 回(2006.11.24)「日米比較をとおした子育て論」 文化教育学部助教授 倉本哲男
- 第 146 回(2007.01.26)「新春ミニコンサート」 ピアノの弾き語り 弓削田健介、ピアノと童謡・唱歌 トッテ
イ、ピアノとフルート 江口明子、国本裕子
- スリランカ視察(2007.03.08-18)
- 第 147 回(2007.04.06)「佐賀の橋と水路について 東部編」 郷土史家 野田寿一
- 第 148 回(2007.04.13)「佐賀の橋と水路について 西部編」 郷土史家 野田寿一
- 第 149 回(2007.04.20)「裁判員制度ってなに？」 文化教育学部准教授 吉岡剛彦
- 第 150 回(2007.04.27)「模擬裁判を体験しよう！」 文化教育学部准教授 吉岡剛彦
- 第 151 回(2007.05.11)「NPO 法人「国際下宿屋」について」 NPO 法人国際下宿屋理事長 甲本達也
- 第 152 回(2007.05.18)「願正寺の歴史あれこれ」 願正寺前住職 熊谷勝
- 第 153 回(2007.05.25)「核のゴミはどこに捨てる？ 地層処分問題」 文化教育学部准教授 角縁進
- 第 154 回(2007.06.01)「有明海の干潟とニゴリの役割」 理工学部教授 田端正明
- 第 155 回(2007.06.08)「有明海とビブリオ感染症」 医学部准教授 大石浩隆

- 第 156 回(2007.06.15) 「有明海由来の微生物について」農学部准教授 小林元太
 第 157 回(2007.06.22) 「有明海とノリ養殖漁家」 文化教育学部教授 山下宗利
 第 158 回(2007.06.29) 「新聞記事に見る有明海・諫早湾」 経済学部教授 榎澤秀木
 第 159 回(2007.07.06) 「江戸時代の「有明海」漁業について」 地域学歴史文化研究センター 伊藤彰子
 第 160 回(2007.07.13) 「不思議の国？イギリス 1」 経済学部教授 楊枝嗣朗
 第 161 回(2007.07.20) 「不思議の国？イギリス 2」 経済学部教授 楊枝嗣朗
 第 162 回(2007.07.27) 「ニュースの現場は見えない」 元 NHK 記者 柳原忠行
 第 163 回(2007.09.07) 「人旅南米～夢は叶えるためにある」 佐大文化教育学部卒業生 西野旅峰
 第 164 回(2007.09.14) 「ベトナム伝統的建造物群の修復 世界遺産をめざす農村集落」
 江島建築事務所代表取締役 江島明義
 第 165 回(2007.09.21) 「寝たきりにならない人間づくり～第 2 弾」
 医学部附属地域医療科学教育研究センター准教授 松尾清美
 第 166 回(2007.09.28) 地域医療科学教育研究センター見学
 第 167 回(2007.10.05) 「フラット化」時代における地域・空間」 経済学部准教授 戸田順一郎
 第 168 回(2007.10.12) 「ふるさとの川 城原川 ダムに抛らない治水を探る 1」元城原川流域委員 佐藤悦子
 第 169 回(2007.10.19) 「ふるさとの川 城原川 ダムに抛らない治水を探る 2」元城原川流域委員 佐藤悦子
 第 170 回(2007.10.26) 「火山噴火と災害」 文化教育学部准教授 角縁進
 第 171 回(2007.11.02) 「佐賀の橋と水路について 見学編」 郷土史家 野田寿一
 第 172 回(2007.11.09) 「文久 3 年の佐賀藩―「攘夷」への対応に関して―」
 地域学歴史文化研究センター講師 伊藤昭弘
 第 173 回(2007.11.16) 「長崎の商業集積構造の地殻変動―商業革を中核として―」
 佐大経済学研究科生(元高校教諭) 川原清
 第 174 回(2007.11.30) 「留学生から日本を知る～佐賀でのおもしろ体験談～」 佐賀大学留学生
 第 175 回(2007.12.07) 「佐賀弁を科学しよう③佐賀弁の関係節」 留学生センター准教授 古賀弘毅
 第 176 回(2008.01.25) 新春ミニコンサート&卒業式 レインボー

17. 公開講座「みんなの大学」 2008 年度～

街角大学が軌道にのったため、そのノウハウを生かして佐賀大学内で公開講座として実施。

・2008 年度 火曜日 10:30～12:00、前期と後期の 10 回ずつ計 20 回、1 クラス 40 名、

佐大附属図書館、5,000 円

第 1 回(05.13)、第 2 回(05.20)

「ヨーロッパ統合と地域主義―その歴史的考察―」 佐大経済学部教授 古賀和文

第 3 回(05.27) 「新聞記事に見る有明海・諫早湾」 佐大経済学部教授 榎澤秀木

第 4 回(06.03) 「映画と世相」 元佐賀新聞カメラマン 川浪廣満

第 5 回(06.10) 「佐賀大学を卒業した中国人留学生のその後の活躍」

佐賀県日中友好協会事務局長 鳥井大敬

第 6 回(06.17) 実地研修「日本茶栽培発祥の地を訪ねる～脊振山霊仙寺跡を中心に～」

吉野ヶ里町地域まちおこしグループさざんか塾塾長 多良正裕

第 7 回(06.24)、第 8 回(07.01) 「工場設立と撤退にみる佐賀地域の可能性と留意点」

佐大経済学部准教授 山本長次

第 9 回(07.08) 「韓国経済と産業構造の変化」 佐大経済学部客員教授 金玉岩

- 第10回(07. 15)「韓国の文化と資本主義精神」 佐大経済学部客員教授 金玉岩
 第11回(09. 30)「暮らしの中のルールづくり」 経済学部准教授 小西みも恵
 第12回(10. 07)「情報通信技術の発達と社会の変化(ユビキタスネットワーク社会とは)」
 佐大経済学部准教授 羽石寛司
 第13回(10. 14)「九州・炭鉱のはなし」 佐大名誉教授 蔦川正義
 第14回(10.20・月) 実地研修「筑豊の炭鉱王・旧伊藤伝右衛門邸と炭鉱労働者の娯楽・嘉穂劇場」
 第15回(10. 28)、第16回(11. 04)「死刑存廃論」 佐大文化教育学部講師 吉岡剛彦
 第17回(11. 11)「佐賀県の伝統産業と経営革新—香蘭社社長深川栄左衛門の経営理念—」
 帝塚山大学准教授 山田雄久
 第18回(11. 18)「国境を越える市民間協力」 文化教育学部講師 高橋良輔
 第19回(11. 25)「ボランティアと佐賀にわか」 平成会会長 江島優・・・講師の都合で休講
 第20回(12. 02)「最近の金融経済情勢について」 日本銀行佐賀事務所所長 吉住健二

・2009年度 火曜日午前の部10:30~12:00(43名)、午後の部14:30~16:00(45名)、
 前期と後期の10回ずつ計20回、佐大附属図書館、5,000円

- 第1~4回 「災害弱者のための地域安全総合研究プロジェクト」研究成果報告
 第1回(05.12)「災害弱者にならないために—終の棲家の防災—」
 文化教育学部教授 北川慶子、天山酒造(株)代表取締役 七田利秀
 第2回(05.19)「一人ひとりの防災—災害と放送—」NHK佐賀放送局放送部長 濱田哲郎
 第3回(05.26)「介護施設の安全性」
 社会福祉法人麗風会特別養護老人ホーム・桜の園ケアハウス施設長 斉藤一郎
 第4回(06.02)「災害の発生と救助—心肺蘇生法を学ぶ—」医学部教授 瀧健治
 第5回(06.09)「安全な登山の楽しみと健康」
 特定非営利活動法人 SAGA アウトドアガイドクラブ登山ガイド 岩田達也
 第6回(06.17/06.24) 実地研修「みんなで九重に登ろう！！」
 特定非営利活動法人 SAGA アウトドアガイドクラブ登山ガイド 岩田達也 他
 第7回(06.30)「『徴古館』再開に至るまで、そしてこれから」
 財団法人鍋島報効会理事兼事務局長 藤口悦子、徴古館にて
 第8回(07.07)「佐賀の迷信」郷土史家 川浪廣満
 「映画と世相」元佐賀新聞社編集局次長 川浪廣満
 第9回(07.14)「佐賀インターナショナル・バルーンフェスタの魅力と不思議」
 佐賀バルーンフェスタ組織委員会常任理事・事務局長・パイロット 堤正之
 第10回(07.21)「映画を観なくても来られる映画館!？」
 69'nersFILM 代表取締役 芳賀英行/地域情報プロデューサー 川本喜美子、シアターシエマにて
 第11回(09.21)「子どものネット環境を守る市民活動~Kodomo2.0~」
 武雄市立北方小学校教諭 陣内誠
 第12回(10.06)「煎茶道の祖・高遊外売茶翁の心」
 NPO 法人高遊外売茶翁顕彰会理事長 川本喜美子、旧古賀家にて
 第13回(10.13)「学習から活動へ~あなたも地域活動をしませんか?~」
 佐賀県社会福祉協議会副会長 吉野健二
 第14回(10.20)「現代国際政治の読み解き方—地政学の復活?」文化教育学部准教授 高橋良輔
 第15回(10.27)「『佐賀藩の幕末近代化遺産を世界遺産へ』の市民活動について」
 佐賀県伝承遺産研究会会長 土師俊資
 第16回(11.11/11.18) 実地研修「~松本清張生誕100周年を記念して・清張の足跡探訪~」
 清張の会事務局長 上田喜久雄

第17回(11.24)「私が経験してきた日本での教育と生活について」

佐賀大学大学院工学研究科 ハンサマーリ・マハラシンハ(スリランカ出身)

第18回(12.01)「短歌の魅力」日本歌人クラブ会員・日本現代詩歌文化館評議員 野中暁

第19回(12.08)「JICAと国際協力」JICAデスク佐賀国際協力推進員 岡美恵子

第20回(12.15)「チュニジア共和国での2年間」元JICAシニア海外ボランティア 古賀香光

・2009年度 金曜日10:00~11:30、10回、20名、鳥栖商工会館、3,500円

第1回(10.02)「現代国際政治の読み解き方ー地政学の復活?」文化教育学部准教授 高橋良輔

第2回(10.09)「豆腐でまちおこし」SGF ジャパン代表 岡本哲朗、カフェ・フルール

第3回(10.16)「『新しい戦争』の時代ー変わる戦争のカタチ」文化教育学部准教授 高橋良輔

第4回(10.23)「近代における鳥栖・基山地域への進出企業」経済学部准教授 山本長次

第5回(10.30)「お茶の力ー心と体に効くお茶の効き目ー」西九州大学健康福祉学部教授 安田みどり

第6回(11.05)「実地研修「～勝尾城筑紫氏遺跡と鳥栖地方～」鳥栖市生涯学習課課長補佐 石橋新次

第7回(11.13)「学習から活動へ～あなたも地域活動をしませんか?～」

佐賀県社会福祉協議会副会長 吉野健二

第8回(11.20)「JICAと国際協力」JICAデスク佐賀国際協力推進員 岡美恵子

第9回(11.27)「JICAシニア海外ボランティア体験談」元JICAシニア海外ボランティア 村田秀穂

第10回(12.04)「未曾有の国際金融危機リーマン・ショック回想一年」経済学部教授 米倉茂

・2010年度、火曜日午前の部10:30~12:00(43名)、午後の部14:30~16:00(42名)、

前期と後期の10回ずつ計20回、佐賀大学図書館、5,000円

【午前の部】

●「佐賀藩の幕末近代化遺産について」協力:佐賀伝承遺産研究会

第1回(05.11)「佐賀の風土と日本の歴史の特殊性」佐賀伝承遺産研究会会長 土師俊資

第2回(05.18)「佐賀藩の近代化を促したフェートン号事件とアヘン戦争」

佐賀伝承遺産研究会会長 土師俊資

第3回(05.25)「幕末佐賀藩の近代化」佐賀伝承遺産研究会会長 土師俊資

第4回(06.01)「日本の近代化を考える」佐賀伝承遺産研究会会長 土師俊資

第5回(06.09)「実地研修「佐賀藩の幕末近代化遺産ゆかりの地巡り」佐賀伝承遺産研究会会長 土師俊資

●「佐賀大学経済学部で学ぶ」協力:佐賀大学経済学部

第6回(06.22)「わが国の労働事情」佐賀大学経済学部教授 富田義典

第7回(06.29)「わが国の財政事情」佐賀大学経済学部教授 納富一郎

第8回(07.06)「コミュニケーションの道具としてのコンピュータ」佐賀大学経済学部准教授 安田伸一

第9回(07.13)「わが国の人権事情」佐賀大学経済学部准教授 井上亜紀

第10回(07.20)「わが国の会計事情」佐賀大学経済学部教授 山下壽文

●「有明海の再生を考える」共催:佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

第11回(09.28)「諫早湾干拓と予防原則」佐賀大学経済学部教授 樫澤秀木

第12回(10.05)「有明海の海域特性と環境問題」佐賀大学低平地沿岸海域研究センター准教授 速水祐一

第13回(10.19)「数値モデルによる有明海の環境問題への取り組み」

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター准教授 濱田孝治

第14回(10.26)「宝の海は誰のものか?ー「前海」をめぐる農と漁の関係考ー」

佐賀大学農学部教授 五十嵐勉

第15回(10.27)「実地研修「諫早湾干拓事業関連地巡り」佐賀大学経済学部教授 樫澤秀木

●「佐賀大学女性研究者に学ぶ」協力:佐賀大学女性研究者支援室

第16回(11.02)「男女共同参画・少子化対策の見えない面」文化教育学部教授 北川慶子

第17回(11.09)「食べることと栄養」文化教育学部教授 水沼俊美

第18回(11.16)「生涯を元気に過ごすための介護予防とリハビリテーション」

女性研究者支援室介護コーディネーター 田原美香

第19回(11.30)「 未定 」理工学部助教 田口陽子

第20回(12.08)実地研修「佐賀の福祉施設見学」女性研究者支援室介護コーディネーター 田原美香

【午後の部】

●「佐賀大学女性研究者に学ぶ」協力:佐賀大学女性研究者支援室

第1回(05.11)「佐賀大学における女性研究者支援事業について」文化教育学部教授 北川慶子

第2回(05.18)「佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程に勤務して」文化教育学部准教授 吉住磨子

第3回(05.25)「日本人と米食」

文化教育学部教授 小西史子/女性研究者支援室介護コーディネーター 田原美香

第4回(06.01)「ドイツの年金・医療・介護」経済学部准教授 森周子

第5回(06.08)「夢がかなった調査旅行」文化教育学部教授 赤星礼子

●「日本の貧困問題について」協力:ビッグイシュー福岡サポーターズ

第6回(06.22)「人はなぜホームレスになるのか」佐賀大学経済学部准教授 丸谷浩介

第7回(06.29)「ビデオ『ホームレス』と出会う子どもたちを見る」佐賀大学経済学部教授 檜澤秀木

第8回(07.06)実地研修「福岡市内のホームレス支援活動研修」

ビッグイシュー福岡サポーターズ・抱僕館他 田中敦子

第9回(07.13)「貧困から見るこの国の素顔」国連ハビタット福岡本部 星野幸代

第10回(07.20)「路上で<幸福>を夢見る権利はあるのか？」佐賀大学経済学部准教授 丸谷浩介

●「佐賀大学経済学部で学ぶ」協力:佐賀大学経済学部

第11回(09.28)「佐賀の経済と財政」経済学部教授 山下壽文

第12回(10.05)「商品の価格はどのようにして決まるか」経済学部教授 山下壽文

第13回(10.12)「戦間期の日本経済史から学ぶこと」経済学部准教授 山本長次

第14回(10.19)「日本型福祉社会を考える」経済学部教授 畑山敏夫

第15回(10.26)「最近の会社法のトピックス」経済学部准教授 小西みも恵

●「”国際”的に考える」協力:JICA九州佐賀デスク

第16回(11.02)「子どもに伝える戦争の止め方」

認定 NPO 法人地球市民の会専務理事・事務局長 大野博之

第17回(11.09)「JICAと国際協力～バヌアツ共和国での医療活動を通して～」

JICA デスク佐賀国際協力推進員 真崎陽子

第18回(11.16)実地研修「JICA九州が行う国際協力」JICA デスク佐賀国際協力推進員 真崎陽子

第19回(11.26)実地研修「海上自衛隊一佐世保地方隊一見学」文化教育学部准教授 高橋良輔

第20回(11.30)「変動する世界秩序像——冷戦終焉から現代まで」文化教育学部准教授 高橋良輔

・2010年度 金曜日 10:00～11:30、10回、31名、鳥栖市中央公民館、3,500円

●「鳥栖市誌を振り返る」共催:鳥栖市教育委員会

第1回(06.25)「江戸時代田代領の教育と文化」元文化教育学部教授 生馬寛信

第2回(07.02)「戦国時代に御伊勢参りをした人々」文化教育学部教授 宮島敦子

第3回(07.08)実地研修「鳥栖の進出企業工場見学」経済学部准教授 山本長次

第4回(07.16)「鳥栖・基山における起業と企業進出」経済学部准教授 山本長次

第5回(07.23)「交通の要衝・鳥栖～交通・運輸の構造変化と鳥栖の地位と役割」

佐賀大学名誉教授 蔦川正義

●「市民によるまちおこし」

第6回(09.10)「国際協力を通しての町おこし」認定 NPO 法人地球市民の会代表 山下雄司

第7回(09.17)「アジアの辺境から見た日本」

認定 NPO 法人地球市民の会専務理事・事務局長 大野博之

第8回(09.24)「一人ひとりの地域での暮らしの継続を支援してきた宅老所～たすけあい佐賀の取組～」

特定非営利活動法人たすけあい佐賀理事長 西田京子

第9回(10.01)「鳥栖の多国籍食堂街構想」SGFジャパン代表 岡本哲朗

第10回(10.08)「リラックスパワーが生み出す鳥栖旧市街地起こし」

特定非営利活動法人東アジアオープンハートコミュニティ理事長 手島啓次、街角寺子屋ほっと館にて

・2010年度「みんなの集い」木曜日13:30～15:00、6回、20名、経済学部第2会議室、1,000円

第1回(05.20)「北部九州と朝鮮半島－19世紀末の経済関係を中心に－」経済学部准教授 石川亮太

第2回(06.17)「日本人看護師の国際医療支援活動体験談 in スリランカ」

佐賀大学大学院医学系研究科生 川原一恵

第3回(07.15)「続・短歌の魅力」日本歌人クラブ会員・日本現代詩歌文化館評議委員 野中暁

第4回(09.16)「海外実地研修報告－台湾・天主教輔仁大学と台湾の社会福祉について－」

経済学部国際交流室室長 ラタナーヤカ・ピヤダーサ 他、経済学部第1会議室にて

第5回(10.21)「佐賀から世界遺産を」佐賀伝承遺産研究会代表 土師俊資

第6回(11.18)「『葉隠』と美術－筆録開始300年後の一視点－」

佐賀県立博物館・美術館学芸員 福井尚寿、経済学部第1会議室にて

◆◇◆ 情報化事業部 ◆◇◆

17. フォーラム・情報と社会 2000～2002 年度

- 第1回(2000.12.12)「インターネットと著作権(1)」 経済学部助教授 岩本論、安田伸一
- 第2回(2001.03.05)「Windows システムのセキュリティ入門」 済学部教授 宮澤慎介、助教授 安田伸一
- 第3回(2001.11.06)「ホームページを作ろう」 経済学部助教授 安田伸一
- 第4回(2001.12.11)「著作権法の新展開ーインターネットと著作権(2)ー」 経済学部助教授 岩本論
- 第5回(2002.01.25)「地域情報の収集・管理・運用システムの構築について～九経調・経済図書館の事例から～」 (財)九州経済調査協会情報研究部編集担当部長 高田鎮雄
- 第6回(2002.11.05,11.08)「佐賀大学電子図書館の教官総覧情報の講習会」 経済学部助教授 安田伸一

18. チャレンジ・セミナー 1990～1997 年度 経済学部教職員を対象に実施

- 第1回(1990.06.12)ワープロ専用機で作成した文書を PC98 シリーズのパソコンで読もう
- 第2回(1990.06.28-29)学内蔵書検索システム(附属図書館)の接続と検索方法
- 第3回(1990.07.10)ワープロ専用機で作成した文書を PC98 シリーズのパソコンで読もう
- 第4回(1990.07.17)使い慣れたワープロでデータベースのデータを作成しよう
- 第5回(1990.09.19-20)VDT 作業を楽しく VDT 体操(ビデオ)
- 第6回(1990.10.09)「日経テレコン(総合版)」の新聞検索の方法
- 第7回(1990.11.06)ワープロで年賀状を作成しよう
- 第8回(1990.12.04)表計算ソフト「アシストカルク」、数式作成ツールの紹介
- 第9回(1991.01.28)MS-DOSをやっつけろ①
- 第10回(1991.02.05)学内 LAN の利用方法①「日経ニューステレコン」の新聞・雑誌の検索の方法
- 第11回(1991.02.26)MS-DOSをやっつけろ②
- 第12回(1991.03.19)MS-DOSをやっつけろ③
- 第13回(1991.04.09)MS-DOSをやっつけろ①～②
- 第14回(1990.04.30)MS-DOSをやっつけろ③
- 第15回(1991.05.21)統合ソフト「MS-WORKS」の紹介
- 第16回(1992.06.26)電子メールの概要と簡単なやりとり
- 第17回(1992.06.30)電子メールの概要と簡単なやりとり
- 第18回(1992.07.24)ちょっと長めの電子メールのやりとり
- 第19回(1993.06.15)小型コンピュータシステムの構成 他
- 第20回(1993.07.09)小型コンピュータシステムの構成 他
- 第21回(1993.07.12)マッキントッシュでワープロ、画像の読み込み 他
- 第22回(1993.10.05)マッキントッシュと NEC との文書互換 他
- 第23回(1995.04.12-14)学内 LAN の接続について
- 第24回(1995.04.19-21)地域経済研究センターのパソコンについて
- 第25回(1995.04.26-28)インターネット入門1
- 第26回(1995.05.10-12)電子メール入門
- 第27回(1995.05.17-19)研究者のためのインターネットについて
- 第28回(1995.05.24-26)ネット・ニュース入門(C.S.接続編)
- 第29回(1997.07.15)表計算ソフト EXCEL 入門
- 第30回(1997.07.17)表計算ソフト EXCEL 入門

19. ソフトウェア講習会 1990～1991 年度 経済学部生を対象に実施

- 第1回(1990.06.19) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.3」入門
カード型データベース「Let's アイリス 3.0」入門
- 第2回(1990.06.26) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.3」入門
カード型データベース「Let's アイリス 3.0」入門
- 第3回(1990.06.03) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.3」入門
カード型データベース「Let's アイリス 3.0」入門
- 第4回(1990.10.05) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.3」活用
表計算「LOTUS1-2-3R 2.1JPlus」入門
- 第5回(1990.10.23) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.3」活用
表計算「LOTUS1-2-3R 2.1JPlus」入門
- 第6回(1990.10.30) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.3」活用
表計算「LOTUS1-2-3R 2.1JPlus」入門
- 第7回(1990.12.11) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.4」と図形作成「花子 Ver.2」で年賀状の作成
- 第8回(1990.12.18) 日本語ワードプロセッサ「一太郎 Ver.4」と図形作成「花子 Ver.2」で年賀状の作成
- 第9回(1991.05.27, 06.03, 06.10) 表計算ソフト「LOTUS1-2-3 R2.2J」初級編
- 第10回(1991.05.28, 06.04, 06.11) 表計算ソフト「LOTUS1-2-3 R2.2J」初級編
- 第11回(1991.05.30, 06.06, 06.13) 表計算ソフト「LOTUS1-2-3 R2.2J」初級編

◆◇◆ その他 ◆◇◆

20. 日韓中・国際学術交流シンポジウム 1990年度～

第3回より、事務局として協力してきたが、経済学部にて実行委員会ができ業務を終えた。

第1回(1990.07.14)『東アジアの経済の現状と将来』 会場:佐賀市文化会館

第2回(1991.07.14)『ウルグアイ・ラウンドの衝撃と対応』 会場:韓国・光州無等山ホテル

第3回(1992.07.04)『経済発展と経営理念』 会場:はがくれ荘

・基調報告 全南大学校経営学部教授 朴炯昊

・パネルディスカッション

司会:経済学部教授 中原弘二

パネリスト:全南大学校経営学部教授 朴光淳、同 墓在六、日通工社長 江頭年男、経済学部教授 荒川米一郎

第4回(1993.07.08)『黄海経済圏の形成と地方の役割』 会場:韓国・光州市 新陽パークホテル

・記念講演 “Open Regionalism in the Pacific“ 西江大学教授 金徳中

・第1報告

「環黄海経済圏と地方の役割」九州国際大学国際商学部教授 林一信

司会 光州日報社会部長 徐栄振

コメンテータ 全南大学教授 金光沫、久留米大学経済学部教授 櫻井浩、湖楠大学教授 寅俊性

・第2報告

「中韓経済協力の最近の状況と発展方向」中国社会科学院アジア太平洋研究所教授 韓鎮渉

司会 全南大学教授 曹在六

コメンテータ 経済学部教授 長野暹、木浦大学教授 崔南龍

・第3報告

「環黄海経済圏の形成と光州・全南地域開発戦略」全南大学地域開発学部教授 宗仁城

司会 全南大学教授 朴俊根

コメンテータ 朝鮮大学教授 呉成東、全南大学教授 鄭奇和、

全羅楠道議会議員 閔承淵、光州市議会議員 黄一牽

・総合討論

司会 全南大学教授 朴光淳

討論者 九州国際大学国際商学部教授 林一信、全南大学地域開発学部教授 宗仁城、

全南大学教授 鄭煥庸、全南発展研究院研究署長 柳鶴相、

光州市地域経済局長 宗光運、全羅南道地域経済局長 李官種

第5回(1994.07.03)『農産物市場開放体制下の農業問題』 会場:佐賀大学学生会館

・基調報告

「ウルグアイラウンド以後の韓国の農業の進路—対応方策の模索—」全南大学校教授 朴光淳

コメンテータ 経済学部助教授 長安六

「中国農産品貿易とその発展構造」中国社会科学院世界経済・政治研究所所長 谷源洋

コメンテータ 経済学部教授 長野暹

「GATT 農業合意と日本農業存続の方途—米・水田農業を中心に—」経済学部助教授 磯田宏

コメンテータ 全南大学校教授 朴俊根

・討論

第6回(1995.11.03)『国際化時代に向かう地方自治体の効率的な運営方策』 会場:韓国・光州市

・基調講演 「国際化時代における地方自治体の効率的な経営方法の模索—民間企業誘致を通じた地方工業団地の活性化方策—」 三星経済研究所副社長 李圭煌

・第1部会

「光州・全南地域の自治体の環黄海经济圈協力を通じた発展方向の模索」 全南大学教授 孫龍華
コメンテータ 朝鮮大学教授 吳成東、経済学部教授 村上英明、科学技術大学教授 曹勇

・第2部会

「現代日本における地域分権と地方自治」 教育学部助教授 田中豊治
コメンテータ 光州廣域市内務局長 鄭日杉、南京大学社会科学所長 董星

・第3部会

「日本の地方行政の現状と課題」 佐賀県副知事 木挽孝紀
コメンテータ 全羅楠道企画管理室長 金住炫、南京大学副総長 張永桃

・第4部会

「中国の市場経済区域化と地方政府の役割」 南京大学経済社会研究院長 洪銀興
コメンテータ 全南大学教授 姜太求、九州国際大学教授 林一信

・討論

第7回(1996.07.27)『地域開発とベンチャー企業の育成—産・官・学の新たな連携を展望しつつ—』 会場:佐賀大学

・報告

「佐賀県のベンチャー企業支援政策について」 佐賀県商工労働部長 押田努

「当行のベンチャービジネスの取り組みについて」 佐賀銀行取締役総合企画部長 富崎昭宏

「日本におけるベンチャー企業の育成について」 経済学部教授 原田宏

「韓国におけるベンチャー企業の活性化方策」 全南大学教授 梁彩烈

「北京市におけるハイテクベンチャー企業—その現状、問題及び発展—」

中国社会科学院世界経済・政治研究所教授 陳沙

第8回(1997.07.23)『21世紀へ向けた東南アジアの経済協力—とりわけ直接投資、技術発展、技術移転を中心に—』 会場:韓国光州市

・第1分科 「経済開発と地方政府」 司会:朝鮮大学教授 金安浩

「経済発展における地方自治体の役割—韓日中及び東南アジアの経験を中心に—」 全南大学教授 孫龍華

コメンテータ 南京大学国際商学院副院長 董星、インドネシア大学教授 Raksaka Mahi

・第2分科 「直接投資の経済効果」 司会:全南大学教授 朴光曙

「直接投資の経済効果と問題—日本の中小企業を中心に—」 経済学部教授 福島宏

「日中両国間の直接投資」 南京大学教授 劉厚俊

コメンテータ 経済学部教授 原田宏、ベトナム大学教授 Khu Thi Tuyet Mai

・第3分科 「自動車産業の経済協力」 司会:光州全南発展研究院博士 季建

「中国に対する自動車産業の現状と発展戦略」 産業研究院博士 李文炯

「韓国自動車産業の成長と国際競争力」 全南大学校教授 金泰琪

コメンテータ 全南大学校自動車研究所長 金榮吉、木浦大学校教授 季東信

・総合討論 「21世紀東南アジア経済協力」 司会:全南大学教授 朴光淳

コメンテータ 無等日報経済部長 崔謹休、南京大学教授 張鳳陽、経済学部教授 福島宏、

ベトナム大学教授 Khu Thi Tuyet Mai、インドネシア大学教授 Raksaka Mahi

第9回(1998.08.27)『大競争下における金融市場の諸問題—経済成長政策との関連で—』

会場:佐賀大学大学会館多目的ホール

・報告

- 「経済成長政策の総括とアジアの政策」 経済学部教授 飯盛信男
「韓国金融危機—分析と処方箋—」 全南大学経済学部副教授 丘在雲
「開放経済と金融自由下の中国の経済成長」 中国社会科学院世界経済・政治研究所副研究員 孫杰
「韓国金融危機の分析—原因とプロセス—」 全南大学経済学部助教授 鄭燐宇
「日本型金融ビックバンをどう読むか？」 経済学部教授 米倉茂

・コメントと討論

- 日本銀行佐賀事務所所長 山田恵一
コンケン大学農学部教授 ピッタシット・チャヤプチ
モナッシュ大学経済学部教授 ピヤダーサ・エディリスリーヤ

第 10 回(1999.10.14)『新しい政治による生活の質』 会場:韓国・全南大学校

・報告

- 「NGO による政府予算の監視」ゲミョン大学行政学部教授 Yoon Young-Jin
「日本政治の変容と新しい政治の可能性」経済学部教授 畑山敏夫
「医療における資源配分に対する医療保険制度の効果—薬の販売ルートにおける薬の濫用／過剰投
与と医療過誤にとつての意義」 全南大学経営学部助教授 Yang Chae-Yeol
「医療改革とすべての人にとつての健康の享受」 南京大学大学院副院長 童星

第 11 回(2000.10.06)『IT 革命と地域経済』 会場:佐賀大学大学会館多目的ホール

・報告

- 「地域社会のデジタル・ネットワーク化」経済学部助教授 安田伸一
「サイバー社会における企業財務に関する情報開示戦略」全南大学校教授 鄭溶基
「中国における情報技術・企業形成および経済発展」 中国社会科学院世界経済・政治研究所部長 王春法

・コメント

- 「ネットコムさが推進事業の現状について」 ネットコムさが推進協議会事務局長 西村龍一郎
中国社会科学院世界経済・政治研究所部長 季向、全南大学校教授 朴光曙、
経済学部教授 津田順司、同 富田義典

第 12 回(2001.11.01) “Any current issues regarding regional economy” 会場:韓国・全南大学校

・報告

- ” The Upgrading of the Functions of Chinese Urban Community Services : Meeting the
Challenge of the Economic Globalization “ 南京大学教授 Xing Tong
コメンテータ 経済学部教授 長安六
「有明海異変と地域社会」 経済学部教授 蔦川正義
コメンテータ 全南大学校教授 Koo Jae Un
“ Urban Transport Trends, Problems, and integrated Transport Policies for a Sustainable
Future in Gwangju, Korea “ 全南大学校教授 Jung Bong Hyun
コメンテータ 南京大学教授 Xiao-Hong Zhou

第 13 回(2002.09.28)『アジア経済における WTO の影響』 会場:佐賀大学大学会館多目的ホール

・第1部 報告

- 「WTO 体制と東アジア経済」 経済学部教授 飯盛信男
「WTO 下での東アジア諸国の地域主義」 全南大学校教授 朴慶錫

「中国の経済発展に対する WTO 加入の影響」 中国社会科学院世界経済・政治研究所副研究員 宋泓
「WTO とアジア発展途上諸国の展望」 ペラデニア大学教授 W.M.Tilakaratne

・第2部 コメント

農学部教授 白武義治、文化教育学部助教授 張韓模、JA 佐賀中央会参事 樋口勝年、
全南大学校教授 金泰基、北京工業大学助教授 顧力剛

・第3部 討論

第 14 回 (2003.10.24) ”Regional Development in Political, Economical, and Cultural Perspectives”

会場: 中国・南京大学

・第1部 報告

“Korea FDI (Foreign Direct Investment) into China: Evaluation and Suggestions”

全南大学 Prof. Seung-Jun Lee

コメンテータ 経済学部教授 福島宏

“The Rural Development in a Less Favored Area in Japan” 経済学部助教授 品川優

コメンテータ 南京大学 Prof. Yongtao Zhang

・第2部 報告

“The Strategic Preference of the Urbanization & Urban Modernization of Jiangsu in the
Territory of Changjiang Delta in the Early 21st Century” 南京大学 Prof. Hongyan Zhang

コメンテータ 全南大学 Prof. Gwang-Seo Park

21. 年報 第1号～15号、1989～2003年度

第1号(1990年3月)

- ・ 特集 学内特別研究『地域経済・社会計画の展開と計画策定手法に関する研究』
「アジアの経済と日本」経済学部講師 ラタナーヤカ・ピヤダーサ
「水資源開発における計画要素の変化」経済学部教授 蔦川正義
「地域内循環視点から見た佐賀農業の課題」経済学部助手 奥松安六
「佐賀県の陶磁器生産と伊万里焼」経済学部助教授 大矢野栄次
「統合化・多元化に向かう国産果実流通と産地再編についての若干の整理」経済学部講師 磯田宏
- ・ 地域に関する研究
「地方自治体の情報公開制度」経済学部助教授 村上英明
「ハンガリーの経済・労働事情」経済学部助教授 山田晋
「労働時間短縮問題についての意識調査」経済学部教授 石橋主税、同ゼミ生
「佐賀大学経済学部ゼミ生に関する報告」経済学部助教授 今久保幸生、同ゼミ生
「FA化における原価管理」経済学部教授 桑原幹夫、同ゼミ生
「経済発展とは何か」経済学部講師 ラタナーヤカ・ピヤダーサ ゼミ生

第2号(1991年3月)

- ・ 特集 学内特別研究『佐賀県における雇用・労働問題』
「佐賀県における労働時間短縮問題の動向(要約)」経済学部教授 石橋主税
「今日の最低賃金制をめぐる諸問題～佐賀県における事例を中心に～」経済学部教授 中原弘二
「佐賀県における女子労働者の雇用管理の現状」経済学部助教授 村上英明
「地域における雇用問題の現局面～九州西部を中心に～」経済学部助教授 富田義典
- ・ 特別寄稿 「佐賀市総合計画の策定を振り返って」佐賀市企画課長 小柳忠彦
- ・ その他 「大学院に関するアンケート調査結果」経済学部教育制度検討委員会

第3号(1992年3月)

- ・ 特集 学内特別研究『地域活性化をめぐる諸問題』
「九州における地域の活性化」九州経済調査協会調査研究部調査役 榎田裕一
「地域活性化と地場産業」経済学部助教授 大矢野栄次
「地域活性化と地域文化」教育学部教授 米倉利昭
「農業・農村問題と地域活性化」経済学部助教授 奥松安六
パネルディスカッション「地域活性化を考える」
- ・ 地域に関する共同研究
「今日のゴミをめぐる諸問題」久留米大学医学部講師 河内俊英、経済学部教授 蔦川正義
「ECの大学教育」経済学部助教授 山田晋
「戦前、佐賀県における朝鮮人労働者の『強制連行・強制労働』」経済学部研究生 金旻榮

第4号(1993年3月)

- ・ 特集 学内特別研究・日韓中学術交流シンポジウム『経済発展と経営理念』
基調講演「経済発展と経営理念～儒教思想を中心に～」全南大学教授 朴炯昊
パネルディスカッション「経済発展と経営理念～日本と韓国の経験～」
- ・ 国際学術共同研究『東アジアにおける日本と中国の経済的役割に関する研究』

第1次報告

「調査報告概要」 経済学部教授 長野暹

「中国における地域開発の若干の問題」 経済学部教授 蔦川正義

「中国社会主义市場経済における海外直接投資の動向」 経済学部助教授 ラタナーヤカ・ピヤダーサ

「中国における国営企業の改革と会計制度の変革」 経済学部助教授 水野一郎

・ 地域研究

「明治初年の貨幣財政問題の研究課題」 経済学部教授 長野暹

「資金的会計構造序説～県内商業高校及び佐賀大学における簿記・会計教育の問題点をてがかりとして」 鳥栖商業高校教諭 井上健史、経済学部助教授 木戸田力

「韓国のFAの現状と課題」 経済学部研究生 呉銀澤

・ 経済学研究科修士課程設置記念講演

「21世紀を展望する九州の活性化」 東京海上研究所理事長 下河辺淳

第5号(1994年3月)

・ 特集 佐賀地域経済研究会報告『佐賀県の人口問題～21世紀への対応～』

「わが国の人口動態」 佐賀県企画調整主査 北側正博、佐賀市企画調整課長 北川修

「佐賀県の人口問題と住みたい県づくり」 佐賀県企画調整主査 北川正博

「佐賀市の人口問題と県都づくり」 佐賀市企画調整課長 北側修

「唐津市の人口問題と街づくり」 唐津市企画課長 差益正友

「鳥栖市の人口問題」 鳥栖市企画課長 篠原正孝

「多久市の人口問題」 多久市企画課長 蒲原鉄也

「伊万里市の人口問題」 伊万里市総務部次長 多久島隆

「武雄市の人口問題」 武雄市企画情報課長 古川弘安

「鹿島市の人口問題と交流都市づくり」 鹿島市企画課長 井出口馨

「人口問題～21世紀への対応～」 経済学部助教授 長安六

・ 国際学術共同研究『東アジアにおける日本と中国の経済的役割に関する研究』

第2次報告

「調査報告概要」 経済学部教授 長野暹

「上海;1993年秋」 経済学部教授 古賀公治

「中国四川省の経済発展と農村工業についての一考察」 経済学部教授 長野暹

「中国における国営企業の改革と会計制度の変革(2)～1992年度中国現地調査を基礎にして～」

経済学部助教授水野一郎

・ 地域研究

「福岡高齢者保険福祉計画」 経済学部助教授 山田晋、福岡市民生局福祉部福祉計画課 久富一芳

「『企業会計原則』と会計測定構造～地域における商業科教育の視点から～」

経済学部助教授 木戸田力、杵島商業高校教諭 田代孝

第6号(1995年3月)

・ 特集 日韓中学術交流シンポジウム『農産物市場開放体制下の農業問題』

「ウルグアイランド以後の韓国農業の進路～その対応方策の模索～」 全南大学教授 朴光曙

「GATT農業合意と日本農業存続の方途」 経済学部助教授 磯田宏

「中国の農産品貿易とその発展構想」 中国社会科学院世界経済政治研究所所長 谷源洋

・ 国際学術共同研究『東アジアにおける日本と中国の経済的役割に関する研究』

第3次報告

「'94年度調査報告概要」 経済学部教授 長野暹

「華南印象記～1994年9月～」 経済学部教授 古賀公治

- ・ 共同研究『近年の『教育改革』と高等学校教育～個性尊重の教育と高度情報化社会に対応しうる人材の育成を目指して～』
コメント「問題解決の糸口を求めて」 経済学部助教授 木戸田力
「高等学校の教育改革～商業教育を中心にして～」 鳥栖商業高等学校教諭 岸川公紀

第7号(1996年3月)

- ・ 特集 日韓中学術交流シンポジウム『国際化時代に向かう地方自治団体の効率的な運営方策』
「国際化時代における地方自治体の効率的な経営方法の模索～民間企業誘致を通じた地方工業団地の活性化方策～」 三星経済研究所所長 李圭煌
「光州・全南地域の自治体の環黄海経済圏協力を通じた発展方向の模索」 全南大学教授 尊龍華
「現代日本における地方分権と地方自治」 教育学部助教授 田中豊治
「日本の地方行財政の現状と課題」 佐賀県副知事 木挽孝紀
「中国の市場経済区域化と地方政府の役割」 南京大学経済社会研究院長 洪銀興、科学技術大学教授 曹勇
- ・ 地域研究
「工場閉鎖と労働組合～三井鉱山タイル有田工場問題の調査ノートから」 経済学部助教授 富田義典
- ・ 共同研究『地域における高等教育の実践と簿記・会計～40年にわたる商業教育の精髓～』
コメント「商業教育の方法ないし技術の定式化の必要性」 経済学部助教授 木戸田力
「地域における商業教育の現在と未来～40年にわたる地域教育の経験を基礎として～」
鳥栖商業高等学校教諭 相村一郎

第8号(1997年3月)

- ・ 特集 日韓中学術交流シンポジウム
『地域開発とベンチャー企業の育成～産・官・学の新たな連携を展望しつつ～』
「日本におけるベンチャー企業の育成について」 佐賀県商工労働部長 押田努
「佐賀県のベンチャー企業支援策」 佐賀銀行取締役総合企画部長 富崎昭宏
「佐賀銀行のベンチャービジネスへの取り組みについて」 経済学部教授 原田宏
「韓国におけるベンチャー企業の活性化方策～財務的観点から～」 全南大学教授 梁彩
「北京市におけるベンチャー企業～課題と展望～」
中国社会科学院世界経済政治研究所教授 陳沙、同講師 高海紅
- ・ 共同研究
「大型店の出店と中小小売商～佐賀県東部地区の影響と対応に関わらせて～」
経済学部助教授 磯田宏、同 宮崎卓朗
「県都佐賀市の食と農をめぐる問題」 経済学部助教授 長安六

第9号(1998年3月)

- ・ 特集 日韓中・国際学術交流シンポジウム「21世紀へ向けた東南アジアの経済協力
～とりわけ直接投資、技術発展、技術移転を中心に～」
「経済発展における地方自治体の役割－韓日中及び東南アジアの経験を中心に－」 全南大学教授 孫龍華
「直接投資の経済効果と問題－日本の中小企業を中心に－」 経済学部教授 福島宏
「日中両国間の直接投資」 南京大学教授 劉厚俊
「中国に対する自動車産業の現状と発展戦略」 産業研究院博士 李文炯
「韓国自動車産業の成長と国際競争力」 全南大学教授 金泰琪
- ・ 地域に関する共同研究
「佐賀県におけるベンチャー企業の財務と会計」 経済学部教授 水野一郎、同助教授 藤田晶子
「地域社会の情報化へ向けた試み」 経済学部助教授 安田伸一

- ・ トヨタ財団研究助成共同研究

『農産物の多重的“地産地消”システムによる持続的なアジア農業・農村の構築に関する実証的研究

—佐賀における取組みのアジア的適用—』

「シンポジウムの課題と国際共同研究の構成」九州国際大学教授 長野暹

「スリランカ独立後の米の生産と自給について」サバラガムワ大学学長 J.W.D. ソマスンダラ

「バングラデシュ農村の生産・流通活動における NGO の役割」農業大学社会科学部学部長 ハンナン・ブイヤン

「タイ北部農村における持続的農業と支援組織—Mae Tha 村と Nong Tao 村の事例を中心に—」

チュラロンコン大学経済学部助教授 カノムサイ・コウテブ

「中国社会主義市場経済における食糧自給の動向について」社会科学院世界経済政治研究所教授 劉振邦

「韓国における有機農業の経験—ハン・マ・エン共同体を事例に—」全南大学農学部教授 朴俊根

「日本における直売所を中心とした農産物自給の取組みについて—七山村「鳴神庄」を中心に—」

経済学部助教授 長安六

第 10 号(1999 年3月)

- ・ 特集 日韓中・国際学術交流シンポジウム『大競争下における金融市場の諸問題～経済性調整策との関連で～』

「経済成長政策の総括とアジアの政策」経済学部教授 飯盛信男

「韓国金融危機～分析と処方箋～」全南大学副教授 丘在雲

「開放経済と金融自由下の中国の経済成長」中国社会科学院世界経済政治研究所副研究員 孫杰

「韓国金融危機の分析～原因とプロセス～」全南大学助教授 鄭燦宇、同教授 金永龍、同 鄭奇和

「日本型ビックバンをどう読むか？」経済学部教授 米倉茂

コメント 日本銀行佐賀事務所長 山田恵一、コンケン大学農学部教授 ピッタシット・チャヤプティ、

モナッシュ大学教授 ピヤダーサ・エディリスーリヤ

- ・ 地域に関する共同研究

「佐賀市における地方分権への取組み～佐賀市議会議員に対する意識調査～」

経済学部教授 村上英明、経済学研究科生 古賀直

「地域経済の構造変化についての研究～高齢化、情報化などによる影響～」経済学部教授 田川正二郎他

「国際化・ソフト化・高齢化のなかの地域課題と地域再生への展望」経済学部教授 蔦川正義 他

「地域創造～新しい地域主体の形成～」文化教育学部教授 田中豊治

第 11 号(2000 年3月)

- ・ 特集 日韓中・国際学術交流シンポジウム「新しい政治による生活の質」

「NGO による政府予算の監視」韓国・ゲミョン大学行政学部教授 Yoon Young-Jin

「日本政治の変容と新しい政治の可能性」経済学部教授 畑山敏夫

「医療における資源配分に対する医療保険制度の効果—薬の販売ルートにおける薬の濫用／過剰投与

と医療過誤にとつての意義」韓国・全南大学経営学部助教授 Yang Chae-Yeol

「医療改革とすべての人にとつての健康の享受」中国・南京大学大学院副院長 童星

- ・ 地域に関する共同研究

「不況下の地域経済」経済学部教授 飯盛信男、経済学部助教授 長安六、磯田宏、中西一

「近世初頭における佐賀平野の水利事業に関する研究」経済学部教授 宮島敬一、

経済学部助教授 神山恒雄、農学部教授 半田駿、佐賀郡大和町教育委員会 松本隆昌

「佐賀県小売業の構造分析(要旨)」経済学部教授 岩永忠康、

本学大学院経済学研究科 篠原明子、久留米大学大学院比較文化研究科 山 裕二

“The Situation of Women in Revitalizing Agriculture and Community Life in Saga

Prefecture” スリランカ・コロombo大学準教授 Ramanie Jayatilaka

第12号(2001年3月)

- ・ 地域に関する共同研究
 - 「佐賀地域における経済・社会及び教育の総合的研究～わが国近代化に先駆的役割を果たした時代の佐賀地域～」 経済学部助教授 木戸田力、佐賀西港当学校教諭 家永国広、久留米商業高校教諭 江頭彰
- ・ 地域政策大講座講義『NPO論』
 - 「現代社会とNPO」経済学部助教授 塚本一郎
 - 「地域づくりとNPO」経済学部教授 長安六
 - 「七山村における地域づくり」佐賀県七山村村長 岡本研一
 - 「農業協同組合の実践と社会的意義(その1)～協同組合の経済的正確と日本の農協～」 経済学部助教授 磯田宏
 - 「農業協同組合の実践と社会的意義(その2)～21世紀にむけた農業協同組合～」
福岡県農業協同組合中央会地域振興部長 高武孝充
 - 「WTO体制下の生活協同組合事業とその意義」農学部助教授 白武義治
 - 「食べ物・環境・福祉～協同」グリーンコープ生協さが専務理事 伊藤正樹
 - 「福祉社会とNPO」経済学部助教授 塚本一郎
 - 「高齢者協同組合の挑戦」日本労働者協同組合連合会副理事長 中田宗一郎
 - 「自治体行政とNPO」経済学部助教授 塚本一郎
 - 「むらおこしとNPO」フォーラム鹿島代表世話人 土井敏行

第13号(2002年3月)

- ・ 特集:公開講座「市民参加のまちづくり」
 - 「『まちづくり』ってなんだーさまざまなテーマや参加者を整理するー」 経済学部教授 蔦川正義
 - 「市民参加の時代とその背景」 経済学部教授 畑山敏夫
 - 「市民参加型のまちづくりー多様な実践例に学ぶー」 経済学部教授 長安六
 - 「希望としての地方自治ー私の体験的・地方自治・まちづくり論ー」 福岡県自治体問題研究所 宮下和裕
 - 「公民協働による中心市街地のまちづくり実践報告ー学生・住民・行政のパートナーシップー」
岐阜経済大学教授 鈴木誠
- ・ 日韓中・国際学術交流シンポジウム
 - 「第12回日韓中・国際学術交流シンポジウム報告記」 経済学部教授 山下寿文

第14号(2003年3月)

- ・ 特集 公開講座「規制緩和時代における社会的諸問題への対応」
 - 「総論:規制緩和下の暮らしと自治」 経済学部教授 蔦川正義
 - 「環境問題:法的規制と自主規制」 経済学部助教授 榎澤秀木
 - 「証券・金融緩和:金融構造改革と自己責任」 経済学部教授 米倉茂
 - 「大型店問題:大型店の出店自由化とまちづくり」 経済学部教授 濱内繁義
 - 「地方自治:地方分権下の行政と住民自治」 経済学部教授 村上英明
- ・ 地域に関する共同研究
 - 「佐賀県の自治体における財務情報開示の現状と課題ー県および7市の事例ー」 経済学部教授 山下寿文

第15号(2004年3月)

- ・ 地域に関する共同研究
 - 「低所得世帯に対する国民健康保険税の賦課状況～佐賀市・佐賀郡を例に～」 経済学部助教授 丸山浩介
 - 「景品・懸賞付販売及びオープン懸賞の実態と独禁法の諸問題」経済学部助教授 岩本論、経済学研究科生 左達
 - 「佐賀小売業の構造分析」 経済学部教授 岩永忠康、経済学研究科生 楊海洋
- ・ 科学研究費・初年度現地調査レポート

「アジアにおける農業の近代化の地域社会的影響と持続可能な発展方向の模索的研究事例」

経済学部教授 長安六

22. 調査研究報告書 1997年～ ()内は発行年

No.1「佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ開催に伴う経済効果の調査」(1997) 経済学部教授 福島宏

No.2「有機堆肥の需要に関する調査研究報告書」(1998)

経済学部教授 長安六、同 ラタナーヤカ・ピヤダーサ、農学部助教授 染谷孝

No.3「佐賀大学の廃棄物対策—他の事業所と比較して—」(1999) 経済学部助手 池田智子、同助教授 中村博和

No.4「伊万里市における農産物の地域自給について—生産者及び消費者に対するアンケート調査分析」

(1999) 経済学部教授 長安六

No.5「佐賀県小売業の構造分析」(1999) 経済学部教授 岩永忠康、経済学研究科生 篠崎明子、同 山崎裕二

No.6「市民参加型のまちづくりとは何か—佐賀市の取組み事例発掘から考える—」(2000)

経済学部教授 蔦川正義、同 畑山敏夫、同 長安六

No.7「市民参加型のまちづくりとは何か—佐賀市の市民ワークショップの事例から考える—」(2001)

経済学部教授 蔦川正義、同 畑山敏夫、同 長安六

No.8「高齢社会と地域経済の諸問題—地域経済・社会の変化に関する多角的研究—」(2001)

経済学部教授 福島宏、同 富田義典、経済学部助教授 塚本一郎、同 石田道彦

No.9「中心商店街の実態調査報告—佐賀市と長崎市の比較分析—」(2002) 経済学部教授 岩永忠康

No.10平成の市町村合併問題研究会報告」(2003) 経済学部教授 濱内繁義 他

No.11「中原町観光資源利活用調査報告」(2004)

経済学部教授 長安六、同 岩永忠康、経済学部助教授 山本長次、農学部助教授 五十嵐勉、

理工学部助教授 三島伸雄、文化教育学部助教授 山下宗利、経済学部助手 池田智子

No.12「公開講座：有機農業の意義と展望—今なぜ有機農業が見直されているのか—」(2005)

第1回「自然農法の試み」 農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターセンター長 田中欽二

第2回「有機農産物の流通」 農学部教授 白武義治

第3回「生ごみを宝に」 NPO 法人伊万里はちがめプラン理事長 福田俊明

第4回「佐賀における有機農業の現状と課題」 佐賀県農業法人協会特別理事 横尾文三

第5回「有機農業の今後の展望—本講座のまとめにかえて—」 経済学部教授 長安六

No.13「佐賀県内の商業高校における簿記会計教育の現状と課題」

経済学部教授 山下寿文、佐賀商業高校教諭 中島淳、同 北島直幸

No.14「トレーサビリティ・システムの現状と課題—佐賀を事例として—」 経済学部助教授 品川優、同 羽石寛志

No.15「アジアにおける農業の近代化と地域社会的影響と持続可能な発展方向の模索的事例研究(上)」(2004)

「農業生産の近代化とオールタナティブ—日本・スリランカ・タイの事例調査から—」 経済学部教授 長安六

「農産物流通の現状と課題—佐賀とコンケンの事例から—」 経済学部教授 岩永忠康

「地域発展に果たす農業生産組織の影響—総合農協と農民協同組合の比較研究Ⅱより—」 農学部教授 白武義治

「スリランカにおけるマハヴェリ川総合開発の展開過程」 農学部助教授 五十嵐勉

「タイ東北部における共有地をめぐる研究の動向と課題」 農学部助教授 五十嵐勉

「スリランカ農村における地域開発の若干の考察」 放送大学佐賀学習センター所長 蔦川正義

“Socioeconomics Impact of Samanala Wewa Dam on the Regional Economy of Sri Lanka:

A Study on kaltota Village” 経済学部教授 ラタナーヤカ・ピヤダーサ

No.16「ウォッチング佐賀報告書」(2004)

「願正寺の歴史あれこれ」 願正寺前住職 熊谷勝

「刑事施設と受刑者の処遇—刑務所見学のためのガイドランス—」 経済学部教授 勝藤彦

- No.17「アジアにおける農業の近代化の地域社会的影響と維持可能な発展方向の模索的事例研究(下)」(2005)
「嘉瀬川流域における農産物流通の実態」 経済学部教授 岩永忠康
「農産物直売所が地域農業に果たす役割」 農学部教授 白武義治
「タイ東北部における農業の近代化と持続的農業」 経済学部教授 長安六
“Agriculture and Agribusiness in Nampong Watershed Area, Northeast Thailand”
タイ・コンケン大学教授 Preeda Praperchob
「マハウェリ川流域開発による灌漑水利システムの再編と水資源管理—システムC・パハラヤックレ村を事例に—」 農学部助教授 五十嵐勉
“Impact of Samanala Wewa Dam on the Regional Economy of Sri Lanka:
A Study of the Kaltota Scheme” 経済学部教授 Piyadasa Ranayake
- No.18「旧大和紡績佐賀工場の経営史的研究」(2005) 経済学部助教授 山本長次
- No.19「佐賀県中心市街地活性化プロジェクト その1—現地調査のまとめ」(2005) 経済学部教授 長安六
- No.20「佐賀県内の自治体における地域課題に関する調査報告書」(2006) 経済学部教授 岩永忠康
- No.21「平成19年度出前講座 in 鳥栖 講演集」(2007)
「『フラット化』時代における地域・空間」 経済学部准教授 戸田順一郎
「新聞記事に見る有明海・諫早湾」 経済学部教授 榎澤秀木
「鳥栖市における企業誘致」 経済学部准教授 山本長次
- No.22「平成20年度出前講座 in 鳥栖 講演集」(2008)
「総選挙！どうなる消費者行政とわたしたちの消費生活」 佐大経済学部教授 岩本諭
「日本茶のルーツを訪ねて～日本茶栽培発祥の地は佐賀にあり～」
吉野ケ里町地域まちおこしグループさざんか塾塾長 多良正裕
「クライマックスをむかえたサブプライム問題」 佐大経済学部教授 米倉茂
「鳥栖市制の発足と企業誘致」 佐大経済学部准教授 山本長次
- No.23「『食』と『器』の地域づくり事業評価報告書(2008) 経済学部教授 長安六
- No.24「人口減少社会における社会資本整備の在り方に関する研究」(2009)
「人口減少期における持続可能都市構築の課題」
理工学部教授 外尾一則、低平地研究センター 猪八重拓郎
「街なかの空き屋や空き地の有効活用を目的とした行政、市民団体、不動産業者等からなるネットワーク構築の可能性に関する調査研究」 経済学部教授 長安六、同准教授 戸田順一郎
「中山間・離島地域における人口減少問題と社会資本整備手法に関する調査研究」
農学部教授 五十嵐勉
「大規模集客施設をはじめとする郊外開発の規制誘導に関する研究—進出企業の閉店・撤退を踏まえた土地利用規制の在り方の検討—」 経済学部教授 濱内繁義、同 岩永忠康
- No.25「佐賀県小売業の構造分析」(2009) 経済学部教授 岩永忠康

23. Mail No.1～51、1990～2002年度

紙媒体で日常業務のお知らせ Mail を隔月で発行。一面に教員による話題提供を掲載した。

- No.1(1990.07.02)「MAIL 誕生」 経済学部助教授 奥松安六
- No.2(1990.09.01)「アメリカ旅行の一感想」 経済学部助教授 大矢野栄次
- No.3(1990.11.01)「タイバーン・チケット」 経済学部助教授 富田義典
- No.4(1991.01.04)「経済発展と民主政体」 経済学部助教授 ラタナーヤカ・ピヤダーサ
- No.5(1991.03.01)「伝統的な雰囲気にもまれた佐賀」 経済学部研究生 李毅
- No.6(1991.05.10)「資本主義はどうなる？」 経済学部教授 中原弘二

- No.7(1991.07.01)「佐賀経済調査協会の設立 10 周年を向かえて」(財)佐賀経済調査協会 松尾英明
- No.8(1991.09.02)「馬鹿が時短でやってくる」経済学部助教授 山田晋
- No.9(1991.11.01)「小川島のふるさと農園構想について」経済学部助教授 奥松安六
- No.10(1992.01.06)「私と東京」教育学部講師 山下宗利
- No.11(1992.03.02)「佐賀の思い出」経済学部研究生 金旻榮
- No.12(1992.05.11)「以后請多多関照！」経済学部助教授 水野一郎
- No.13(1992.07.02)「今、佐賀市は、やっています！」佐賀市企画課長 荒木義信
- No.14(1992.09.01)「ハウステンボスという街」経済学部教授 蔦川正義
- No.15(1992.11.02)「文化・技術の伝播と元寇」経済学部助教授 大矢野栄次
- No.16(1993.01.18)「日本人と日本語」経済学部講師 朱保牟
- No.17(1993.03.01)「成るか、環境基本法」経済学部助教授 一之瀬高博
- No.18(1993.05.06)「本当に、金融恐慌はくるのか？」経済学部教授 濱内繁義
- No.19(1993.07.01)「環境問題と会計」経済学部助教授 藤田晶子
- No.20(1993.09.01)「地方経済と新聞報道」朝日新聞社佐賀支局長 江上泰
- No.21(1993.11.01)「電力・ガス会社の「政治献金」」経済学部助教授 大久保憲章
- No.22(1994.01.10)「工作機械工業史雑感」経済学部助教授 幸田亮一
- No.23(1994.03.01)「意外な結果とその教訓」経済学部助教授 中村博和
- No.24(1994.05.04)「酒ディスカウンターの功罪」経済学部助教授 宮崎卓朗
- No.25(1994.07.01)「インサイダー取引と法的責任」経済学部助教授 楠元純一郎
- No.26(1994.09.01)「心の隙間」経済学部講師 中山泰道
- No.27(1994.11.01)「ジャンクフード Junk Food」経済学部助教授 磯田宏
- No.28(1995.01.10)「私が見た中国社会主義市場経済と人々の動き」経済学部助教授 ラタナーヤカ・ピヤダーサ
- No.29(1995.05.08)「英国こぼれ話～ベアリングの倒産に寄せて～」経済学部教授 楊枝嗣朗
- No.30(1996.05.13)「エコノミスト、アナリスト、ストラテジスト」経済学部教授 原田宏
- No.31(1996.11.13)「政策転換を急げ!!」経済学部教授 古賀公治
- No.32(1997.07.04)「廃棄物問題」経済学部助手 池田智子
- No.33(1997.10.02)「公正な政治の実現へ」経済学部助教授 井上亜紀
- No.34(1998.01.12)「コンピュータ教育事始」経済学部教授 宮澤慎介
- No.35(1998.05.11)「有明の海の底深く……」経済学部助教授 平地一郎
- No.36(1998.09.14)「賢明な消費者であるために(1)」経済学部助教授 岩本諭
- No.37(1999.02.18)「賢明な消費者であるために(2)」経済学部助教授 岩本諭
- No.38(1999.05.26)「みちのくノスタルジー」経済学部教授 富田義典
- No.39(1999.09.20)「あの頃のフィリピン」経済学部教授 福島宏
- No.40(2000.02.04)「三空間併存の時代の環境政治」経済学部教授 畑山敏夫
- No.41(2000.05.02)「会計ルールが人を動かす」経済学部助教授 大石桂一
- No.42(2000.08.07)「ミレニアムを迎えて」経済学部教授 米倉茂
- No.43(2000.11.15)“Opening ours eyes - a week to remember” 経済学部助教授 Chrys Ray
- No.44(2000.11.29)「感動と発見の1週間」経済学部助教授 クリスティース・レイ/訳・経済学部教授 楊枝嗣朗
- No.45(2001.01.22)「借金棒引きの経済学」毎日新聞社論説委員 北村龍行
- No.46(2001.03.30)「日本語は難しいか……」経済学研究科生 Ibrokhim Rizkiyev
- No.47(2001.06.04)「倒錯と転回」経済学部助教授 丸田起大
- No.48(2001.09.19)「タイで学んだこと～タイ農村の実態調査を通じて～」経済学研究科生 鹿毛理恵
- No.49(2001.10.15)「(財)佐賀経済調査協会設立 20 周年に当たって思うこと」(財)佐賀経済調査協会 北村一義
- No.50(2002.02.04)「最近の会計ブームについて考える」経済学部教授 山下寿文
- No.51(2002.05.13)「シカゴ大都市圏のはずれの大学町 Dekalb」経済学部教授 納富一郎

◆◇◆ センター組織・センター委員会 ◆◇◆

・1989 年度

センター長:石橋主税 センター次長:蔦川正義 センター主事:奥松安六
調査研究部主任:蔦川正義 教育開発部主任:大矢野栄次 情報サービス部主任:常盤洋一
センター助手:池田智子、西岡恵子
センター運営委員:桑原幹夫、大矢野栄次、常盤洋一、村上英明

・1990 年度

センター長:石橋主税 センター主事:奥松安六
調査研究部主任:蔦川正義 教育開発部主任:大矢野栄次 情報サービス部主任:常盤洋一
センター助手:池田智子、磯田恵子
センター運営委員 田川正二郎、古賀和文、杉本幸生、木戸田力

・1991 年度

センター長:石橋主税 センター主事:奥松安六
調査研究部主任:蔦川正義 教育開発部主任:大矢野栄次 情報サービス部主任:常盤洋一
センター助手:池田智子、磯田恵子
センター運営委員 大矢野栄次、鷹巣信孝、ラタナーヤカ・ピヤダーサ、桑原幹夫

・1992 年度

センター長:石橋主税 センター主事:奥松安六
調査研究部主任:蔦川正義 教育開発部主任:大矢野栄次 情報サービス部主任:常盤洋一
センター助手:池田智子、松本和子
センター運営委員 米倉茂、大久保憲章、中村博和、柄尾晶子

・1993 年度

センター長:石橋主税 センター主事:奥松安六
調査研究部主任:濱内繁義 教育開発部主任:宮崎卓朗 情報サービス部主任:時政勲
センター助手:池田智子、松本和子
センター運営委員 濱内繁義、山田晋、上山和俊、幸田亮一

・1994 年度

センター長:古賀公治 センター主事:長安六
調査研究部主任:濱内繁義 教育開発部主任:中村博和 情報サービス部主任:安田伸一
センター助手:池田智子、大石和子
センター運営委員 濱内繁義、山田晋、上山和俊、幸田亮一

・1995 年度

センター長:古賀公治 センター主事:長安六
調査研究部主任:濱内繁義 教育開発部主任:中村博和 情報サービス部主任:安田伸一
センター助手:池田智子、大石和子
センター運営委員 神山恒雄、一之瀬高博、生川聡、水野一郎

・1996 年度

センター長:古賀公治 センター主事:長安六
調査研究部主任:濱内繁義 教育開発部主任:中村博和 情報サービス部主任:安田伸一
センター助手:池田智子、大石和子
センター運営委員 宮島敬一、一之瀬高博、安田伸一、水野一郎

・1997 年度

センター長:蔦川正義 センター主事:長安六
調査研究部主任:福島宏 教育開発部主任:中村博和 情報サービス部主任:安田伸一
センター助手:池田智子、大石和子
センター運営委員:宮島敬一、岩本諭、安田伸一、松尾陽好

・1998 年度

センター長:蔦川正義 センター主事:長安六
調査研究部主任:福島宏 教育開発部主任:中村博和 情報サービス部主任:安田伸一
センター助手:池田智子、大石和子
センター運営委員 松尾陽好、塚本一郎、古賀和文、福島宏、岩本諭

・1999 年度

センター長:蔦川正義 センター主事:長安六
調査研究部主任:福島宏 教育開発部主任:山本長次 情報サービス部主任:安田伸一
センター助手:池田智子、大石和子
センター運営委員 岩永忠康、塚本一郎・納富一郎、濱内繁義、福島宏、岩本諭

・2000 年度

センター長:蔦川正義 センター主事:長安六
調査研究部主任:福島宏 教育開発部主任:山本長次 情報サービス部主任:安田伸一
センター助手:池田智子
センター運営委員 岩永忠康、納富一郎・中西一、神山恒雄、安田伸一、岩本諭

・2001 年度

センター長:蔦川正義 副センター長:長安六
調査研究事業部主任:濱内繁義 社会連携事業主任:村上英明 情報化事業部主任:安田伸一
センター助手:池田智子
センター委員:岩永忠康、中西一、神山恒雄、安田伸一、岩本諭

・2002 年度

センター長:蔦川正義 副センター長:長安六
調査研究事業部主任:濱内繁義 社会連携事業主任:村上英明 情報化事業部主任:安田伸一
センター助手:池田智子
センター委員 岩永忠康、猪飼周平、ラタナーヤカ・ピヤダーサ、常盤洋一、岩本諭

・2003 年度

センター長:長安六 副センター長:山本長次
調査研究事業部主任:岩永忠康 社会連携事業主任:村上英明 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員:大坪稔、猪飼周平、濱内繁義、常盤洋一、丸谷浩介

•2004 年度

センター長:長安六 副センター長:山本長次

調査研究事業部主任:岩永忠康 社会連携事業部主任:樫澤秀木 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員 大坪稔、猪飼周平、濱内繁義、常盤洋一、丸谷浩介

•2005 年度

センター長:長安六 副センター長:山本長次

調査研究事業部主任:樫澤秀木 社会連携事業部主任:岩永忠康 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員 木戸田力、猪飼周平、濱内繁義、常盤洋一、小西みも恵

•2006 年度

センター長:長安六 副センター長:山本長次

調査研究事業部主任:樫澤秀木 社会連携事業部主任:岩永忠康 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員:木戸田力、飯盛信男、濱内繁義、常盤洋一、小西みも恵

•2007 年度

センター長:長安六 副センター長:山本長次

調査研究事業部主任:樫澤秀木 社会連携事業部主任:岩永忠康 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員:山形武裕、飯盛信男、濱内繁義、常盤洋一、小西みも恵

•2008 年度

センター長:長安六 副センター長:山本長次

調査研究事業部主任:樫澤秀木 社会連携事業部主任:岩永忠康 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員:山形武裕、飯盛信男、濱内繁義、常盤洋一、小西みも恵

•2009 年度

センター長:長安六 副センター長:戸田順一郎

調査研究事業部主任:岩永忠康 社会連携事業部主任:山本長次 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員:山形武裕、飯盛信男、古賀和文、常盤洋一／中村博和、小西みも恵

•2010 年度

センター長:長安六 副センター長:戸田順一郎

調査研究事業部主任:岩永忠康 社会連携事業部主任:山本長次 情報化事業部主任:安田伸一

センター助手:池田智子

センター委員:松尾陽好、飯盛信男、古賀和文、上山和俊、中山泰道

